公立大学法人　滋賀県立大学

スチューデントファーム

「近江楽座」

まち・むら・くらしふれあい工舎

2022年度　活動報告書

近江楽座＝学生らしさを生かして、地域に学び、育ち、貢献できる場　をめざしています

はじめに

新たな 20 年に向けて

新年早々今年の行く末が不安になる出来事が起こった。しかしこんな時こそ日頃から公共、地域の中で活動している経験や姿勢が生かされる時である。今私は、2011 年東北で起きた震災の地域を巡って、復興後の多くのまちを訪れている。思い返してみると、当時近江楽座に取り組んでいた学生たちの中から震災直後から被災地域への支援の意思が湧き上がっていた。それまでは身近な地域課題に取り組んでいた学生たちにとって、ボランティアという言葉は大きかった。しかし多くの難題を乗り越えて往復 1200km にも及ぶ地域との交流が始まり、物理的、精神的に被災者に寄り添っていく活動が始まった。学生たちと被災地域との交流は日常を取り戻すまで 10 年以上続いた。学生たちが過ごした被災地域の風景の記憶は巨大な防潮堤によって今は無い。しかし新しい日常が戻っている。地域活動のゴールはこれでいいのかもしれない。地域の静かな日常がこれからも続くことを願いたい。その後学生たちの活動の幅は海外にも向けられるようになり、自然災害への支援や、人権に関する支援にまで及ぶようになっていった。

振り返って見たい。2004 年文部科学省が立ち上げた現代的教育ニーズ取組支援プログラムへの採択に向けて準備が始まった。滋賀県立大学が目指したのは、学生が主体になって地域課題に取り組みながら地域から学び成長して行くプログラムの枠組みだった。すでに開学以来「キャンパスは琵琶湖」とキャッチフレーズを掲げ、学外でのフィールドワークで学んできた学生たちにとってはそれほど珍しく新たな枠組みでもなかった。いわば自然に取組が開始できる内容だった。第 2 代学長西川幸治、教員・事務職員は奥貫隆を筆頭に松岡拓公雄、濱崎一志、近藤隆二郎、久保田貢らの尽力で計画が練り上げられた。この計画が文部科学省の現代 GP 初年度に採択されたことで「近江楽座」の助走が始まった。この名前の由来を再確認したい。近江が発祥となった楽市楽座の仕組みを大学教育のプラットフォームに取り入れたのである。楽市とは規制が緩和された自由な状態を言う。楽座とは閉鎖的な独占された環境での活動を自由にオープンにすることだった。座という大学が授業や単位制度から開放されてキャンパスという囲まれた環境から飛び出して活動するという現代版・楽市楽座を大学でやってみようというわけだ。その後 3 年間の補助事業としての助走が過ぎ大学独自の自己資金による取組に引き継がれて行った。地域教育のミッションは 2 代学長から 6 代理事長まで引き継がれてきた。2012 年には皇太子殿下(現天皇陛下）が大学に行啓されて近江楽座の学生たちの活動を視察された。そしてこれまで 20 年間で述べ 448 プロジェクト、述べ 10000 人の学生が活動に参加し、多くの公的な褒章を受けてきた。学生たちは地域人として成長し社会で活躍している。そして学生たちを育ててきた地域も共に成長している。

未来に向けて学び成長している学生たちの地域活動は、自分たちの未来への貢献でもある。将来暮らす地域、コミュニティを自分たちの手で紡ぎ、先人たちの財産を継承して行く活動なのである。地域活動に終わりはない。変化や進化、スピードは求めてはいない。新たな年の活動に向けてこれまでの 20 年をトレースしてみてはどうだろう。恒久的、持続的であることが地域活動の極意である。

2023 年 12 月

近江楽座専門委員会委員長
印南比呂志
（人間文化学部 生活デザイン学科）

目次

はじめに 1

1 近江楽座について 5

1-1 近江楽座とは 6
1-2 プロジェクト区分 7
1-3 プロジェクトの採択について 8
1-4 事業の実施 10

2 各プロジェクトからの活動報告 11

2-1 活動実績報告 12
2-2 『らくざしんぶん』 54

3 共通プログラムの報告 61

3-1 活動の安全確保のためのスキルアップ講座 62
3-2 中間報告会「地域活動の今を考える」 64
3-3 活動成果報告会 67

4 学生有志活動 71

4-1 近江楽座合同説明会 72
4-2 キャンパス SDGs week 交流会参加＆活動展示 73
4-3 B プロジェクト
「県営開出今団地コミュニティ再生プロジェクト」 74

5 その他トピックス 75

5-1 京都新聞福祉奨励賞受賞 76
5-2 2 年ぶり 喫茶営業再開 77
5-3 地域博物館の開設や教育普及活動の展開 78

6 情報発信 79

6-1 ホームページ、リーフレット、キャンパスガイド 80

7 付録 81

7-1 プログラム推進メンバー 82
7-2 メディア掲載一覧 83
7-3 近江楽座・活動安全マニュアル 85
7-4 お知らせ 89

1 近江楽座について

1-1 近江楽座とは

滋賀県立大学の「近江楽座」は、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」を目的とする学生主体のプロジェクトを募集、選定し、全学的に支援する教育プログラムです。

2004 年度に文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム (現代 GP)」に採択され、2006 年度までの 3 年間の活動実績が大学発地域貢献の先進的な取組として学内外で高く評価されました。そして、翌 2007 年度からは大学独自の予算を用いてプログラムを継続し、2022 年度までの 19 年間で延べ 426 のプロジェクトが地域と連携した活動を展開しています。

教育効果を高め、大学と地域の連携を深めるための3つの目標

■ 地域の課題に学生・大学が取り組み、地域の活性化に向けて共に活動する。

■ 学生が地域の方々と一緒に活動することにより、学内だけでは学べないことを体験する。

■ 大学と地域が共同して、よりよい地域づくり・人づくりにつながるしくみをつくる。

3つのサポートシステム

近江楽座専門委員会・学生委員会・近江楽座事務局（地域共生センター）の連携の下、3 つのサポートシステムにより、全学的に活動を推進しています。

■ 活動助成システム

「近江楽座」として選定されたプロジェクトの事業計画に基づき、活動に必要な事業費を審査し、助成します。

■ コンサルティングシステム

教員の指導･助言に加え、行政や専門家の紹介、各種講習会の開催など、学生がプロジェクトを進めていくために必要なコンサルティングを行います。

■ 活動情報の発信・共有システム

中間報告会や活動報告会で活動の成果を共有・発信するとともに、ホームページや SNS、パブリシティなどにより活動の情報発信をサポートします。

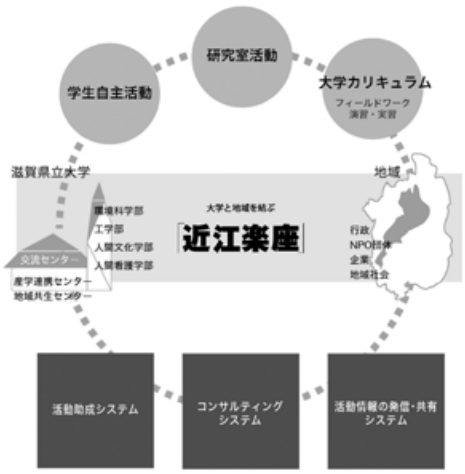
＜3つのサポートシステム＞

活動情報の発信・共有システム
中間報告会や活動報告会で活動の成果を共有・発信するとともに、ホームページやＳＮＳ、パブリシティなどにより活動の情報発信をサポートします。

コンサルティングシステム
教員の指導・助言に加え、行政や専門家の紹介、各種講習会の開催等、プロジェクト進行に必要なコンサルティングを行います。

活動助成システム
選定したプロジェクトの事業計画に基づき、活動に必要な事業費を審査し、助成します。

＜サポートシステム概念図＞



1-2 プロジェクト区分

2007 年度より、「地域活性化への貢献」をテーマに学生主体の地域活動を行う「A プロジェクト(学生主体型プロジェクト)」に加え、自治体や企業等から提示された課題について、学生主体のプロジェクトチームを結成し活動する「B プロジェクト（地域協働型プロジェクト)」がスタートしました。

A プロジェクト（学生主体型プロジェクト）

SDGs の視点を踏まえ「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動を 3 つの区分で募集し、支援するプロジェクトを選定しています。

①継続プロジェクト

過去に近江楽座の助成を受けたことがあるプロジェクト。

②新規プロジェクト

近江楽座の助成を受けたことがないプロジェクト。

③ S プロジェクト（2011 年度～）

近江楽座でのこれまでの実績をもとにステップアップを目指し、活動資金の助成を必要としない自立したプロジェクト。（上位 senior、特別 special の S）

B プロジェクト（地域協働型プロジェクト）

自治体や企業、団体等から依頼のあった課題について、「近江楽座」として取り組むテーマを設定し、学生主体のプロジェクトを募集します。学生チームにはテーマに対する企画提案を求め、採択されたチームは、指導教員と地域共生センターが支援し、依頼先と共同で取り組みます。

Aプロジェクト（学生主体型プロジェクト）

SDGsの視点を踏まえ「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動プロジェクト

- ①継続プロジェクト
  - ③Sプロジェクト（2011年度より開始）活動資金の助成を必要とせず、これまでの実績をもとにステップアップを目指す取組
- ②新規プロジェクト

Bプロジェクト（地域協働型プロジェクト）

学生が主体となって取り組むのがふさわしい自治体や企業等から提示された課題に、学生チームが依頼先と協働で取り組むプロジェクト（2007年度より開始）

1-3 プロジェクトの採択について

プロジェクト募集期間

A プロジェクト
日　時：2022 年 4 月 26 日（火）～ 5 月 16 日（月）

2022 年度は、SDGs の考え方や取組を地域や社会に広げていくとともに、特に地域から始める無駄なエネルギー削減（省エネ）や意識醸成など、地球温暖化防止、CO2 ネットゼロ社会の実現に貢献する活動についてアイデアを求めた。

応募件数

A プロジェクト　24 件
・継続プロジェクト 21 件
（うち S プロジェクト1件）
・新規プロジェクト 3 件

プロジェクト審査

A プロジェクト「プレゼンテーション・審査会」
日　時：2022 年 5 月 28 日（土）
場　所：講義棟　A7-101
内　容：プレゼンテーション（プレゼンテーションシートによるプロジェクト説明）および質疑応答（1チーム 7 分（発表 4 分＋質疑 3 分））、審査（非公開）

選定委員（順不同　敬称略）：

○ 滋賀県立大学 地域連携担当理事
地域共生センター長　髙橋滝治郎
○ 滋賀県立大学人間文化学部 教授　佐藤亜聖
○ 株式会社 イチダ 取締役
（彦根商工会議所青年部副会長）　本庄寛
○ グラフィックデザイナー　角真央
○ 滋賀県立大学人間文化学部 教授
近江楽座専門委員会 委員長　印南比呂志

採択および採択通知

A プロジェクト
日　時：2022 年 6 月 2 日（木）
通知方法：近江楽座ホームページおよび学生ホール掲示板にて通知

採択件数

A プロジェクト　21 件
・継続プロジェクト 20 件
（うち S プロジェクト1件）
・新規プロジェクト 1 件

活動説明

A プロジェクト
日　時：2022 年 6 月 6 日（月）12:30 ～ 13:00
場　所：交流センター　研修室 1 ～ 3
内　容：採択プロジェクト代表者に対する審査会講評、活動全般にあたっての注意事項、事業計画、会計処理等の進め方に関する説明会

追加募集

CO2 ネットゼロ社会の実現に貢献する学生活動を創出・拡大するため、追加募集を次のとおり行い、1 プロジェクトが採択された。

募集期間:2022 年 6 月 29 日(水) ～ 7 月 13 日(水)
1 件の応募があった。
審　査：2022 年 7 月 20 日（水）18:00 ～ 18:40
リモートで 1 件がプレゼンを行い、本庄寛氏を除く 4 名の選定委員が審査を行った。
結果発表：2022 年 7 月 25 日（月）
応募プロジェクト 1 件を採択した。

<プレゼンテーション・審査会　スケジュール>

時間	発表順	区分	採択年数	チーム名	プロジェクト名
9:30～9:35	はじめの挨拶				
9:35～10:31	1	継続	16年（2005年～）	フラワーエネルギー「なの・わり」	フラワーエネルギー「なの・わり」
	2	継続	6年（2016年～）	座・沖島	座・沖島
	3	継続	18年（2004年～）	とよさと快蔵プロジェクト	とよさと快蔵プロジェクト
	4	継続	16年（2004年～）	ボランティアサークルHarmony	障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト
	5	継続	13年（2005年～）	廃棄物バスターズ	廃棄物バスターズ
	6	継続	12年（2010年～）	おとくらプロジェクト	おとくらプロジェクト
	7	継続	1年（2021年～）	沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト	沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト
	8	継続	1年（2021年～）	竹林GAKU	犬上川竹林整備プロジェクト
10:31～10:40	休憩				
10:40～11:36	9	継続	1年（2021年～）	お山さんありがとさん	お山さんありがとさん
	10	継続	18年（2004年～）	Taga-Town-Project	Taga-Town-Project
	11	新規		三津屋大家族	三津屋町地域再生プロジェクト
	12	継続	9年（2013年～）	政所茶レン茶゛ー	政所茶レン茶゛ー
	13	継続S	13年（2009年～）	あかりんちゅ	あかりんちゅ
	14	新規		リソーズ	日夏里かがやけプロジェクト
	15	継続	1年（2021年～）	県大ラジオ部	県大ラジオ部
	16	継続	11年（2011年～）	滋賀県大生き物研究会	内湖の再生と地域の水辺コーディネート
11:36～11:45	休憩				
11:45～12:41	17	継続	4年（2018年～）	Jesuit House Project	Jesuit House Project
	18	継続	18年（2004年～）	未来看護塾	未来看護塾
	19	新規		むらやし与那紀行	むらやし与那紀行
	20	継続	6年（2016年～）	BAMBOO HOUSE PROJECT	BAMBOO HOUSE PROJECT
	21	継続	1年（2021年～）	男鬼プロジェクト	男鬼プロジェクト
	22	継続	10年（2012年～）	かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPIG BEAUTY-	かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPIG BEAUTY-
	23	継続	10年（2012年～）	スチューデント・キュレイターズ	地域博物館プロジェクト
	24	継続	13年（2009年～）	とよさらだプロジェクト	とよさらだプロジェクト
12:41～12:45	終わりの挨拶				

13:15～14:30	審査会

<プレゼンテーションの様子>

1-4 事業の実施

新型コロナウイルス感染症の影響下３年目にあたる 2022 年度は、活動制限を受けることがなくなり、各プロジェクトとも感染防止対策を図りながら地域での活動の幅を徐々に広げっていった。ここ数年の With コロナの実践の中で、試行錯誤しながらコロナ禍とは思えないような成果や新たな工夫も数多く行われてきている。一方、地域での経験や学生同士のつながりをつくることが充分にできないため、メンバー不足による引継ぎが課題となり、長年続いてきた活動を終了するプロジェクト（とよさらだプロジェクトと Taga-Town-Project）が出てきている。他、採択されたもののメンバーが少人数であり継続的な活動が困難なため、活動を休止する変更計画を申請し、近江楽座専門員会で承認されたプロジェクト（お山さんありがとさん）もある。

このような課題を受け、プロジェクト間のつながりや活動ノウハウ、経験、学びの共有を目的に行っている中間報告会では、新たな試みとして先輩をゲストとして招き、助言を受けたり、情報交換を行った。先輩を交えた情報交換は、最後の成果報告会でも同様に行った。その他、活動の安全管理を重点化し、近江楽座の活動安全マニュアル＜プロジェクト共通事項 編＞（85 ページ参照）を作成した。各プロジェクトについても、活動のリスク安全マニュアルを作成してもらうようにした。

令和４年度の事業実施日程は下表のとおりである。

＜ 2022 年度の事業実施日程＞

日程	行事
4 月 15、18、19 日	プロジェクト説明会
4 月 20～22 日	2021 年度活動成果報告会開催
4 月 26 日～5 月 16 日	プロジェクト募集
5 月 28 日	令和４年度プレゼンテーション・審査会
6 月 2 日、6 日	審査結果発表＜21 プロジェクト採択＞、活動説明会・プロジェクト活動開始
6 月 28 日、7 月 15 日	スキルアップ講座「危機対応講習」開催
6 月 29～7 月 13 日	プロジェクト追加募集
7 月 20 日、25 日	追加募集プレゼンテーション・審査会、結果発表＜1 プロジェクト採択＞
10 月 17 日	代表者会議（第１回）
10 月 17～19、24、25 日	助成金中間ヒアリング
11 月 2 日	専門委員会（第１回）
11 月 5～11 日	キャンパス SDGs week 交流会（5、6 日開催、２チーム参加）、パネル展示（ホワイエ、13 チーム出展）
12 月 5 日	代表者会議（第２回）
12 月 14～16 日	中間報告会開催
3 月 1～3、7 日	助成金最終ヒアリング
3 月 15 日	活動実績報告提出

2 各プロジェクトからの活動報告

2-1 活動実績報告

Ⓢ 01 あかりんちゅ 12
02 内湖の再生と地域の水辺コーディネート. 14
03 とよさと快蔵プロジェクト 16
04 障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト 18
05 地域博物館プロジェクト 20
06 フラワーエネルギー「なの・わり」. 22
07 廃棄物バスターズ 24
08 政所茶レン茶゛― 26
09 BAMBOO HOUSE PROJECT. 28
10 とよさらだプロジェクト 30
11 犬上川竹林整備プロジェクト 32
12 日夏里かがやけプロジェクト 34
13 かみおかべ古民家活用計画 –SLEEPING BEAUTY- 36
14 おとくらプロジェクト. 38
15 未来看護塾 40
16 沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト. 42
17 Taga-Town-Project 44
18 座・沖島 46
19 男鬼プロジェクト 48
20 県大ラジオ部 50
21 CEBU PARIAN PROJECT. 52

Ⓢ：S プロジェクト

次ページ以降のチームデータについて
補足説明

※近江楽座活動年度について
：不参加
：参加
を示しています

※メンバー数は、活動に関わった学生の総数です。

01 あかりんちゅ

エコでスローな夜を

お寺などから使えなくなったろうそく、「残ろう」をいただき、それを再利用してリサイクルキャンドルを作り、キャンドルナイト、キャンドル作り教室、キャンドル販売などを行っています。自分たちで運営資金をまかない、独自予算で活動している唯一のSプロジェクトです。

TEAM DATA

チーム名： あかりんちゅ
代表者： 市榮梨佳子（環境科学部）
メンバー数： 19名
指導教員： 平山奈央子（環境科学部）
活動場所： 学内、彦根市、滋賀県内 他
関係団体： 滋賀教区浄土宗青年会
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT　実施事業

(1) キャンドル作り体験教室@三井アウトレットパーク

(2) 湖風祭

(3) にちようびの寺子屋

(4) 八幡堀まつり
★見出し写真：八幡堀まつりの様子（10/23）

(5) 井伊直政公銅像ライトアップキャンドルナイトイベント

(6) 新入生向けクラブ紹介

(7) 彦根工業高校生、彦根中央中学校生への活動紹介

(8) ヨシフェス

(9) 愛荘町にてキャンドル作り体験、キャンドルナイト

キャンドルナイトの様子（02/24）

(10) 毎日地球未来賞への応募

(11) 作品展示@喫茶おとくらギャラリー輪々

(12) 廃ろう回収、ティーライトキャンドル製造委託、キャンドル製作

1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度は主に①コロナ禍で疎遠となった地域の方々との関わりの再構築、新たな関わりの構築、②メンバーが活動内容を理解しきれていないまま活動している、③活動目的である「電気を消してリサイクルキャンドルを灯して過ごす『エコでスローな夜』を広めること」を実行できていない、といった三点の課題に着目して活動をすすめた。

①に関しては、先輩からコロナ禍前のあかりんちゅの活動についてお聞きし、これまでの関係を整理することができた。そして、ここ数年関わっていなかった団体にこちらから連絡を取ったり、あかりんちゅの活動をより多くの人に知ってもらえるよう毎日新聞社主催の地球未来賞への応募を試みた。②は、まず代表があかりんちゅの活動内容を整理し理解することから始めた。具体的には7月にはティーライトキャンドルの製造委託をさせてもらっている社会福祉法人グロージョブカレを訪れ、実際の製造の様子を見学し、キャンドルナイトを実施するまでの行程を理解した。その後、比較的メンバーの参加率が高いイベントの準備中等に後輩に話かけ、少しずつ活動内容を理解してもらうよう努めた。③は、役職を持っているメンバーが「エコでスローな夜を」について地域の方やイベント参加者一人一人に説明するように心がけることから始めた。

代表や副代表、会計に加えて、ジョブカレ担当、広報、記録、といった様々な役職を2回生と3回生で作成した。分担して作業することで、活動が大学生活で負荷のかかりすぎないものになると同時に、あかりんちゅのメンバーとして自覚し行動する学生が増えたように感じる。学年の垣根を超えた活動の振り返りや、2回生の意見を活動に取り入れる場面も多かったため、チームとしての一体感も出すことができた。しかし、活動に意欲的に参加するメンバーに偏りがあることは現在も課題であり、引続き考えていく必要がある。

活動を通して学んだこと （抜粋）

私はアルバイトの経験がないが、あかりんちゅの活動で、顔見知りでない子どもたちやその親御さんと関わることができ、サービスを提供する側としてどのように声をかけたり、行動したりすれば良いのかを学ぶことができた。

桐山千晴（生活栄養学科 1 回生）

今年度は、湖風祭やアウトレットモールでのキャンドルづくり体験教室など、地域の人と関わる機会が多くあった。活動を通して、多くの人の温かさに触れ、コミュニケーションをとることの重要性を学んだ。来年度も地域の方とのつながりを大切にし、活動していきたいと思う。

岩垣日奈子（人間関係学科 2 回生）

湖風祭でのキャンドルづくり体験教室に参加し、たくさんの地域の方々と交流できる良い機会となった。今まで小さい子どもと関わる機会が少なかったが、あかりんちゅでの活動を通してどのようにコミュニケーションを取るべきか学ぶことができ、喜んで帰る姿を見ると嬉しい気持ちになった。あかりんちゅを支えてくださる地域の方々に感謝し、キャンドルの良さについて広めていきたいと思う。

青谷玲乃（環境政策・計画学科 2 回生）

地域からのコメント （抜粋）

令和 4 年度彦根商工会議所青年部 サステナブル委員会委員長
泉了樹郎さん
（井伊直政公銅像ライトアップキャンドルナイトイベントの共催者）

彦根商工会議所青年部の活動として開催させて頂いたイベント『Hikone Work Academy ～語り合おう SDGs ～』に代表の市榮さんにご参加頂いたことをきっかけに、コラボレーションを行う構想が生まれ、準備を重ね、令和 4 年 12 月 18 日に彦根駅前西口広場でキャンドルナイトイベントを実施しました。廃ロウソクを再利用して作るロウソクの灯りは、彦根駅前を通る人々に暖かな光と癒しを与えてくれました。出店や LIVE も行い彦根駅前を盛り上げることが出来たこと、大変嬉しく思っています。『あかりんちゅ』の皆様には、とても寒い中、準備から片付けまでご協力頂き、本当に有難うございました。

指導教員より （抜粋）　環境科学部　平山奈央子

まずは、3 つの課題を明示して活動を進めたことが良かったと思います。特に、この活動に関わるお寺や福祉作業所など地域の皆様との関わりを再構築できるよう努めたことは良かったと思います。大学生のグループは毎年構成員が変わるので、COVID-19 とは関係なく地域の方との継続的な関係性を維持することが難しい時もあると思います。最近2～3年は対面での活動制限にともない、お世話になっている皆様とのコミュニケーションが難しかったと思います。その様な状況を少し改善する道筋が見えたのではないでしょうか？

また課題の2つ目については, これまでの活動を引き継いできたのでなんとなくキャンドルナイトを開催してきたメンバーもいたかもしれません。今年は少し立ち止まり、「あかりんちゅ」として大事にしたいことや活動開始当初の団体の思いに触れることで、今の活動を見直す機会になったと思います。さらに、団体内での役割分担や学年の垣根を超えたコミュニケーションが組織運営や活動そのものにいい影響を与えたことと想像します。活動に対する士気に温度差があるのはある程度仕方のないことかもしれませんが、それが団体の活動に悪影響を与えない様、工夫できるといいですね。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

- 活動安全マニュアルを作成
- 感染防止対策の徹底
- SNS での情報発信
- ワークショップでのテーブル間の仕切り

DELIVERABLE　成果物／制作物

キャンドル

02 内湖の再生と地域の水辺コーディネート

水辺の多様な生き物に触れる

滋賀県立大学の内外には多様な自然環境が存在し、魅力あふれる生物が生息しています。希少な生物を調査・保全することや外来生物の駆除などを通して地域の生態系を保全することをめざしています。地域の方々に向けた観察会も行っています。

TEAM DATA

チーム名： 滋賀県大生き物研究会
代表者： 松本優（環境科学部）
メンバー数： 27 名
指導教員： 浦部美佐子（環境科学部）
活動場所： 学内、彦根市 他
関係団体： 彦根市愛西土地改良区
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT 実施事業

(1) 大学内外生物相調査

学内の貝類調査（05/10）

(2) 外来生物駆除
★見出し写真：神上沼へ投網の様子（08/22）

(3) 小学生向けプランクトン観察会

観察会の様子（07/30）

(4) ビオトープ作成協議会参加

(5) 彦根工業高校リモート授業

(6) 湖風祭出展

1 年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

この１年間の活動を通して得られたものとして最も大きなものは、活動の幅を広げられたことである。これまでの活動では、投網を用いた外来魚（オオクチバス，ブルーギル）の駆除に終始しており、その他の生物に知識・経験を持った学生が在籍していても活かすことができていなかった。しかし、植物や水生生物の調査、害獣駆除などを取り入れたことで多くの1回生が入部し、活動に参加してくれた。それぞれが違う対象に興味を持っているため、お互いに学び合い、見識を深められたことは大きな成果と言える。また、今まで行っていない活動であっても大学の授業での経験や学生の持つ知識を総動員すれば実行できることを示した。

この活動の中で最も大きな課題は、在籍するメンバーの専門知識に依存する活動は継続が難しいことである。今年度の活動においては、水生昆虫、プランクトン、害獣駆除などがあるが、特に害獣駆除には狩猟免許が必要となる。これらの活動を無理に続ける必要はないと考えている。その時々の生き物研究会の色を見せられれば良いのではないだろうか。

近江楽座として地域に貢献するという前提からは離れてはいけない。最も継続しやすく、地域に還元できる活動として外来魚の駆除がある。投網やたも網を用いた採集は、比較的容易であるので、この活動を生き物研究会の軸に据え、参加者から好評をいただいた観察会や採集の体験、外来魚駆除を目的とした釣り大会などを実施できないか新代表を中心に新 3 回生が話し合っている。

活動を通して学んだこと

一年間を通して、実際に身近な自然に触れて、植物、魚、昆虫、鳥など、様々な生きものについての理解を深めた。自分は魚や一部の昆虫にしか知識が無かったのだが、研究会に所属したことで、より広いジャンルの生きものの知識を身につけ、特に魚については以前よりも、より細かな分類まで出来るようになった。

宇野一樹（環境生態学科１回生）

大学のサークルに初めて参加したが、この小さなグループでも様々な人がいることを知った。毎回テーマの違う活動を、それぞれ興味のある生物が違ったりする人同士で行うことはとても良い機会であると考える。興味の幅を広げる、好きな物をさらに突き詰める等の成長に繋げられたら良いと思う。

大関佑弥（生物資源管理学科３回生）

動植物を問わずさまざまな生き物について表面的ではあるが広く知識を得ることができた。その中で、ある特定の生き物について知るためには、その生き物を取り囲むほかの生物についても知ることが重要であると実感した。興味を持ってこなかった生物についても学んでいこうと思う。

畑中顕（環境生態学科３回生）

地域からのコメント（抜粋）

彦根市男女共同参画センター「ウィズ」　鑑 継さん

親子夏のチャレンジ「びわ湖に棲む小さな生き物発見！プランクトンの世界をのぞいてみよう!?」を、生き物研究会の皆さんのご協力のもと開催でき、大変うれしく思います。最初は、プランクトンで応募者があるのだろうか…などの不安はありましたが、応募開始からあっという間に予想を上回る申し込みがあり、子どもたちの理科離れが加速している昨今に、生物に興味がある子どもがたくさんいることにホッとしました。 講座では、顕微鏡の使い方や微生物などをわかりやすく解説していただき、改めて興味や知識を深める貴重な体験ができたと思います。また、プランクトンを顕微鏡で発見したときの嬉しそうな子どもたちの顔を見ることができ、主催者としても大変うれしい出来事でした。

指導教員より（抜粋）

環境科学部　浦部美佐子

コロナへの対策もやや一段落をしたところで、地域での活動を拡充したことは大変評価できると思います。特に、彦根市のビオトープ作成協議会へ学生団体として参加を許可されたことは、環境保全のために学生の意見を聞こうという市の期待の表れであると思います。会としてしっかりその期待に応え、今後も後輩たちが継続して同様の役割を果たせるよう、良い前例となることを期待したいと思います。

狩猟免許をもつ学生が入部したため特定外来生物である哺乳類の駆除を行なったことは初めての試みです。哺乳類や鳥類の取扱については外来生物法のほか、動物愛護法や家畜伝染病予防法などの知識が必要になり、取扱者の安全のため人畜共通感染症についても知らなければなりません。また、わな等の設置に関しては事前に大学施設課や設置場所近くの学部の教員に連絡し、トラブルのないように充分配慮してください。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

- 基本的な活動はすべて屋外であったが活動時にはマスクを着用
- 道具は可能な限り共有せず、一人につき一つ使用

DELIVERABLE　成果物／制作物

「関西のトンボ」資料

「滋賀県立大学で見られる珪藻」資料

03 とよさと快蔵プロジェクト

空き家を改修してまちづくりをしよう！

豊郷町に残っている空き家や蔵を学生の発想を生かして改修し、リノベーションを行うことで町を元気にしていこうと活動しています。古民家の改修だけにとどまらず地域のイベントへの参加やイベント企画、蔵を改修した Bar 運営など幅の広い活動を行っています。

TEAM DATA

チーム名： とよさと快蔵プロジェクト
代表者： 尾崎梨帆（人間文化学部）
メンバー数： 97 名
指導教員： 迫田正美（環境科学部）
活動場所： 滋賀県犬上郡豊郷町
関係団体： NPO 法人とよさとまちづくり委員会
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT　実施事業

(1)　たく庵改修事業
★見出し写真：改修の様子（09/12）

(2)　ワークショップ事業

小物づくりワークショップの様子（11/27）

(3)　タルタルーガ営業

タルタルーガ営業（02/10）

(4)　町のイベントへの参加

(5)　個展「快蔵のおすそわけ」

(6)　古着リメイク「redon」の確立

1 年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度は主に、昨年度から引き続き取り組んでいるコミュニティスペース「たく庵」の改修、新たな取組みである WS 事業、タルタルーガの営業、イベントへの参加などの活動を行いました。これらの活動から、町の方と交流する場面も増え、昨年より密な関係を築ける事ができたと感じます。改修の最中に声をかけられ応援の声をいただくことやタルタルーガの営業の中で活動のアドバイスをいただくこともありました。このような経験から、私たちの活動は町とともに活動しているのだと感じる事ができました。

一方で、学生が町の中に入って活動していることに対して嫌な思いをされている方もいるということを学びました。そのことの原因としては、道具の管理方法や活動の情報共有ができていないなどが挙げられました。改めて、私たちの活動は町の中に入らせていただき、活動をさせてもらっているという意識を忘れずに、道具の管理や周りに対して活動の説明や理解が得られる取組をする必要があると感じました。

WS 事業を通して、町との交流する場所や機会は以前よりも増えましたが、まだまだ私たちが他にどのような活動をしているのか、町の方が私たちにどのようなことを求めているのかなど、お互いに知らないことがたくさんあると感じました。そのために来年度は、改修・WS・タルタルーガそれぞれの部門で活動するのではなく、全体的に関わりを持ちつつ、連続性を感じることのできる活動にしていく必要があると思いました。地域の方とより密接にお互いに意見交換ができる関係にあれば、町の方のニーズを知ることや活動に対するアドバイスをいただくことにつながると思います。とよさと快蔵プロジェクトが 19 年もの間長く続いてきたのは、たくさんの方にご協力いただき、学生と町の方がお互いに歩み寄り一から関係を築いてくださったおかげです。20 年という節目に、新たに関係を再構築することで、町の方と一緒にまちづくり活動を行っていきたいと感じています。

活動を通して学んだこと

私は去年よりコロナ禍の影響が減ったこともあり、この一年はより濃い経験が出来ました。特に BAR タルタルーガでの地域の方々とのコミュニケーションを通して、意見交換の大切さを学びました。違う立場、考え方の話を聞くことで解決策や課題点を発見する事ができました。

河野麗（環境建築デザイン学科２回生）

１年間活動を通して、主体的に活動する楽しさを学びました。何事もやってみることが大切であり、課題や苦労もあるが、それを上回る楽しさがあるということに気づく事ができました。１年間を通して、新しく発見し、成長できる活動ができ、人生の中でかけがえのない経験になったと感じます。

尾崎梨帆（生活デザイン学科３回生）

たくさんの人との交流の大切さを実感した。先輩後輩、近所の農家さん、バーの常連さん、町の人。大学の講義だけでは関わる機会のない人たちからたくさん話を聞き、アドバイスをもらった。あらゆる立場の意見を知る事ができたし、角度を変えて物事を考えるようになるきっかけになったと感じた。

小林翔生（環境建築デザイン学科２回生）

豊郷町でのまちづくり活動を通して、地域活性化を成し遂げるには、そこに住む人たちの幸せが必要であり、逆にまちの人の幸せには地域活性化が必要である相互関係があると学びました。その一環で、まちの空き家を交流の場にすることなどへの意義を理解し、活動できたことを誇りに思っています。

築山銀冬（環境建築デザイン学科３回生）

地域からのコメント

NPO 法人とよさとまちづくり委員会 副理事長
岡村博之さん

まだまだ活動制限が続く中、今年も豊郷町に通い続けてくれた快蔵メンバーに感謝します。地域ではコロナ禍の中、何をするにも難しくなり、自粛や辞めて行く事が多くなり、やりたくても気力も人材集めも出来なくなってきているのが現実です。

そんな中、吉田地域の真ん中にあるたく庵は、地域の人が様々な要素で集える場所として、町や地域がやるべき事を、率先して行って頂き、町に与える影響はもちろん、町外の方からの問い合わせもあります。また各地区の事業や会議の運営には欠かせない存在です。皆さんの活動は、地域に住む若い人にも影響があり、この町に戻る人が目に見えて増えてきています。こんな環境下の中でも変わらない活動を続けて、地域に無くてはならない存在になった快蔵メンバー、その活動を支え頂いている滋賀県と滋賀県立大学の皆さまに感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。

指導教員より

環境科学部　迫田正美

新型コロナウイルスへの感染対策が緩和されていく中で、少しずつ新たな活動も開始したことはとても良かったと思う。3 月 13 日をもってマスクの着用等についても緩和されていくことになるが、快蔵の活動は室内での多人数での活動も多いこともあり、引き続き感染予防に関する個々の注意が大切になってくるので、特に感染弱者の方々への思いやりを忘れずに活動してほしい。ウィズコロナの期間の活動制限が長く続いたため、できなかったこと、失われてしまったこともあろうかと思うが、焦らず、徐々に本来の活動へと移行できるように心がけてほしい。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

- 危機対応マニュアルを作成
- 大人数での改修活動は人数を分散して実施
- タルタルーガでは、マスクの着用、消毒液の常備、距離を一定に保つなどの対策
- 個人で活動できる作品の制作（個展）による活動の認知
- 毎月の定例会におけるリモートの併用

DELIVERABLE　成果物／制作物

「快蔵のおすそわけ」マップ

＜その他成果物＞
「たく庵」改修
古着リメイク「redon」

04 障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト

モットーは「無理なく、楽しく！」

障がいを有する人と学生が互いに成長することを目的に、NPO法人障害者の就労と余暇を考える会メロディーの支援活動を行っています。活動を通じて、障がい児・者を支える地域づくりを推進することも目指しています。

TEAM DATA

チーム名： ボランティアサークル Harmony
代表者： 池山理帆（人間文化学部）
メンバー数： 20名
指導教員： 中村好孝、杉浦由香里（人間文化学部）
活動場所： 学内他
関係団体： NPO法人障害者の就労と余暇を考える会 メロディー
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT　実施事業

(1)　定例活動

定例活動の様子（04/23）

(2)　クリスマスコンサート
★見出し写真：クリスマスコンサート開催（11/19）

(3)　「愛郷の森」日帰り旅行

旅行の様子（09/17）

(4)　学習会

(5)　定例会議

(6)　グッズ制作

(7)　作品展

1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

新型コロナウイルスの影響は昨年度よりも小さくなりましたが、それに関わる課題は未だ残り続けています。障がいのある方と接する以上、Harmonyの感染対策緩和は他団体に比べてやや難しいといえます。それでも私たちは、20年積み上げてきたノウハウと活動をつないでいくために、「今出来ることは何か」と考えながら工夫を重ねてきました。例えば今年度は、メロディー理事長の藤堂さんと指導役の後藤先生に直接お話していただく機会を設け、昨年度の懸念点であったメンバー内でのノウハウ共有（子どもへの接し方・活動に対する姿勢など）を達成することができました。その甲斐あってか、はじめは活動参加に抵抗を示していたメロディーの新メンバーも、今では徐々に打ち解けて参加できるようになってきました。また、定例活動で制作した油絵作品でグッズを作り、生協ショップで販売することや、図書館一階エントランスで展示を行うことで、学内でHarmonyの知名度向上にも取り組みました。3月には滋賀県立美術館での展示も行い、より多くの方にHarmonyの活動を知って応援してもらえることを期待しています。

このように私たちは、行動制限が残る中でも、アフターコロナに向けた提案を行動に移してきました。20年に渡るこの継続力が高く評価・期待され、今年度は京都新聞福祉奨励賞も受賞しました。これはHarmonyにとってとても名誉なことであり、大きな励みとなりました。

今後の課題としては昨年度同様、長らく中止になっている茶道やお泊り会等の引き継ぎがあげられます。活動が満足にできなければノウハウが自然消滅してしまうだけでなく、学生のモチベーション低下にもつながるため、人員確保の面でもデメリットが生じるといえます。そのため私たちは、状況に応じた活動を引き続き提案し、その時できることを最大限の力で実行し続けていきたいと考えています。

活動を通して学んだこと

障害を持つ方々と接する機会が多く、どこかで自分はきちんと対応ができる方だと思っていました。しかしハーモニーの活動を通して、今まで関わったことのない障害を持った方と接することが多くなりました。それぞれの性格や障害の重度が異なるため、彼ら一人ひとりに合うように接し方や声のかけ方を変えることが非常に大切だということを学びました。

髙田夏千（生物資源管理学科１回生）

障害をもった人にもコミュニケーションが取りやすい人とそうでない人、よく動き回る人とおとなしい人がいたりして、活動内容は同じでも接し方は一人ひとりの個性に合わせていくことが大事だということが分かった。

中村幸輝（機械システム工学科３回生）

活動を通じて、障がいのある人達と関わる楽しさと、難しさを感じた。自分がサークルに入った時には、Harmony の方針はガッチリ決まっており、それに則って活動をするだけだったのでかなり楽に活動が出来た。このおかげで、最初、自分は上手く活動が出来ていると錯覚していたが、よくよく考えてみると、自分が気楽に出来ているのは今までの先輩達の試行錯誤によって出来た活動の基盤があるからだということに気づいた。2 年では、新たな事に挑戦したりするなど、自分なりの工夫をサークル内でしていきたい。

三富晃希（材料科学科１回生）

地域からのコメント

NPO 法人障害者の就労と余暇を考える会メロディー
原由紀子さん

今年度を振り返って一番に思う事は、油絵の活動に対して、息子がものすごく意欲的になった事だと思います。最初の頃は絵を描くのが苦手だという事もあって、すぐに席を立ってしまっていましたが、今では最後までしっかり座って、キャンバスに絵を描く事が出来るようになりました。ハーモニーの学生さんも、押し付けたり強要したりすることなく、側で見守っていてくれるので、いつも安心して活動に参加させてもらっています。また、油絵を描かせてもらう経験も、学生の方と関われる事も、日常の生活の中ではなかなか出来ない事だと思っているので、本当に有り難く思っています。

今後のハーモニーに期待する事は、福祉に興味を持ってくれる人が一人でも増えてくれる事です。若い学生さんがハーモニーに参加する事で、少しでも福祉について考えるきっかけになってくれたら、障害を持つ子の親として、こんなに嬉しい事はないと思っています。

指導教員より

人間文化学部　中村好孝

今年度も充実した活動だった。京都新聞社会福祉事業団から「京都新聞福祉奨励賞」もいただいた。ここ数年こういうことが続いているのでちょっと感覚が麻痺しているかもしれないが、大いに誇って良いと思います。メロディーをはじめとする地域の方々、バトンをつないできたOBOGにも感謝申し上げます。茶道体験やクリスマスコンサートなど、新型コロナ感染症の影響で中止や停滞していた活動が、徐々に再開できるようになりつつある。クリスマスコンサートの来場者数はたしかに回復していないが、今年度はともかく対面開催できたことだけで十分だと思った。同時に、その期間に新たに進化してきたこと（Zoom での定例会議など）もある。これからも継続は力なりでちょっとずつ進化していってほしい。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

- 活動安全マニュアルを作成
- 感染防止対策の徹底
- マスクが着用できない子については、あらかじめ保護者に体調等を確認し、参加できそうだと判断した場合は許可
- 定例活動：創作活動（油絵・粘土制作）を主、茶道体験は感染状況に応じて実施・中止の判断をする。メロディーとこまめに相談・検討
- 定例会議：毎月 1 回 Zoom を利用して Harmony とメロディーの連絡事項や今後の活動予定について議論

DELIVERABLE　成果物／制作物

Harmony グッズ
（しおり、ブックカバー、ポストカード）

＜その他成果物＞
定例会議議事録
クリスマスコンサート ポスター・チラシ・パンフレット
滋賀県立美術館展示 チラシ

05 地域博物館プロジェクト

文化財を守る学生学芸員

民具や古文書、お祭りなど、地域には多くの文化財があります。“地域文化財”や地域の歴史・文化などを住民の方々とともに調べ、活用し“地域博物館”をつくりあげていくことで、地域の魅力を再発見することをお手伝いします。

TEAM DATA

チーム名： スチューデント・キュレイターズ
代表者： 岡田朋恵（人間文化学部）
メンバー数： 23 名
指導教員： 市川秀之、東幸代（人間文化学部）
活動場所： 学内、彦根市、米原市、高島市、近江八幡市
関係団体： 白谷荘歴史民俗博物館
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT　実施事業

(1)　近江八幡西川嘉右衛門家調査

西川家古文書の調査（02/19）

(2)　白谷荘歴史民俗博物館調査・展示事業

(3)　奥伊吹調査・展示事業

展示作業（07/17）

(4)　近江八幡葦刈イベント
★見出し写真：葦刈りの様子（01/15）

1 年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

去年度に比べ新型コロナウイルスによる活動休止等の問題がなくなり、ほぼすべての月で西川嘉右衛門家調査と白谷荘歴史民俗博物館調査が行えた。白谷の調査は調査資料の大部分を占めていた和本が終わった。そこで新たな事業として絵ハガキ展を行う運びとなった。コロナ禍で途切れてしまった展示事業がまた開催できるのは以前のような活動を行ううえで一歩前進したのではないかと考える。

その一方で西川家の調査の方で新たな問題が発覚した。当初 1900 通ほどであると思われていた古文書だが、いまだに蔵内に未発見のものがある可能性が浮き彫りとなった。今年度は去年度に比べ安定した調査の開催と調査に参加する人数を確保できたことで調査自体の効率は上がったが、新しく発見される古文書の量次第ではこの事業がさらに長期化する可能性が出てくる結果となった。

平成 24 年から始まった奥伊吹の展示事業が今年度の 7 月に東草野山村博物館の開館と共に終了した。本格的な展示室準備・作業等は去年から引き続き行われていたが、現地での作業等は今年度から始まった。民具の収集から常設展示室を一つ作り上げるという貴重な経験は今後の展示事業の活動で生かされると考える。

他、本年度の事業計画では学内展示などの展示事業も行う予定であったが奥伊吹の展示事業の長期化等のスケジュール管理不足によって一部実施できなかった。来年度はコロナ以前に行っていた学内展示やビバシティの展示イベントへの参加など行えるようメンバー同士が密に連携をとりながら上手くスケジューリングすることが課題となる。

活動を通して学んだこと

古文書調査の活動を通して、古文書の扱い方や整理方法、くずし字の読み方を学びました。また、様々な人と関わることで、地域の現状や課題を知ることもできました。このような経験によって自分自身の視野が広がり、以前よりも多くのことを考え理解できることが増えたと感じています。

平内美有（地域文化学科１回生）

この団体に参加して博物館づくりを手伝ったり本物の古文書や民具を取り扱ったりと、自分の学部や分野ではあまり体験しないような新しい物事にたくさん触れることができ、多くの発見を得ることができました。自分の知らない分野でも恐れずに関わることの大切さを活動から学べたと思います。

田代帆華（生物資源管理学科２回生）

展示企画、キャプションや配置などを考える経験ができたことで学芸員の仕事や自分の将来像をより具体的に考えるようになった。また古文書の読み取りや扱いを実際に体験してみることで授業を受けるだけでは分からなかったことに気づけたのは自分の中で大きな成果だと思う。

岡田朋恵（地域文化学科３回生）

地域からのコメント（抜粋）

白谷荘歴史民俗博物館館長　川島光男さん

白谷荘歴史民俗博物館の調査・整理・維持・保存の為に日曜日のお休みに継続して来ていただいており感謝します。学生の皆様は実感しておられないかもしれませんが、継続した活動は当館だけでなく地域文化の保存に力強く貢献しています。最近は地域の文化財に対する関心は非常に薄れてきているように感じます。高島地域（マキノ町白谷地区）でも人口が減り過疎化が進んできています。祭り事や様々な行事も縮小され地域文化も衰退し消え去ろうとしています。当館は建物の老朽化、維持活動のための資金不足、文化活動に関わる知識不足等様々な問題に悩まされています。そのような中で活動されて皆様は活動を通じて当館や地域を活性化しています。皆様も学術的なことだけでなく現地へ出向き資料に直接触れて肌感覚で地域文化の現状を感じているのではないでしょうか。その感性は将来の消え去ろうとしている地方文化の保存・皆様の将来の活動に役立つものと思います。

指導教員より

人間文化学部　市川秀之

2022 年度はコロナ禍にともなう活動上の制限も減り、毎月の活動も継続することができた。ことに昨年度から取り組んできた東草野山村博物館の展示を完成させ、7 月にオープンしたことは大きな成果であった。またこの事業については中日新聞などに大きくとりあげていただいた。そのほかにも近江八幡市西川家や高島市白谷歴史民俗博物館での史料調査を継続し、白谷では来年度絵葉書の展示を企画するまでに調査が進展した。ただ構成員の多さに比して各回の参加者が固定しつつあるのは気がかりな点であり、今後の改善が望まれる。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

・感染防止対策の徹底

DELIVERABLE　成果物／制作物

白谷荘古文書 分類

奥伊吹展示室　展示物

06 フラワーエネルギー「なの・わり」

資源循環型社会のモデル化

菜の花やひまわりを栽培し、種から油を搾り、その油からバイオディーゼル燃料を生産、使用することで資源循環型社会を形成することを目標に活動を行っています。また科学実験教室や出前授業を開催し、子どもたちに科学の楽しさやエネルギーの大切さについて知ってもらう活動をしています。

TEAM DATA

チーム名： フラワーエネルギー「なの・わり」
代表者： 金山翔太（工学研究科）
メンバー数： 20名
指導教員： 山根浩二、河崎澄、出島一仁（工学部）
活動場所： 学内、彦根市（石寺町）
関係団体： 菜の花プロジェクトネットワーク
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT 実施事業

(1) 菜の花・ひまわり栽培
★見出し写真：学園内畑でひまわり種まき（06/30）

(2) 「サイエンスフェスタ」実施

サイエンスフェスタでイベント参加（06/04）

(3) 湖風祭への参加

(4) 豊郷町隣保館での搾油実演

(5) スライム作り体験会の実施

三井アウトレットパークでスライム作り体験（01/21）

(6) ブログやSNSでの広報活動

1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

ひまわりの栽培については昨年度同様多くの花を咲かせることができました。しかし、収穫した種の大部分にカビを生えさせてしまい、来年度は収穫時期を考えて進めていく必要があると感じました。菜の花の栽培については、昨年度の失敗を活かし、少し早めの時期に植えたことにより芽が出るまでの成長が早く、雪の重みにも耐えて順調に成長しています。課題としては、種を植えすぎてしまったのか成長が止まってしまい、植える量の調整や間引く必要があるのかもしれません。

今年度の事業の新たな試みとして、湖風祭と豊郷町でイベントをできたことは大きな成果です。湖風祭は部員で協力し、とても高い士気の中、イベントに取り組むことができました。しかし調理が大変忙しく、本来の目的であった活動の宣伝がおろそかになってしまったことが悔やまれます。豊郷町隣保館でのイベントは、子どもたちに私たちが育てたひまわりの種を使って搾油の様子を見みてもらうことができ、バイオ燃料に興味を持ってもらえるよい機会になりました。他、子ども向けイベントとして三井アウトレットパークで開催したスライム作り体験会は今年度も評判がよく、企画としては成功しました。ただ、もう少しエネルギーに近いところの催し物ができたほうが良いのかなとも感じました。

総括として、昨年度同様の事業を引き継ぎ、新たな事業にも挑戦することができ、とても満足しています。コロナで縮小してしまった事業を少しずつ拡大できており、来年度以降は活動の広報などにさらに力を入れて、より一層頑張って取り組んでほしいです。

活動を通して学んだこと

ひまわりを育てたが、鳥に畑を荒らされたり収穫した後の種が傷んだりし、作物を育てる難しさや収穫後の管理の大切さを学んだ。また、搾油機を用いてひまわりの種から搾油を行ったがあまり油を得ることができず、普段気づかうことなく油を使うことができるありがたさを感じた。

横山友輝（機械システム工学科４回生）

大学祭の模擬店やヒマワリ油の搾油体験会を通じて、新規プロジェクトに挑戦することの大変さを学ぶことができたと同時に、サークルメンバーと一致団結して、プロジェクトを行うことの楽しさも知ることができた。また、サークル活動全体を通して、様々な地域の人々との交流を実現することができた。

勝間航平（工学研究科機械システム工学専攻１回生）

初めて菜の花を育てる経験ができ、土壌を整えるところから手塩にかけた分立派に育った菜の花が見られた時はうれしかった。しかし、得られた菜種は総量を見てもわずかなもので衝撃を受けた。１つの作物を育てることに手間と時間がどれだけかかるかを知ることができる貴重な経験だった。

吉田史彦（機械システム工学科４回生）

活動を通して、自分が農作業に関する知識がないことや農作業をする事の大変さを学べることができ、良い経験になった。今年は湖風祭を開催でき、多くの方になのわりの活動を知ってもらうことができた。今後もなのわりを通して環境について考える機会を設けたいと思った。

脇坂頼明（工学研究科機械システム工学専攻１回生）

地域からのコメント　（抜粋）

豊郷町隣保館の職員の方より

今回は、隣保館開放で小中学生対象に実演をしていただき、参加していた子どもたちも興味津々でした。年の近いお兄さんたちが来てくれたというだけで、子どもたちは興奮気味でしたが、実際に搾油の様子を見せていただけたおかげで、搾油の工程だけでなく、一滴一滴落ちる油の様子やさわやかな香り、また、搾りかすの香ばしい匂いまで「本物」にふれることができました。町内出身の学生さんをはじめ、県立大学の学生さんたちと繋がりをもつことができて良かったです。今後とも学生さんたちとの交流機会を継続していければと考えています。

指導教員より　（抜粋）

工学部　山根浩二

本年度の湖風祭では、過去を思い出しながらの運営はなかなか大変だったのではないでしょうか。三井アウトレットパークのイベントや展示においても、如何に子どもたちや中高生に注目してもらえるのかなど、工夫が必要かと思います。また、本年度の実習を伴う高大連携事業が1日だけであったため、バイオ燃料関連の実習を設定しませんでした。そのため、次年度に実習を再開した場合、いつでも実施できるように、昨年度に開催したときの段取りなどの引き継ぎをお願いしたいです。

工学部　河﨑　澄

湖風祭でメンバーが協力して模擬店を成功させることができたことは、コロナ禍を乗り越えて新たなステップへと進むよいきっかけになったと思います。また、豊郷町での搾油イベントを通して、地域の方々と新たなつながりが生まれたことも、有意義だったと思います。これからますます重要なエネルギー資源となってゆく植物油を基軸として、地域の方々と学生の皆さんにとって、有益な活動が推進されていくことを期待しています。

工学部　出島 一仁

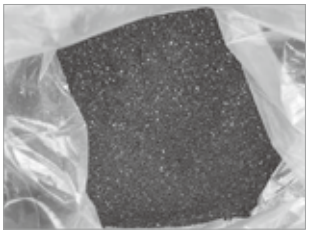
下石寺での菜の花栽培に加え、湖風祭やサイエンスフェスタへの参加、隣保館での搾油実演など、活動が活発化してきた印象です。様々な経験や学びが得られた一方で、活動量の増加によって部員の負担が増大していることを懸念しています。学業・研究とのバランスをどのように取っていくかが今後の課題ではないでしょうか。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

- 活動安全マニュアルを作成
- 感染防止対策の徹底
- ミーティングは原則オンライン

DELIVERABLE　成果物／制作物

ひまわり



菜種

07 廃棄物バスターズ

廃プラだって生かせば資源！！

地域での清掃活動やリサイクルプランターを活用した hana-wa 活動など、環境と福祉を繋ぐ活動を行っています。また数年前から、一般家庭から排出される廃棄プラスチックを原料に、雨水タンクを製造する技術の研究を始め、マイクロプラスチックなど様々な環境問題に取り組んでいます。

TEAM DATA

チーム名： 廃棄物バスターズ
代表者： 長田直也（工学研究科）
メンバー数： 20 名
指導教員： 徳満勝久、竹下宏樹（工学部）
活動場所： 彦根市、滋賀県内
関係団体： 社会福祉法人いしづみの家 他
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT 実施事業

(1) マテリアルリサイクル事業
(2) hana-wa 活動
(3) 彦根市清掃活動
(4) 荒神山春まつりでの清掃活動
(5) 「サイエンスフェスタ」実施
(6) 滋賀グリーン活動ネットワークでの活動
(7) 「水と祈りの地・滋賀から世界の水環境保全を願うコンファレンス」への参加
(8) 「夏休み！プラスチック探偵団」講師
(9) 「多賀町町民大学」講師
(10) 宇曽川清掃活動
(11) マイクロプラスチック調査
(12) 「ご当地キャラ博」協力
★見出し写真：ご当地キャラ博で出展（10/22）
(13) 守山市立図書館 理系専門分野講座「工学」講師
(14) たねやグループとの清掃活動
(15) 「未来をつくるしが R キッズ連続講座」講師

講座の様子（12/26）

(16) MLGs 協働テーブル参加

1 年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度の活動軸であった雨水タンクの製作については金型を作製することができず、モニターを募集することができなかった。マテリアルリサイクルは今後社会全体で取り組むべき課題であり、私たち学生がこの課題解決を目指していることをもっとアピールして多くの方の協力を得ることが必要であると感じた。

今年度の活動の特徴は「教育」であった。世界中で問題となっている「プラスチックごみ問題」についてお話する機会を多く頂き、講演会や講座には小学生をはじめ老若男女の方々に参加していただいた。そういった場で私たちが心掛けていたのは「プラスチックが悪いのではない」という事を伝えることである。プラスチックが環境中に流出して生態系に影響を与える可能性がある、空気中にプラスチックが飛散しており、知らず知らずのうちに食べてしまっているという話を聞くとプラスチックが悪いものであるというイメージを持つ人は少なくない。しかし実際にはプラスチックは非常に便利なものであり、私たちの生活になくてはならない存在である。プラスチックが自然環境中に流出してしまっているのは私たち消費者あるいは製造者の管理が行き届いていない結果であると考えている。また今年度は、琵琶湖のマイクロプラスチックの調査を行った。調査の結果、琵琶湖にもマイクロプラスチックは存在していることが分かった。今後更なる調査を行い、多くの場で情報を共有することで新たな教育活動や次の活動につながることを期待している。

その他さまざまな地域のイベントに参加させていただいたがどれも大変で一筋縄ではいかなかった。メンバーと協力しながら活動することにはやりがいを感じることができ、大きな達成感を得ることができた。このやりがいや達成感は次の世代にもぜひ感じてほしい。

活動を通して学んだこと （抜粋）

本当に多くの事業に取り組むことができ、大きく成長できたと感じている。 街に出て清掃活動をしたり、小学生と交流したり、環境問題に取り組んでいる企業や団体とともに知識を深めたりと研究室にこもっているだけではできない体験をすることができた。そしてメンバーとしっかり役割分担をして互いに協力し合いながら活動する大切さを痛感した。今後社会に出てからもチームで助け合うことを忘れないようにしたい。

長田直也（工学研究科材料科学専攻1回生）

中心メンバーとして活動し、多くの取組を実施するなかで、当団体は人とのつながりという点で恵まれていると感じていました。多くの方に支えられて活動が成り立っていたことを改めて実感し、地域貢献活動の本質的なことを知ることができました。今後も廃棄物バスターズで学んだことを土台に、環境保全に取り組んでいきたいです。

小谷徹也（工学研究科材料科学専攻１回生）

新しい取組として、マイクロプラスチックの収集および解析を行いました。今世界中で問題となっているマイクロプラスチックの実態はわかっていないことが多いです。今年度行った調査は数や種類の同定で、日常生活の使用率が高いプラスチックが含まれていることがわかりました。今後も環境活動や教育活動に関わっていきたいと思います。

太田鈴菜（工学研究科材料科学専攻１回生）

特に印象に残ったのは、たねやグループの方との清掃活動です。ただ清掃するのではなく、ゲーム感覚で行うことで、ごみの分別の仕方やマイクロプラスチックについて楽しく学んでもらうことができて、活動のやりがいを感じました。また、マイクロプラスチック調査に力を注ぎました。全てのことが1からでしたが、解析まで成し遂げることができてよかったです。私はこれらの活動の中で、先意承問に取り組むことの大切さを学びました。

西山亜希（工学研究科材料科学専攻1回生）

地域からのコメント （抜粋）

株式会社 Plaats 代表　中嶋元さん（事業 (4) の協力者）

バスターズの学生メンバー、ごみ拾いなどのクリーンアップ作戦を積極的に実施され、その際、自分たちだけの価値観で動くのでなく、近隣の住民を巻き込んだ活動の重要性を意識しつつ、活動されているのが素晴らしと感じた。ごみを集めつつ、しっかりしたデータとして記録されており単なる清掃パフォーマンスとは異なる、理系大学の強みを活かした活動をされている点、また高分子科学の専門知識を活かして、市民の教育活動にも熱心に取り組まれている事にも感銘を受けた。

指導教員より （抜粋）

工学部　徳満勝久

今年度の活動は実に多岐に渡り、コロナ感染拡大防止を図りながらも、その活動を地域に広げ、さらには定着させることができた年であったように思います。特に今年は、『教育活動』に注力した年だったように思います。守山市立図書館様からご依頼頂いた「理系専門分野講座」では、「君たちだけで講演してみるか?」という問いかけに「やってみたいです！」と即答できたことは、メンバー全員の自信の表れだったのか、無謀の極みだったのかについては判断できませんでしたが、講座後の参加者のコメントからも「学生達が自ら調べて、話すこと」の大切さを彼ら自身が学んでくれたようにも思います。

また、『ゴミ拾いを科学する』を合い言葉に、拾ったゴミを分類・整理してデータとして保存するなど、科学的に環境問題を考える第一歩を踏み出したようにも思います。『マイクロプラスチック』の調査も本学調査船「はっさか号」に実際に乗船し、サンプル収集したことからも多くのことを学べたように思います。今後は、ポストコロナの状況で如何に“地域での地道な活動”を継続して実施すると同時に、新たな取り組みとして実施している「地域分散型治水ダム」と銘打った“雨水タンク”の製造技術を確立し、それを実際に世に問うていく取組ができるのか？来年度以降実を結ぶことを期待しています。

工学部　竹下宏樹

研究室での忙しい活動との折り合いをつけながら、非常に多くの事業に取り組めた1年だったと思います。これまでの先輩達の活動の継続と、同じような目的意識を持って活動してこられた地域の団体の方々のお力による部分も非常に大きいと思います。新しく出来たこと、残念ながら及ばなかったこと等をしっかりと振り返り、新型コロナ感染症による活動制限の本格的解除が期待される来年度以降の活動に活かしていくことを期待します。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

- 活動安全マニュアルを作成
- 感染防止対策の徹底
- 外部団体との打合せや会議のオンライン実施

DELIVERABLE　成果物／制作物

「偏光のしくみ」ポスター

活動紹介ポスター

08 政所茶レン茶゛ー

チャレンジを楽しむ

滋賀県東近江市政所町において茶畑をお借りし、学生が自分たちでお茶を生産し、販売することで、地元の方と協力しながら地域を盛り上げるべく、楽しく活動しています。政所や奥永源寺地域で魅力を発見し発信しています。

TEAM DATA

チーム名： 政所茶レン茶゛ー
代表者： 伊藤蓮哉（環境科学部）、桑原裕太（工学部）
メンバー数： 17 名
指導教員： 上田洋平（地域共生センター）
活動場所： 滋賀県東近江市政所町
関係団体： 政所茶縁の会、政所茶生産振興会
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT 実施事業

(1) 新茶摘み
★見出し写真：茶摘みメンバー（05/18）

(2) 販売活動ーイナズマロックフェス 2022

イナズマロックフェスでステージ出演（05/17）

(3) 畑の維持管理

落ち葉入れ（11/19）

(4) 地域の方々との交流ー「10 周年感謝祭」

1 年のまとめ・考察（成果と課題）

今年度、新型コロナウイルスによる活動制限が緩和されたことから、新茶摘みには外部からの参加者を募るなど、徐々に地域の人々のみならず、地域外の人々との交流を図ることができた。また、SNS での PR では、特に Instagram の投稿を中心に多く行ない、フォロワー数も年度初めと比較し、50 人以上増えたことから PR の成果が現れたと考えられる。今年度はメンバーの都合により、販売活動は高頻度で行うことができなかったが、イナズマロックフェス 2022 や、学内の大学生協ショップでの販売活動で PR ができたと考える。

課題としてあげられるのは団体の人数不足である。昨年度は 20 人近くいたが、今年度は上回生が引退したこともあり、9 人ほどに減少してしまった。活動をよりスムーズに進めることができるよう、来年度の新入生の受け入れを積極的に行いたい。本団体の今後の活動にあたり、メンバー内では学外のみならず、学内での PR の活性化の意見が出ている。学内で政所茶を知っている人はほとんどいないようで、学内でも活動を積極的に行うことで、学外 PR に行きにくいメンバーも参加しやすくなるのではないかと考えている。また、今後重要になってくるのは「どんな奥永源寺地区、政所町にしていきたいか」を視野に入れることである。我々は PR 活動を主体としているが、現在「政所茶、奥永源寺地区の魅力を伝え、それらがどうなって欲しいのか」といった地域の理想像が曖昧である。本団体は今年度で発足 10 年目となった。今後さらに活動が続き、今以上に地域が盛り上がっていくために、この節目に具体的な地域の将来像を掲げた上で活動をしていきたい。

活動を通して学んだこと

政所茶の味や栽培方法に魅了された。活動を通じて生産者の政所茶への熱意を実感した。他方で政所茶を取り巻く厳しい現状を目の当たりにした。政所茶の発展に貢献したい思いが高まった。1人でも多くの方に政所茶に触れてもらえるように活動に尽力したい。

藤本莉子（地域文化学科1回生）

活動中、「政所に来ていただくだけで嬉しいし、励みになる」というお声を頂いた。コロナウイルスの中、本当に地域貢献できているのか不安であったが、本プロジェクトをどんな形であれ、続けるだけで立派な地域貢献を担っていることを実感できた。

伊藤蓮哉（生物資源管理学科3回生）

今年度はコロナの規制が緩み、地域の交流を少しずつ行うことができたことで、コロナ禍によって忘れていた、実際に交流して地域や人とのつながりを作ることの重要さを活動を通して再確認することができた。

田代帆華（生物資源管理学科2回生）

茶摘みはなんとなくノルマがあるので、急いで茶を摘む必要があって苦しかった。しかし頭を働かせずにただただ茶を摘む時間はデトックスになって良かった。終わった後に目標の量まで達成でき、嬉しかった。

桑原裕太（材料科学科3回生）

地域からのコメント

政所茶生産振興会　福井肇さん（茶畑下草刈り・運搬等協力）

県立大学の茶レン茶゛ーの活動が10年の節目を迎え、来ていただいた地元として感慨深いものがあります。11月に農水省や近畿農政局、県や市の茶業に関する担当者が政所に来られる機会がありました。その日が茶レン茶゛ーの落ち葉を入れる作業日でした。農水省の担当者が視察中に学生を見かけ足を止め、「政所茶の魅力は?」「無農薬栽培の大変さややりがいは?」「茶レン茶゛ーとは?」など次々と質問されていました。視察前に「若い人たちの活動や交流人口について教えてほしい。と聞いていたので茶レン茶゛ー、茶縁の会、八日市南高校の資料を用意はしていましたが直接話せたことで資料の価値が高まりました。農水省の方が評価されたのは、地域の魅力とそれを体現していた若い人でした。ありがとう。

指導教員より（抜粋）　地域共生センター　上田洋平

誰一人数字がそろわず延々つづくビンゴ大会を、地元の大人たち子どもたちと茶レン茶゛ー、みんなで冗談を言い合いながらやった10周年記念のイベントは本当に楽しかったなあ。まるでひとつの家族のようでした。「政所ファミリー」「茶レン茶゛ーファミリー」。実際、政所に住み着いたOGにはおととし湘南から来たパートナーとの間に子が授かり、おそらくその子は間違いなく、この一年間に世界中で一番、たくさんの他人に抱っこされた赤ん坊です。春の茶摘みの一シーンを思い返すと、地域の方々、学生、赤ん坊を背負ったそのOB、遠くのまちから来た助っ人、もっと遠い海外から来たお茶好きの人…。政所の茶畑。何百年もかかって人と自然が作り上げてきた「この風景を守りたい」という思いから始まった活動の結果、その風景に華やぎが生まれてきた。こんな10周年の幕開けに大きなピンチを迎えたその時に、自ら名乗りを上げリーダーを買って出てくれた2人がいなければ、この1年間の、以上のような出来事はすべてなかった。感謝と敬意を表します。そして学生の皆もそれをよく支え、政所茶レン茶゛ーは一層素敵なチームになった。そのほか、OBの一人は県内の著名なお茶屋さんに、別の2人はお茶ではなく珈琲屋になり、このほど大津に2店舗目を構え…と、茶レン茶゛ーにかかわって、順調に人生を踏み外しているのも楽しい眺めだ。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

- 活動安全マニュアルを作成
- 感染防止対策の徹底

DELIVERABLE　成果物／制作物

煎茶・ほうじ茶

番茶

09 BAMBOO HOUSE PROJECT

生きる自然は地域を育む

全国、どこにでもある放置竹林。この問題を地域の方々と学生が協力して解決しようという取組です。滋賀県湖南市菩提寺区の竹林で、毎年竹林整備を行い、その際に出た竹廃材を再利用し、子どもたちや地域の方々が集まる憩いの場となることを目指します。

TEAM DATA

チーム名： BAMBOO HOUSE PROJECT
代表者： 箱田里菜（環境科学部）
メンバー数： 45 名
指導教員： 陶器浩一（環境科学部）
活動場所： 滋賀県湖南市菩提寺
関係団体： 菩提寺まちづくり協議会
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT　実施事業

(1)　竹廃材の撤去（竹チップ制作）

竹チップの散布作業（12/10）

(2)　週末 WS
★見出し写真：新築デッキ制作（12/10）

(3)　竹林整備

(4)　菩提寺まちづくりフェスタ展示の部に出展

展示の様子（10/23）

(5)　サイン計画

1 年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

新型コロナウイルス感染症の影響は少なくなったものの、作業中のマスクや相手方の事業の進め方の変更など、完全には以前のような活動を行うことはまだ難しいと感じる 1 年であり、再度活動を継続していくための計画をしていくことが課題であると感じた。

地域の中学校との連携では、関係が途切れないように挨拶など活動が再開できるよう尽力し、規模を縮小して何とか活動を行うよう計画を進めていたが、自粛期間中に中学校の方針が変わり、今年度も中止になってしまった。来年度以降、新たな内容・活動形態を提案し、活動を継続していけるように尽力していきたい。

活動が中止になってしまったものもある一方で、菩提寺まちづくりフェスタ展示の部への出展は約 2 年ぶりに事業を再開することが出来た。まちづくりフェスタへの出展は、「竹の庭」を知らない方・訪れる機会が少ないような方にとって私たちの活動がどのようなものなのか、現状を伝える、地域の方々との「竹の庭」以外での大切な交流の場である。今年度は活動発足から 10 年を迎える節目の年であったため、これまでの活動を写真と共に年表にまとめ上げ、フェスタに出展させてもらった。また、フェスタへの出展だけでなく、楽座事務局からお声がけを頂き、11 月に滋賀で開催された SDGs 全国フォーラムへの出展・全国フォーラムの特設ページへのオンライン掲載もさせていただき、地域の方々だけでなく、より多くの人に私たちの活動を知って頂く機会を得られた。

全ての活動をこれまでのように継続するだけではなく、状況によって活動の形態を変化させながらよりよく発展させながら継続していくことの大切さを感じた。来年度で 11 年目に入る活動であるが、現状に満足せず、引き続き「竹の庭」が地域の人々に愛され、地域に寄り添ってこの場が続いていくように、これからも継続して活動を行いたい。

活動を通して学んだこと （抜粋）

バンブーハウスプロジェクトでは、竹を身近に感じ、竹のことについて知ることができました。実際に制作に関わることで、歴代の竹の制作物を見てすごさも感じました。何十人分のおにぎりを作ったり、温泉に入りにいったり、宿泊の作業でしか味わえない楽しみもたくさんありました。このプロジェクトを通して竹へ関心が深まりました。

藤田彩雅（環境建築デザイン学科２回生）

実際に起きている環境問題に対して学生の間から主体的に関わることは座学では学べないことを学ぶ機会となり貴重な経験をさせていただいたと思います。また、毎年このプロジェクトは行われていて、知識や技術、地域との関係が継承されているのはプロジェクトの理念が確立しているからであり、理想的な学生プロジェクトの一つではないかと感じました。

古田悠馬（環境建築デザイン学科２回生）

今年の制作物のデッキ部分の施工と既存の見晴台の補修作業を担当しました。補修作業では、既存で使える材を見極めながら取り替えなければならない材をどう取り合わせるか、接合方法も既存材よりもより強い方法で設置するにはどのようにしなければならないのかなどを考えながら計画を進めました。さらに、ロープワークや計画を考えるプロセスなどを、次に主に竹の庭の管理を担っていってくれる世代に丁寧に教えて引き継いでいくことを心がけて指示を出したり、コツを教えたりしました。

大石親良（環境建築デザイン学科４回生）

地域からのコメント （抜粋）

菩提寺まちづくり協議会 地域活性化委員会 委員長
浅井基義さん

早いもので、平成 24 年度から滋賀県立大学と菩提寺まちづくり協議会で立ち上がった BAMBOO HOUSE PROJECT も今年で 10 年が過ぎようとしています。最初は、菩提寺区が管理している竹林の再生の為、湖南市地域活性化推進事業に「BB 大作戦」と言う名前で、交付金を申請し採択され、荒れ果てた竹林の再生に取りかかっていただきました。

今期も新型コロナウイルスによる行動の制限が有った中また、例年になく雪が多く、ご苦労の多い年となりましたが、学生の皆様は、寝袋持参してセンターで自炊、宿泊して作業をしていただき、施設の充実を行っていただきました。メンバーの交代が有っても、プロジェクトを継続して維持・継承出来るのは素晴らしいです。まちづくり協議会のメンバーもそう有りたいのですが、高齢化で現実はなかなか難しいところですが・・・。

整備を始めた当初は、地元の方の関心も少ないようでしたが、管理外の竹林も整備を少しずつ行っているうちに、地元の方からも感謝されるようになってきました。ほぼ毎日、地元の子どもたちが、竹林に遊びに来ています。休みの日には、家族で遊びに来ている所をよく見かけます。これからも皆様のご協力よろしくお願いします。

指導教員より （抜粋）

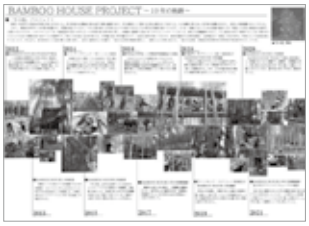
環境科学部　陶器浩一

今年度は 10 ～ 12 月の 3 回の週末ＷＳが活動の主体であった。現地での活動は、既設制作物の点検、補修、および新築制作物の設計・施工である。延べ 46 名の学生が参加し、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を施しながら、地元まちづくりセンターをお借りして泊まり込みながらの活動を行った。大雪で中止となった回もあったが、継続した地道で着実な活動を行っている。協働してくださっているまちづくり協議会の方々のみならず、地域一般の方々からも感謝され、地域の場所として定着している。コロナで中止していた地元中学校との交流（中学校に出向いての講義講演、および竹林での演習）は今回も叶わなかったが、この場所と地域の未来図の実現に向けて、活動を途絶えさせることなく続けていってほしいと願っている。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

- 安全点検事項の洗い出し
- 作業や整備活動における感染防止対策の徹底
- 地域の方々と複数回協議を重ね、賛同いただいた上で宿泊を伴う作業を実施

DELIVERABLE　成果物／制作物



「菩提寺まちづくりフェスタ」展示物

10 とよさらだプロジェクト

ひと刈りいこうぜ！（野菜）

豊郷町の耕作放棄地をお借りし、地域の方にアドバイスをいただきながら野菜づくりを行っています。栽培した野菜で直販所、大学生協への販売、イベント出店を行い、地産地消の促進をめざしています。

TEAM DATA

チーム名： とよさらだプロジェクト
代表者： 松井泰誠（環境科学部）
メンバー数： 19名
指導教員： 畑直樹（環境科学部）
活動場所： 滋賀県犬上郡豊郷町
関係団体： 豊郷町役場
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT　実施事業

(1)　豊郷町での野菜作り
★見出し写真：定植の準備（2021/05/03）

(2)　農機具、倉庫の修理

草刈り（2021/05/07）

(3)　湖風夏祭への出店

出店の様子（2021/06/19）

1年のまとめ・考察（成果と課題）

畑で栽培し、できた野菜については、メンバーが持ち帰ることで、プロジェクトの目的の一つである地産地消に対し、少しではあるが貢献することができた。とよさらだプロジェクトの現在のメンバーのほとんどは、プロジェクトに参加するまで農業の経験が無かった学生である。そのため野菜栽培について分からないことが多く、地元の農家の方に助けてもらうことが多い。農家の方に教わったことをメンバー全体で共有し、野菜栽培について学ぶことが重要であり、野菜栽培に関する技術を向上させていく事が課題の一つであった。

昨年度は新型コロナウイルスの影響で、地域のお祭りが中止になったこともあり、活動が制限され、地域の方との交流の機会も例年に比べ減少してしまった。地域でのイベントなどに呼んでいただける機会がなく、地域の方々との交流ができないまま活動を終了してしまうことが残念でならない。

今年度はここ数年と比べ、参加人数の確保が難しい状態が続き満足に活動ができなかった。また現2回生から、畑までの距離が遠い、移動手段が確保できない、作業も草刈りを行うことが多く楽しくない、などの理由から次期代表へ立候補がなく、引継ぎが行えなかった。

昨年度、新型コロナウイルスの影響により活動が制限され、例年通りの作物の栽培が難しくなり、雑草も生い茂り畑の状況が悪化した。以降、作業に参加するメンバーがかなり少なくなってしまった。自転車での畑の移動ルートの共有、自転車での参加を呼び掛けていたものの状況が改善されることはなく、今年度での活動終了という判断に至った。

活動を通して学んだこと

畑の耕し方から始まり、種をまく時期や収穫の仕方など多くのことを学びました。また、野菜を育てることの難しさについても知ることができました。普段買っている野菜にかかる手間暇を知ったことから、感謝していただこうという意識が出てきました。

小山花奏（環境生態学科２回生）

活動を通して学んだことは、地域で活動する楽しさです。活動中に声をかけてもらったり、交流の大切さがわかりました。途中からほとんど作業ができていなかったため、わかってはいたが、活動終了になってしまうことはとても残念です。

尾崎礼奈（環境政策・計画学科３回生）

実際に農作業に取り組んで、作業の苦労について学ぶことが出来ました。草刈り等地味な作業が多いことは少ししんどかったが、成果が出ると達成感のある作業が多かったです。店頭に並ぶ野菜が、どれだけ整った形で販売されているのか、販売できない物の活用の重要性を知りました。

河原崎駿（環境政策・計画学科２回生）

一番学びが多かったことは野菜を作る時の大変さでした。土の耕し方、肥料の必要性などと、ただ種を植えて水をやるのではなく、色々な点に注意を払うことが重要だと知りました。また地域の方と交流することで野菜の作り方の注意点を教わっただけでなく、これまでに一度も触れる機会がなかった農具の使い方を知る事が出来ました。活動終了は残念だが、多くのことを学ぶことができました。

蓮田悠太（環境政策・計画学科３回生）

地域からのコメント

豊郷町農家　市田豊さん

若い世代に農業を広げるように頑張って欲しいと思っていたが、昨年度より作業の頻度、参加人数が減っていたことも感じていた。10 年近く前から活動を見てきたので、活動終了というのは残念だしもったいないと思う。

指導教員より

環境科学部　畑直樹

大学キャンパス内あるいは大学の近くで農作物の栽培を行い、収穫した野菜を活用して、豊郷町のお祭りに出店するなど、取組方を模索すれば、団体継続の道もあったのかなとも感じました。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

・感染防止対策の徹底

（2020、2021 年度は公共交通機関を利用せずに活動に参加できるメンバーのみで活動した。今年度は感染状況を見て臨機応変に対応する形で行った。）

DELIVERABLE　成果物／制作物

ナス

11 犬上川竹林整備プロジェクト

竹の魅力を発見！発信していきます！！

大学前の一級河川犬上川河辺林を中心とした放置竹林の整備を行うとともに、整備で得た竹を製作活動に利用し、竹の魅力を発見し、価値を上げるために発信しています。

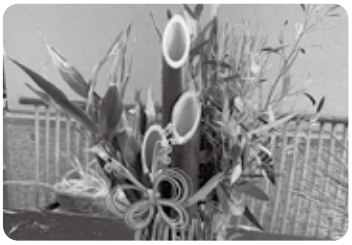
TEAM DATA

チーム名： 竹林 GAKU
代表者： 田村彩華（環境科学部）
メンバー数： 29 名
指導教員： 肥田嘉文、荒木希和子（環境科学部）
活動場所： 一級河川犬上川、彦根市、滋賀県内
関係団体： 犬上川開出今地区竹林愛護会
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT 実施事業

(1) 竹林整備

(2) 門松ワークショップ



門松作り（12/05）

(3) 「みんなの想火」竹あかり製作
★見出し写真：竹あかり製作（09/18）

(4) ヨシフェス

(5) 夏湖風祭でのワークショップ

(6) 多賀町での七夕イベントの準備

(7) 流しそうめん会

(8) エコキャンパスセンターの清掃

(9) 湖風祭出展

(10) 多賀町展示

(11) 竹の運搬

(12) 竹炭を使ったカレー作り

1 年のまとめ・考察（成果と課題）

このプロジェクトは竹林整備と竹の活用活動の 2 本の柱からなっている。竹林整備については、昨年同様秋・冬の伐竹に加え、春のタケノコ堀も実施した。タケノコ堀は、伐竹よりも簡単で、その年に伸びる竹を減らすことができる。さらにタケノコは食べられるため、春季の整備活動の可能性に気づくことができた。竹林内の虫や動物などは暖かい時期に活発になり、蛇や蜂の多い夏の活動は厳しいと思うが、春はもう少し頻度を増やし、土日にまとめて採取してみんなでタケノコを調理するといった機会を設けることができると思った。

今年度は、昨年度から継続している事業に加えて、「門松ワークショップ」という自分たちが学びの起点になる活動をすることができた。竹林 GAKU という団体名は、竹を対象に「楽しく」「学ぶ」ということを願ってつけた名前だったため、それにあった活動ができたようで嬉しかった。

課題として活動に参加する人数がある。ワークショップなどは、体験の規模を調整することで団体に負担がかからないように人数を調整することができるが、竹林整備は人数が多ければたくさん整備できるが、人数が少ないと作業が捗りにくいため、竹林整備に魅力を感じるような仕掛けが必要だと思った。秋・冬の期間で月 2 回設けている整備活動を楽しみに感じてもらえるようにしたい。

竹林 GAKU は竹林整備と竹の活用活動の2つを柱としたプロジェクトのため、その年その年で竹林 GAKU の雰囲気が異なると思う。この自由さを竹林 GAKU の魅力として、来年度の活動も楽しんで取り組んでいきたい。

活動を通して学んだこと

竹林整備、整備した竹を使用した竹灯りや門松のワークショップ、ヨシフェスにスタッフとして参加などの活動をしました。活動や先輩方の行動を通して、私は地域と連帯するためには自分から意欲的に働きかけることが大切であると学び、同様の事が出来るように努力したいと思いました。

徳井勇斗（環境生態学科 1 回生）

地域の人をはじめ様々な人と交流できただけでなく、竹林整備で伐採した竹の活用方法を新たに見いだすことができた。竹林整備活動では多くの人に参加してもらうことでより整備を進めることができた。今後は地域活動を通した竹林 GAKU の活動の発信、竹林整備活動をさらに進めていきたい。

髙野美優（環境生態学科 2 回生）

主に放置竹林の伐採を行った。鉈の使い方と鋸の使い方を教わり、竹の枝打ちと伐採を行った。定期休憩を挟む際に全員で会話をするので窮屈さはあまり感じられなかった。竹林 GAKU は竹についての理解が身を持って深まる活動である。

吉川旺葵（環境生態学科 1 回生）

放置された竹林が環境に与える影響や整備するのに必要な労力について学ぶことができた。竹を伐採するにも危険が伴い、各々で声を掛け合いながら活動するのが重要であった。伐採した後も竹の処理に困ることがあり、放置した竹の問題点を身をもって考える良い機会となった。

大原修也（環境生態学科 3 回生）

地域からのコメント（抜粋）

YOBISHI プロジェクト　龍見茂登子さん

数年前から、胡宮神社紅葉ライトアップ事業のお手伝いに関わってもらっています。地域で伐採した竹を活用したスタードームに光を灯す仕掛け、竹あかりの演出等をお手伝いしていただいてきました。学生さんと交流しながらの活動は、地元住民の刺激にもなり活動のエネルギー源になっています。そのご縁で、令和 4 年 7 月 7 日小惑星「Akebonozou」命名記念式典用に、くす玉割りのベースを竹で一緒につくり、盛り上げてくださいました。スタードームを竹でつくった技術で、小さいサイズの球が作れないかとお声がけさせていただきました。蒸し暑い中、竹を割り試行錯誤しながら組み立てて下さいました。おかげさまで、式典当日、地元園児によるくす玉割りの華やかなシーンを演出することが出来ました。その頃、年末 YOBISHI プロジェクトのしめ縄作りワークショップと一緒に、ミニ門松作りのワークショップ開催の話を持ちかけて下さり、打合せをしました。伝統文化・技術の継承を楽しく、分かりやすく、参加しやすくするにはどうすればよいか。開催にあたり、コンセプト、ターゲット、内容をどのように充実させるのか。スケジュール、手順、告知方法をどうするのかなど、話し合いました。伐採した竹の活用に、地元伝統文化の継承を考え、いかに満足度と魅力あるものを、参加者に提供できるか一緒に考えられたことは、大変良かったですし、刺激を受けました。ワークショップ当日、皆さんとても素敵な作品に仕上がり、参加者の満足度が大変高いイベントとなりました。住民の方々も、地域を学ぶきっかけを探しており、このような企画に参加したいと望む方が多いことにも気づくイベントでした。

私達地域団体も学生と共に学べる機会が得られたことに感謝しております。学生さんが地域に関わってくださることの、地元の方々からの評判は大変良く喜ばれています。

指導教員より

環境科学部　肥田嘉文・荒木希和子

コロナ禍で活動制限が続く中でしたが、一年を通して様々な活動を実施することができました。竹林整備では、たとえ少人数でも定期的に竹林に入って継続して整備活動が行えたことが良かったと思います。竹材の活用面では、門松ワークショップをはじめとしたイベントへの参加や企画も積極的に取り組んでこられました。準備や実施をするにあたって課題が生じたところは、これからの活動の継続や新たな企画につなげて欲しいです。地域の人達や他の団体とも協力し、連携して活動できたことも大きな成果でした。

竹林の整備は長期的に続けていくことが重要なため，ぜひ今後も継続した活動を行っていって欲しいです。整備の人手不足が課題ですが、イベントや企画の際に整備のスケジュールなどを公表して人材を募るなど試みてみるのも良いかもしれません。整備で採取した竹の樋での「流しそうめん会」が恒例になるといいですね。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

- 活動安全マニュアルを作成（装備確認チェックシート、作業マニュアル等）
- 感染防止対策の徹底

DELIVERABLE　成果物／制作物

竹あかり

流しそうめん

12 日夏里かがやけプロジェクト

日夏でひかりかがやけ！

日夏町にはヴォーリズ建築の日夏里館（ひかりかん）や朝鮮人街道があり、気になる歴史が詰まっています。私たちは、日夏町で野菜・果樹栽培、販売を通じて地域の人と交流すること、日夏町の魅力を発信して、多くの人に足を運んでもらうことを目標に活動しています。

TEAM DATA

チーム名： リソーズ
代表者： 湯川綾（環境科学部）
メンバー数： 9名
指導教員： 平山奈央子（環境科学部）
活動場所： 彦根市（日夏町）
関係団体： 日夏里館運営団体
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT　実施事業

(1)　使われていない畑の活用

夏野菜の収穫（06/29）

カブの収穫（02/26）

(2)　アボカドの栽培

★見出し写真：ひこねで朝市の出店（09/18）

1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度から活動を開始して、一年間継続的に活動を続けられたのはとても良かったと思う。主な活動は畑での野菜づくりで、春に立てた栽培計画に近い形で野菜を栽培できたのも良かった点である。夏野菜と秋・冬野菜を実際に栽培してみたことで、定期的に管理作業を行なわないといけないことや、収穫時期が遅くなると野菜の質が低下してしまうこと、害虫は発生してからでは対処しにくいことなど、学びが多かった。ただ野菜を栽培して、収穫して、食べるだけでなく、それぞれの過程を深掘りすることで、農や食に対する興味を活動を通じて高めていけるような工夫を来年度は行なっていきたい。

9月に出店させていただいた「ひこねで朝市」は自分たちの活動を振り返る機会にもなった。日夏町の魅力を発信するという目標について、朝市や湖風祭で魅力を伝える機会はあったもののあまり満足できるものではなかった。原因としてはメンバー全体の日夏町の理解が少なく、また活動で地域の人と交流することも少なかったので自分たちで魅力を発信できるレベルに達していなかったように感じられた。活動場所が日夏里館周辺に限られていたので、来年度は活動範囲を広げていきたいと思う。事業計画では畑の利用、日夏里館の利用、農業体験・食育、他団体との交流を活動内容として掲げていたが、今年度の主な活動は畑の利用に限られていた。活動開始時からメンバーが増えなかったことや1つのイベントに参加する準備に時間がかかってしまったことが活動の幅を広げられなかった原因であると思う。また、自分たちのできる範囲の活動がどのくらいなのかもわからない状態での計画だったということも原因として考えられる。今年度の反省を活かし、実現可能な事業計画をつくること、事業計画どおりに活動し、日夏町の魅力を発信していきたい。

活動を通して学んだこと

仲間と一つのことを成し遂げる難しさや楽しさを学びました。一つの目標を達成するまでには色んな問題が生じるので、臨機応変に対応することが求められるときもありましたが、色んな壁を乗り越えて成し遂げたときは大きな達成感が得られ、次の活動への原動力になりました。

岡本遥菜（生物資源管理学科 2 回生）

日夏町の魅力を伝えるために具体的にどういった活動を行なうべきかを考えるのが大変だったが、自分たちで仮説を立て、検証していく過程はここには書ききれないほど学びが多かった。活動することに重点を置きそうになるが、活動することの意味や学び、価値などに重点を置いて活動を考えていきたい。

湯川綾（生物資源管理学科 2 回生）

「ひこねで朝市」への出店や、野菜作り、マンゴー農家への視察を行う過程で、野菜作りについて実践的に学ぶことが出来たとともに地域の方と話す機会を経て、彦根への知識と愛が増した。会計担当として、補助金の収支を正確にまとめる作業と団体の仲間に適切に指示・共有する方法を学んだ。

西脇小夏（生物資源管理学科 2 回生）

マンゴー農家さんへの訪問や畑での活動において、野菜作りの知識はもちろん、農業という職業について、経営面や技術的なことを広く学ぶことができた。また、小規模ではあるけれど、組織としての運営の仕方や計画の立て方などを少し学べたと思う。

松本詩歩（生物資源管理学科 2 回生）

野菜の栽培技術や地域の人との関わり方について学んだ。

大畠由紀（生物資源管理学科 2 回生）

地域からのコメント

日夏里ファンクラブ　古川与志継さん

日夏町はかつてすばらしいまちづくりをしていたように思い、地域の素材を大切に残していくように努めてきました。しかし、日夏里館のように使いきれていない施設や、畑・ハウス・古家など地域資源が数多くあります。そんなところに若い県大生が新しい取組をしてくれることを大変うれしく思いました。アボカドを作りたいとの話を聞いて、使用していないビニールハウスを提供しようということで、ハウスの掃除を一緒に始めたのですが、台風でハウスが破損し、修復が容易ではないため、別のハウスを活用していただくことになり、苦労を掛け申し訳なく思っています。アボカドが収穫できるまでには数年がかかるため、それまでの楽しみを兼ねて、畑にサツマイモやカボチャなどを植え、楽しみを増やしながら活動をしていただければと思います。どのように応援すればいいのか手探りですので、時々意見交換しながら進めていただければと思います。

指導教員より

環境科学部　平山奈央子

日夏地域の課題と活動メンバーの野菜栽培や食への関心が交差する興味深い活動テーマだと思います。野菜の栽培や販売の機会を通じて、日夏地域や彦根市内の方と対話できたこともよかったと思います。今年度からスタートした新しい活動のため、計画通りにできなかったこともあるかもしれません。組織運営や活動内容を試行錯誤しながら新たに作る段階ですので大変だと思います。あまり焦らず、地域の方や活動メンバーの思いを丁寧に引き出し、それらに沿った活動になるといいですね。特に、地域の魅力発信については、地域の方と活動メンバーとのコミュニケーションが大切だと思います。大学生である活動メンバーは、地域外から関わるからこそ、地域の新たな魅力に気付くかもしれません。地域の方から聞いたことをそのまま発信するのではなく、一度活動メンバーそれぞれが伺ったことを咀嚼し、例えば同じ世代の人にどういう内容をどの様に発信すると日夏地域の魅力が伝わるのか、よく考えながら活動すると良いと思います。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

- 活動安全マニュアルを作成
- 感染防止対策の徹底

DELIVERABLE　成果物／制作物

勧誘チラシ

団体の名刺

13 かみおかべ古民家活用計画 –SLEEPING BEAUTY-

地域よし×学生よし×古民家よし

彦根市上岡部町にある古民家で、「地域よし×学生よし×家主よし」の三方よしの古民家活用プロジェクトを展開しています。古民家を地域交流の場、学生の学びの場として活用するため、改修作業、畑作り、交流イベントなど様々な活動を行っています。

TEAM DATA

チーム名： かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-
代表者： 鈴木優奈（人間文化学部）
メンバー数： 11 名
指導教員： 林宰司（環境科学部）
活動場所： 彦根市（上岡部町）
関係団体： 上岡部町自治会、ベストハウスネクスト株式会社
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT　実施事業

(1)　寺子屋イベントの開催
★見出し写真：イベントの様子（08/24）

(2)　古民家改修

改修の様子（09/16）

(3)　古民家でのイベント開催

正月イベント（01/22）

(4)　地域行事への参加

(5)　ひょうたんの栽培・加工・販売・発信

1 年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

毎年の古民家改修のおかげで、古民家は住みやすい環境に少しずつ近づいている。我々一大学生が空き家を整備して生まれ変わらせ、シェアハウスやコミュニティスペースなどに再活用することで、空き家の価値を創出、その価値を発信すれば、きっと上岡部町に限らず全国の空き家問題を解決する糸口となるのではないかと考えている。次年度は人が住める環境にまで到達させて、実際にメンバーが住むことも視野に入れている。

イベント開催にあたっては上岡部町自治会長の赤田善弘氏や町内の方々、子どもたちにご協力いただき、感染症対策を徹底したうえで無事に開催することができた。正月イベントでは地域の方々とお話しする機会があり、上岡部町の歴史や現状、課題などの現地に住む人でしか知りえないことを聞いた。改めて地域の方々と直接コミュニケーションをとり、信頼関係を構築していく必要があると感じた。パンデミックにより開催を中止している地蔵盆やお祭り、地域清掃などの地域の交流イベントを地域の方々と共に復活させることで、上岡部町の住人ともっと交流する機会を作っていきたい。

ひょうたん事業については毎年ご指導して頂いていた方の体調が思わしくなかったため、2 年連続でひょうたんの栽培、加工ができず技術継承が課題となる。幸いにも体調が回復したため、次年度からはひょうたんの栽培と加工を再開することが可能になった。今後、大学の敷地でひょうたんを育てていくことを検討している。また、次年度は高付加価値を持つひょうたんスピーカーや徳利などの新商品を開発・生産したり、ひょうたんワークショップの開催をしたりして、ひょうたんの魅力の発信と古民家維持・改修のための財源の確保を狙う。加えて、数年前から途切れてしまっている伝統野菜の栽培の事業や上岡部町の歴史の調査の事業などにも着手したいと考えている。

活動を通して学んだこと

今年度は、予定していた改修やイベントを概ね行うことができた。子どもたちや地域の方々との交流には、大学内では学ぶことの出来ない発見があったと感じている。上岡部町の方々との連携を大事にしながら、この地域と古民家の良さを発信し、活動の輪を広げていくことが今後の課題であるといえるだろう。

小柳津水琴（地域文化学科１回生）

今年度は、新しい事業に挑戦する機会があった一方で、既存のひょうたん事業が頓挫してしまったり、古民家でのイベント事業でつまずいたりすることがあった。事業を成功させることは簡単なことではないと実感した。次年度はこの失敗を糧に、違う切り口の対策を講じて乗り越えていきたい。

瀧澤正真（電子システム工学科２回生）

古民家でのイベントを行い、地域の人々や子どもたちと交流することができた。地域の人々に楽しんで交流してもらえる機会を提供することで、地域の活性化に繋がっていくのだと学んだ。そして、地域の活性化を手助けしていく活動をすることが大切だと学んだ。

田中美沙希（地域文化学科１回生）

今年度は昨年度と違い自分が主体となって行うイベントが多くあった。その活動を続ける中で、本気でこの古民家を改修して、多くの地域の方々と交流したいと思うようになった。新しいことをしたいと思っても、お金が足りないことや予期せぬ出来事が起こったりして実現しなかったので、来年度は何事も計画的に進めたいと思う。

辻井大地（電子システム工学科２回生）

地域からのコメント

上岡部町自治会長　赤田善弘さん

（地域行事への参加、地域への挨拶・告知などの際に大変お世話になった）

最近、コロナ感染症で活動が難しくなっているし、上岡部町の子供会の人数が減少し、活動もやりにくくなっている事象が発生しているが、滋賀県立大学の学生さん達は一年間よく考え活動を行っていただきました。今後は、自治会役員や子供会を活用して町内の町民との親睦をはかっていくといいのではないかと思います。

指導教員より

環境科学部　林宰司

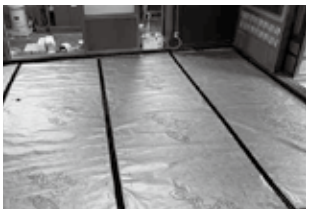
コロナの影響で年間行事が実施されず学年間の継承が難しい状況が続いていますので、チーム内で継承をするための仕組み作りが必要ですね。瓢箪栽培を大学の近くで行うことは解決策になり得ると思いますが、古民家まで行く頻度が下がることにもなります。古民家や道具は継続して使っていかないと劣化しますので、古民家に住むことの検討に加えて定期的に古民家で集まって作業を行うようにして下さい。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

- 活動安全マニュアルを作成
- 感染防止対策の徹底
- 対面のミーティングを減らす（LINE の利用）
- イベント開催（事前申込、参加者名簿作成、参加者の検温、換気、食事対策等）

DELIVERABLE　成果物／制作物

暖房付きテーブル



畳の下の気密シート

14 おとくらプロジェクト

高宮の町に新しい風を吹かせましょう

彦根市高宮町で、築 200 年の古民家を学生が改修してできたコミュニティスペース「ギャラリー喫茶おとくら」の運営を軸とし、地域活動への参加、イベントなどを行い、地域をより元気にすることを目的に活動しています。

TEAM DATA

チーム名： おとくらプロジェクト
代表者： 古田航己（環境科学部）
メンバー数： 48 名
指導教員： 迫田正美（環境科学部）
活動場所： 彦根市（高宮町）
関係団体： 高宮連合自治会
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

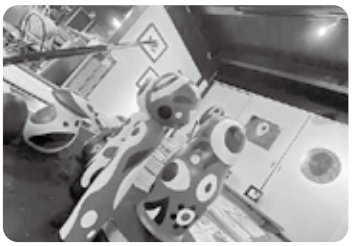
PROJECT　実施事業

(1)　喫茶活動
★見出し写真：喫茶おとくらの営業再開（05/07）

(2)　イベント活動

夏湖風祭で出店（06/19）

(3)　ギャラリー運営



ギャラリー輪々で個展（04/23）

(4)　広報活動

1 年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度も新型コロナウイルス蔓延の影響により大きく制限された中での活動となったが、自分たちにできることを模索し、最大限工夫して活動することができたと考える。まず成果について、一つ目は、喫茶営業の再開である。昨年度まで自粛を余儀なくされていたが、滋賀県が定める感染防止対策を遵守することで営業を再開することができた。営業再開にあわせて多くのメディアが取材に来てくださり、おとくらのことを多くの方に知ってもらうことができた。二つ目は、多くのイベントを開くことができたことである。イベント時に飲み物やお菓子を提供することもできるようになり、おとくらのコーヒーなどのメニューをより知ってもらえた他、地域のイベント拠点の一つとなっていることを実感した。

次に課題であるが、一つ目は、所属メンバーの経験不足である。1 回生だけでなく、 2回生や3回生のメンバー全員が喫茶営業を経験していないことから、すべてが手探りで営業再開となってしまった。したがって、メンバーが喫茶営業を円滑に行えるようにマニュアルなどを通じて工夫して営業を行っていくことや、次に入る1回生たちをサポートしていく必要があると感じた。二つ目は、所属メンバーの不足である。三回生が引退した現在、おとくらプロジェクトには 31 名の学生が所属しているが、その内訳は二回生6名、一回生 25 名となっている。しかし、学科などの関係上動くことのできるメンバーはこの中か 10 人くらいとなっている。そのため、このままでいくと今後の喫茶営業だけでなく、プロジェクトの運営にも支障がでることが容易に想像できる。この問題を解決するために 4 月に控える新入生歓迎や普段からのプロジェクト PR などの広報活動により一層注力する必要がある。

活動を通して学んだこと

私が学んだことは、発信力の大切さです。私は広報班に所属し、ＳＮＳや毎月発行のおとくらつうしんを通し活動の宣伝をしています。お客さんの中にはそれを見てきてくださる方もいるので、地味ですがとても大切な役職だと実感しています。

稲村優（地域文化学科 1 回生）

おとくらでは作家さんや学生のギャラリー展示を行っており、その準備として展示をしてくださる人々とメールでやりとりなどをする機会が多かったです。そのため、私は、おとくらの活動を通して、メールでのコミュニケーションの取り方を学ぶことができました。

大西ひより（生活栄養学科 2 回生）

私が学んだことは接客方法です。私はバイトを始めるより先におとくらに参加したので最初は特に接客に自信がありませんでした。しかし先輩にやり方を教えてもらい、その後も続けてみることで、今では自分なりの接客ができ、自信につながりました。

大原結衣（地域文化学科 1 回生）

私がおとくらの活動を通じて学んだことは、人との繋がりの大切さです。おとくらの活動では同じ学年の仲間だけでなく先輩や後輩、また地域の方々など沢山の人と出会い、コミュニケーションをとっています。そのため様々な意見を知ることができ、人との協力により楽しい活動ができています。

平井那奈（生活栄養学科 2 回生）

地域からのコメント

おとくら家主　加藤義朗さん

今年度は、13 代目ふるふる号（古田航己）が始動し嬉しいことがいっぱいありました。11 代目、12 代目のみなさん、コロナ禍で活動が制限される中、本当にご苦労様でした。君たちのおとくらへの願いのお陰でコロナに潰されず今のおとくらがあります。すごく感謝しております。先輩の協力もあってコロナ対策実施店舗の認定を受けて、記念すべき 5 月 7 日を迎えました。当日は彦根市長も駆けつけていただき、また、その前に NHK630「しが鉄」に取り上げてもらい、いい宣伝となり、オープンにうれしい再開でした。コロナのため何度か中止になった辻本さんのコンサートも復活し、メンバーの作ったチラシは素晴らしいものでしたよ。お節介なおっちゃんのひとことです。「おとくらは、みなさんにとって、みなさんが楽しむことが一番です。」来年度も、なかなかの大変ですがコロナ前に戻ってくれること祈っています。自称「おとくら応援隊隊長」をいつまでも、よろしくお願いします。

指導教員より

環境科学部　迫田正美

本年度はようやく「おとくら」の中心的な活動である喫茶・ギャラリー運営・イベント活動が再開できたことは喜ばしい限りです。実質的に経験者がいない中で喫茶営業やイベントの企画・運営など、戸惑うことも多かったと思いますが、やはり本来の活動を協力して現地で行えたことは大きな一歩となります。今年度の新たな出発を、皆で楽しみながら地域の方々と共に活動していく初めの一歩として、次年度以降の活動の展開へと繋げていってほしいと切に願います。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

- 活動安全マニュアルを作成
- 感染防止対策の徹底
- 活動参加者の制限（2 ～ 4 人体制での活動）
- 活動前後に店内を消毒

DELIVERABLE　成果物／制作物

「おとくらつうしん」

15 未来看護塾

地域に住む方に健康と福祉を！

地域に住むさまざまな人々との交流や病院でのリラクゼーション活動などの健康支援活動を通じて、心も身体も健康にその人らしく生きることを志向するとともに、未来の看護のあり方を考えていきます。

TEAM DATA

チーム名： 未来看護塾
代表者： 柴田一花（人間看護学部）
メンバー数： 248 名
指導教員： 伊丹君和、米田照美、関恵子、千田美紀子（人間看護学部）
活動場所： 学内、彦根市
関係団体： 彦根市立病院、NPO 法人ぽぽハウス 他
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT　**実施事業**

(1) ビバシティ彦根「応援！生き活き健康生活」

ハンドベル演奏（10/01）

(2) ツリーハウス（地域の見守り合い活動）ボランティア
★見出し写真：参加手形の制作（06/29）

(3) 小学校ボランティア

(4) どんぐり県大前保育園ボランティア

(5) 様々な団体さんとのボランティア

「むすびフェス＆マルシェ」の参加（12/04）

(6) 友仁山崎病院 ボランティア

(7) 特定非営利法人 NPO ポポハウス / はばたき ボランティア

1 年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度のまとめとして、キーワードとなるのは「繋がり」である。5 月頃に 3 回生より活動の引き継ぎをしていただいたが、感染症の影響により活動が制限されていたことから、継続できるのか、不安なスタートであった。感染症に対して少しずつ社会が変化し、活動がしやすくなったとき、先生の紹介で繋がったのがツリーハウスさんである。ツリーハウスさんは地域の高齢者の居場所作りをしておられる方で、活動も非常に楽しく、学生が参加しやすい内容であった。それから定期的にお誘いいただき、未来看護塾の定期的な活動の一つとさせていただいた。そして、この方から紹介を受け、また別の団体さんと繋がることができた。加えて、活動の様子を SNS に投稿したところ、また別の団体さんからボランティアのお誘いをいただき、参加させていただくこととなった。このように、始めは一つだけだった繋がりを、いつの間にか無数に広げることができたのが今年度の特徴であると考える。外部の方が主催であるため、多くの学生が直接地域に足を運んだ。これにより、色んな地域の方に滋賀県立大学の未来看護塾を認知していただき、幅広い年代の方の健康に働きかけることができたと言える。また、今年度は病院での活動も再開することができた。少しずつ感染症が広がる前の活動に戻れているのではないかと嬉しく感じる。

今年度の活動の課題として、参加学生の固定が目立ったこと、継続して参加する学生が少なかったことが挙げられる。ボランティアに参加することは地域を身近に感じられ、自分に何ができるのかよく考える良い機会となる。また、人と関わることが難しくなってしまった中で、非常に沢山の方と関われる貴重な場である。これにより、人と関わることの楽しさを実感し、ボランティアの楽しさを感じることができる。来年度以降は、より多くの学生にボランティアの楽しさをアピールし、活動に参加していただきたい。そして、今年度繋がってくださった沢山の縁を大切に、地域の方の健康をサポートしていきたい。

活動を通して学んだこと

私は活動を通して、地域の人たちの暮らしを学ぶことができました。また、沢山の方と交流し、話す力が身についたと思います。各年齢層の生活状況で理解したことを、今後の看護に活かして行きたいです。

赤松愛莉（人間看護学科 2 回生）

今年度は活動の中で、沢山の方と直接関わらせていただきました。直接話すことが制限される中ではありますが、マスク越しでも距離が離れていても、直接目を見て関わることで、人と関わることの楽しさを改めて感じることができました。

柴田一花（人間看護学科 2 回生）

私は未来看護塾のボランティアを通し、幼い子からお年寄りまでのたくさんの方々と関わることで、相手に合わせた話し方や接し方を学ぶことができました。このコミュニケーション力を活かして患者さんの気持ちに寄り添える看護をしたいと思いました。

桑原ありさ（人間看護学科 2 回生）

地域からのコメント

ツリーハウス　森亜由美さん

見守り合い活動を開催している県営団地に近江楽座さんが部屋を借りておられるご縁で繋がらせていただきました。

夏バテ予防のメニューや脱水について訪問する際のチラシを丁寧に作ってくださり、一軒一軒一緒に訪問してくださる事でお住まいの方と顔を合わせてご様子を聞かせていただくことが出来ました。集会所にて参加者さんと脳トレや介護を身近に捉えてもらえる CLUECARD も一緒にゲームしてくださり、多世代での交流会もでき楽しい時間を共有してくださいました。またご縁で繋がってくださり、ボランティア活動 I will help you のマルシェにも参加してくださり、子ども達との時間を過ごしていただけました。

今後も、医療福祉を身近に多世代の交流から孤立しない居場所を学生さんと共に作り上げていけたらと想っています。引き続き助言やご意見を聞かせてもらえたらと思います。

指導教員より（抜粋）

人間看護学部　伊丹君和

未来看護塾は、結成以来 19 年間「近江楽座」のプロジェクトチームとして活動を継続しています。「未来看護塾」の活動目的は、「地域のさまざまな人々が心も体も生き活きと健康な生活が送れるよう支援する」ということであり、これは SDGs の目標の1つである「すべての人に健康と福祉を」にも貢献しています。

この 3 年間、本当にコロナとの闘いでした。通常通りの活動はできず、未来看護塾本来の活動を繋ぐために、どうしたらよいのか。自分たちにできることは何か。どうしたらできるかを模索し続けてきたように思います。地域の皆さんとも話し合いを重ね、どうしたら地域の皆さんが心身の健康を保つような活動ができるのかを考えてきたこと、そのプロセスはきっと学生さんたちの大きな力になっていると思います。本当に頑張っていると思います！小規模でも地域での活動を継続していくことに意義があります。地域の皆さんといっしょに、さまざまな健康活動のバトンを繋げていけるよう、私たち顧問（教員）も陰ながら支援していきたいと思っています。学生さんの成長と地域貢献の両者が結びついた「近江楽座」、そして「未来看護塾」の益々の発展と継続を望んでいます。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

- 怪我をしないように、周囲の安全確認や物の扱いの注意
- はさみやカッターなどの安全利用
- 移動手段の把握、帰宅後の活動報告、怪我などの有無の確認
- 通常活動における感染防止対策の徹底
- イベント時における対面や接触による感染リスクの低減

DELIVERABLE　成果物／制作物

「ちびっ子広場」ポスター

＜その他成果物＞

「ツリーハウス」熱中症予防 チラシ

16 沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト

価値と愛あふれる休憩所を

琵琶湖の湖畔に流れつく流木を収集し、収集した流木を用いて、地域の人の交流、遊び、学びの場として活用できる建築や空間をつくり、様々な地域活性イベントを行いながら、多世代にわたる地域の人達と交流を進めます。

TEAM DATA

チーム名： 沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト
代表者： 小林優希（環境科学部）
メンバー数： 2名
指導教員： 芦澤 竜一、陶器 浩一（環境科学部）
活動場所： 沖島（近江八幡市沖島町）
関係団体： 沖島ファンクラブ「もんて」
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT　実施事業

(1) RYUBOKU HUT 躯体と屋根の定期メンテナンス

屋根のメンテナンス（09/21）

(2) 家具・インテリア制作

(3) BIWAKO ビエンナーレへの出展
★見出し写真：出展の様子（10/23）

(4) 琵琶湖清掃の日の手伝い

(5) 文化祭の催し物

文化祭の様子（11/03）

(6) イルミネーションの手伝い

1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度の活動を通して、島民の方への沖島 RYUBOKU HUT プロジェクトへの理解と、観光客の方への周知を行うことができたように感じる。例えば、屋根の追い葺きとせん断部材の取り換えの作業を行っているときには、残し続けたいのであれば安全性を考慮してほしいとの声もいただいた。その上で、流木という建築の素材として普段考えられないものを使っているからこそ、今後もメンテナンスを続けていき安全性を担保し続ける必要性があるように感じた。また、BIWAKO ビエンナーレという芸術祭での出展による効果もあり、メディアに取り上げてもらえる機会も増加した。さらに、看板や家具を制作したことにより、観光客の方の RYUBOKU HUT での滞在時間が延び、誰かしらが使っている時間が増え、休憩所として使ってよいということへの理解も深まった。

今年度の活動は、これまでに積み上げてきたものを改善したり、向上させたりすることがメインであった。例えば、メンテナンスや家具の制作、島民の方との交流を増やすイベントへの参加である。その中で、活動メンバーは常に変わり続けるので、引継ぎを行うこと（技術の継承）や定期的なメンテナンス（安全性のチェック）をはじめ、継続することは決して簡単なことでないことに気づいた。そこで、沖島 RYUBOKU HUT は昨年度から近江楽座の一つとしても活動しているが、近江楽座の他プロジェクトの継続の方法も参考にしていきたい。

来年度以降は、RYUBOKU HUT 周辺の敷地整備やメンテナンスといったハード面はもちろんのこと、誰にどのような使い方をしてもらいたいのかといった具体的な場の使われ方などのソフト面についても考えていけたら良いと考える。実際、島民の方からは、毎日コーヒーをふるまってほしいという声や、寒い時期の休日にはおでんをふるまってほしいという声も聞いているので、学生なりにどこまでソフト面でも介入できるか考えていきたい。

活動を通して学んだこと（抜粋）

流木ハットが場面により空間の在り方を変化させていることに対して関心を持った。休憩所として建設されたものであるが、時間・季節等によりその姿を変容させていたことに驚きを感じた。年を重ねるごとに島民に受け入れられる流木ハットの存在を、私たちも引き継ぎ、より良い場所へと成長させていきたいと感じた。　**廣田蒼**（環境建築デザイン学科３回生）

建築に何が可能かという問いに対する思考が深まった。流木ハットは島民の休憩所としてできたものだが、子どもが走り回る場所や、島民が来島者を迎える場所としても働いている。また、その外観は四季折々の姿を見せ沖島の風景の一部として大切にされている。これからは流木ハットがより多くの出来事を包含するような場所にしていきたい。　**倉重優香**（人間関係学科２回生）

本年度は、家具製作を通して、島民の皆さんや自治会との会話が増え、こういう風に利用したいといったプラス方向での会話が増えるようになった。こういった会話が増えたことはとても嬉しいことであり、また、琵琶湖ビエンナーレでの此処コーヒー様と連携したイベントでは、流木ハットが多くの人に利用してもらえる姿を見せることができ、少しずつ島民の皆様にも受け入れていってもらえているように感じている。流木ハットは小さな建築であり手入れも不可欠なものであるが、少しずつ沖島に良い変化をもたらしているのではないかと手ごたえを感じている。

黒木一輝（環境科学研究科環境計画学専攻２回生）

地域からのコメント

沖島町離島振興推進協議会事務局　本多有美子さん

外出制限の中、流木ハットの活用など上手く進められずにきておりましたが、少しずつ緩和された事で流木ハット内でのカフェやイベントなど本来の休憩スペースとしての機能が活かせた一年になりました。またメンテナンスや島内の行事に積極的に参加頂けた事で、学生さんの楽しげな様子や笑顔が眩しく私たちも自然とウキウキとした気持ちになりました。少しずつですが、沖島にもＩターンやＵターンで新しい住人が増えようとしています。学生さんとの交流で閉塞感に和やかな雰囲気が入り、新たな展開につながって来ていると実感します。

引き続き沖島での活動に期待しております！大変な事もたくさんあったとは思いますが、今後とも宜しくお願い致します。最後になりましたが、関わって下さった皆様に感謝を込めて！ありがとうございました！

指導教員より

環境科学部　芦澤竜一

今年度は、流木ハットの躯体や茅葺きの補修、家具の検討や制作を学生達は実施した。建築はつくることで終わるのではなく、愛情を込めて面倒をみていくことで育っていくものであるが、そのことを学生達も実際に経験して、理解してほしいと考えている。また、いつまで流木ハットを残すのかといった議論もあり、建築の存続性についても学生達が考えられたことは今後建築に携わり生きていく上では大きな財産となろう。今年度は、BIWAKOビエンナーレの作品会場にも指定され、色々な計画を実施しようとしたが、検討に時間を要し、中々進捗が目に見えてこないもどかしさは正直なところ感じていた。ただ島民のみなさんに全面的にご協力いただき、また交流させて頂き、何とか少しは前に進んでいけたのではないだろうか。今年度の反省を活かし、是非来年度メンバーによる更なる活動の展開を期待したい。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

- 工具取り扱いの注意（片付けの徹底、使用時の周りとの距離の確保、場所指定で使用など）
- 感染防止対策の徹底
- 流行拡大時は活動の自粛及び軽減

DELIVERABLE　成果物／制作物

家具・インテリア制作

17 Taga-Town-Project

多賀町の魅力を発見、発信、発想！

学生目線の発想で多賀町の魅力を発見し、町内外に発信する団体です。多賀の魅力を生かしたイベントを開催したり、地域のイベントに参加・協力、HP や SNS で多賀の情報を発信したりしています。

TEAM DATA

チーム名： Taga-Town-Project
代表者： 小林すみれ（人間文化学部）
メンバー数： 3 名
指導教員： 迫田正美（環境科学部）
活動場所： 滋賀県犬上郡多賀町
関係団体： 一般社団法人多賀観光協会
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT　実施事業

(1) Web 広報誌「たがいと」発行

(2) 「学生と考えるウェブマガジン」の作成(株式会社中栄とのコラボ企画)

(3) 多賀絵馬通り さんさくマップ完成報告会

★見出し写真：完成したさんさくマップ（06/22）

報告会の様子（06/22）

1 年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度は新メンバー獲得と事業のコンスタントな継続を目標にしていたが、結果的に新メンバーを獲得できず、プロジェクト自体の終了という結果となってしまった。しかし、今年度も新たな試みや成果をあげ、終了まで様々な形で多賀と関わることができた。

特筆すべき成果の一つは、多賀絵馬通り観光マップの完成報告会の開催である。本プロジェクトが前年度に制作した観光マップの完成報告会を多賀観光協会と共催し、近隣の新聞記者、多賀有線放送職員など、様々な方に参加いただいた。特に中日新聞・京都新聞・彦根新聞に紙面で取り上げていただいた。自分たちの活動の成果を多賀外部の方から認めていただくという今までにない機会で、自信やモチベーションの向上につながった。メディアに取り上げていただいたことで多賀絵馬通りの周知・魅力発信にも貢献できた。もう一つに、中栄ウェブマガジンの継続と引継ぎである。前年度に引き続き、彦根の高速道路整備会社中栄のリクルートのため、web 記事を制作し HP に掲載した。今年度は事務所外にて作業服の視認性の検証や建設車両倉庫の見学などを行い、積極的に外に出ていって新たなテーマを模索しつつコンスタントに記事を制作できた。また、この事業を様々な方のご協力の結果、同じ近江楽座の県大ラジオ部に引き継ぐことが決定した。

今年度はアクティブに活動できるメンバーが少なく、代表が一人で活動する場面も多かったが、今までの事業を継続できたことと、新しい試みに挑戦できたことは成果にできると考えている。一人で手が回らないことや判断に迷う事があった時は楽座事務局の職員の方や大学の先生、地域の方などの様々な方に助けていただいき、周囲の支えがあって大学生の地域活動が成り立っていることを、身をもって体験した一年であった。そういった点では個人的には実りの多い一年だった。本プロジェクトは今年度をもって終了するが、多賀という魅力あふれる土地で自由に楽しく活動ができたことを嬉しく思っている。

活動を通して学んだこと

今年度はとても大変な一年だったし、様々な人にご迷惑をかけたが、なんとか無事に終わってくれてほっとしている。私は今年で卒業し、TTP も活動を終了する。４年間の活動で TTP に入っていなければ経験できなかったことを多く経験させてもらい、様々な面で成長できた。とても実りのあるTTPでの４年間だった。

小林すみれ（地域文化学科４回生）

入学時から TTP に入ったおかけで、地域イベントに参加したり観光マップを１年間かけて完成させたり、メンバーで相談してウェブ広報誌を立ち上げたりと盛りだくさんのことを経験することができました。長く続いてきた TTP の活動は今年限りになりますが、これからも多賀町を訪れ、また誰かに魅力を伝えていきたいと考えています。

久木絢加（国際コミュニケーション学科４回生）

作成した観光マップを新聞に取り上げていただき、また、マップを手に観光されている方もみられることから、「多賀の魅力を発信する」という TTP の意義を果たすことができたのではないかと感じています。 今年度で活動は終了となりますが、誇りに思えるような活動ができたと思います。これからも一多賀町民として、なんらかの形で魅力を伝えていきたいと考えています。

宮野明日香（人間関係学科４回生）

地域からのコメント

株式会社中栄 総務部経営企画課　澤村守さん

弊社は高速道路維持管理業として、主に名神高速道路の関ヶ原 IC～八日市 IC、北陸自動車道の木之本IC～米原 JCTの維持管理を請け負っております。インターネットで商品を注文すれば翌日には自宅に届くといったこの時代、その経済の大動脈である高速道路を守るという使命感をもって日々維持修繕業務を行っております。

業務内容や業務に対する経営理念について、ホームページ等の情報媒体だけではすべてお伝えすることは出来ず悩んでいたところ、ホームページ制作会社様から TTP さんを紹介して頂きました。TTP の皆さんと出会ってからは、普段働いている私たちからは気が付かない学生という立場・視点から私たちの業務に関わる細かな情報や体験談（作業内容・建設機械・作業服・資格など）を弊社ホームページで発信して頂きました。取材の間も終始和やかな雰囲気で毎回あっという間に時間が過ぎていたように思います。我々建設業界は一般的には大変な職種だと言われておりますが、大変の中にもやりがいが沢山あることをご紹介頂いたことに非常に感謝しております。これからも弊社は安全を追求しつつ、高速道路を守っていきたいと思います。そんな大事な事を再確認できた TTP さんとの２年間のお付き合いでした。丁寧に対応して頂き有難うございました。

指導教員より（抜粋）

環境科学部　迫田正美

TTP は近江楽座発足当初に発足し、今日まで活動を継続してきたプロジェクトである。

当初はアパートの空室を改修・活用した活動拠点の整備、多賀人物図鑑の編集・作成のための取材・広報活動など、手探りではあったがその活動の基本的な形を作り上げていった。本学の非常勤講師である中西先生をはじめ、地域の方々に協力いただき、有線放送の番組づくり、多賀大社の春季例祭や万燈祭のお手伝いなど、地域のさまざまな活動に参加させていたき、交流を深める中で地域の活性化のために大学生として何ができるか、常に新しい活動の方向性を追求する姿勢は、どの年の学生たちも持ち続けてくれた。発足当時は目の前にある課題を無心に追求するエネルギーが必要であるが、活動を継続する為には、歴代の活動を受け継ぎつつ新たな課題に取り組まねばならない苦労もある。歴代の学生たち、特にまとめ役である代表や事務手続きを滞りなく処理する会計など、中心的な役割を担うメンバーたちは、その代ごとに自分達らしい活動を模索しながら常に真摯にこの活動に注力してきてくれた。

今年度をもって TTP の活動は一つの区切りをつけることとなったが、活動に参加してくれた学生たちには、この活動を通じて得ることのできた経験や地域の人たちとのつながりを大切にし、それぞれの未来へ向かって新たな歩みを進めてくれることを祈る。最後に長年にわたって TTP の活動を支えてくださり、温かく見守っていただいた地域の皆さん、全ての方々にこの場を借りて御礼を申し上げたい。みなさん、本当にありがとうございました。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

- 感染防止対策の徹底
- SNS による情報発信
- 観光 MAP にテイクアウトができる店舗を表示

DELIVERABLE　成果物／制作物

「多賀・絵馬通りグルメ＆おみやげ さんさくマップ」

18 座・沖島

沖島でまなぶ・まじわる・ささえる

日本で唯一、湖に人が暮らす島、沖島。島民は漁業を生業に琵琶湖と共に暮らしてきましたが、過疎化などにより、暮らしの継承が危ぶまれます。このような沖島の状況に「学生も何かできるのでは?」と、「まなぶ」「まじわる」「ささえる」の3つを目標に島の振興のため活動しています。

TEAM DATA

チーム名： 座・沖島
代表者： 宮崎啓太（環境科学部）
メンバー数： 12名
指導教員： 上田洋平（地域共生センター）
活動場所： 学内、沖島（近江八幡市沖島町）
関係団体： 沖島町離島振興推進協議会
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT　実施事業

(1)　畑作業

青パパイヤの苗植え（06/26）

(2)　湖魚祭り（おきしまるしぇ）
★見出し写真：出店の様子（10/30）

(3)　「沖島小学校運動会」参加

(4)　資料館の年表づくり

年表づくり（02/28）

1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

去年度に比べコロナウイルスの影響も弱まり、たくさんの活動ができた1年でした。今年度の活動に参加した学生は1回生が多く、また県外出身の学生も多いため、活動を通して沖島の魅力を発見することができました。まず1つ目は、沖島の自然です。島の方に案内していただいた、まるでプライベートビーチのような空間は、周りは木々で囲まれ、目の前には琵琶湖が広がっており、そこだけ時間がゆっくり進んでいるような感覚がしました。２つ目は、人の暖かさです。私たちが沖島に訪れると毎回暖かく歓迎してくださり、また豪華なお昼ご飯も振舞ってくださいました。滋賀県の郷土料理である鮒ずしをいただいたり、コミュニケーションをとったりする中で交流を深めることができました。

このように今年度は、１回生からすると、沖島の方から沖島の魅力を「教えていただく」ということが中心だったように思います。来年度は、このように受け身になるのではなく、私たちが沖島の魅力を「発信する」ことが目標であり、課題です。そのために座・沖島が運営しているインスタグラムで活動を宣伝して、まずは大学内で興味を持ってもらう人を増やし、共に活動に励むメンバーを増やしたいです。またマスコミの方に活動の取材依頼し、沖島を盛り上げていきたいと考えています。課題としては、所属している人数（約40人）に較べ、活動に実際参加する人は10人前後と少ないことです。活動人数を増やすために、月1回は必ずミーティングを開き、次の活動の予定などを話し合って、所属メンバー一人ひとりが「自分も座・沖島のメンバーの一員である」ことを自覚してもらうことが大切だと思いました。また沖島の方から依頼されたことだけをするのではなく、メンバーのしてみたいことにも耳を傾けながら、可能な範囲で活動内容に取り入れていこうと考えています。

活動を通して学んだこと

主に行事、祭りへの参加、畑作業を行いました。地域の方々や他の座・沖島のメンバーと協力し、一つのことをやり遂げる力を身につけることができたと思います。今後も積極的に活動に取り組み、より深く地域の方々と関わっていけるよう努力していきたいです。

後藤千彬（国際コミュニケーション学科１回生）

沖島の方との食事の中で、たくさんのコミュニケーションをとることができました。そこから、人とのつながりは、食事を一緒にすることと関係があると考えました。だから、これからの座・沖島の計画は、郷土料理を作り、一緒に食べるということをするのも良いのではないかと思いました。

種池旅人（生物資源管理学科１回生）

コロナ対策が緩和されたことで、マルシェや運動会、左義長祭りなど様々な行事に参加することができました。その中で地域の人々と触れ合い、良い関係を築き、多くの思い出を作ることができました。今年は新しいことにもチャレンジしつつ、沖島のさらなる魅力を発見、発信していきたいと思います。

高山梨香（地域文化学科１回生）

今年度の冬から代表を引き継ぎ、初めは不安でしたが、メンバーに助けてもらいながら徐々に慣れることができました。何よりいつも暖かく迎えてくださる島の方のおかげで座・沖島の活動を円滑に行うことができ、人との繋がりを学べた1年でした。これからも積極的に活動に励んでいきたいです。

寳田美乃里（国際コミュニケーション学科１回生）

地域からのコメント（抜粋）

沖島町離島振興推進協議会　冨田雅美さん

昨年度に引き続き、耕作放棄地に青パパイヤの栽培していただきました。収穫したパパイヤは秋に行われた沖島初のマルシェ「おきしまるしぇ」で販売し、たくさんの方に買っていただくことができました。また、マルシェでは 10 名の学生さんにお店のお手伝いをしていただき、大変賑わったイベントになりました。

春祭り、夏祭りは残念ながらコロナ禍のため参加を断念してもらいましたが、運動会や沖島左義長など、本来の沖島行事にも参加していただき、島民の皆さんとの交流も少しずつ取り戻せた一年になりました。来年度も沖島の色々な行事に参加してもらい、明るい光をもたらせてもらえたら嬉しいです。

指導教員より（抜粋）　地域共生センター　上田洋平

コロナ禍の中、できるだけ非接触型で、屋外でできることをということで、生い茂る草や茨と格闘しながら開墾した島のはずれの水田跡。そこに植えた青パパイヤがあんなに次々実を結ぶとは驚きだった。今年もまたパパイヤは実り、秋には「おきしまるしぇ」の屋台の隅に並べることができた。少しずつ、以前の風景が戻ってきた。しかも以前より一層、その風景に華やぎが添えられて。

座・沖島にかぎらず、まちづくりにかかわる作業・労働のモチベーションは「なおらい（直会）」にある。とりわけ沖島のなおらいとなれば、すこぶるうまい湖魚の数々。フナのジョキ、鮒ずし、本モロコの素焼きなどを学生、島民入り交じって食べて喋る…ということがほとんどできなかったこの 3 年近く。そんな中でも明るく地道にチームの命脈をつなぎ、島の人たちとの交流を温め続けてきた。とても難しい期間を越えて無事にバトンが渡された。それを支えたリーダーたちに感謝しよう。

数年前まで沖島に継続的にかかわる若者は座・沖島の学生以外にはいなかった。今年は島で修業を終えた若い漁師が誕生し、小説家が住み着き、漁協には近々新メンバーが加わる。皆で手伝って進めてきた資料館の再建も成る。いろいろな「いる」と「する」とがふつふつと沸点に近づいている。沖島のまちづくりが次のフェーズに「なる」。化学変化は近い。Be the change you wish to see in the world.　皆でまじりあって、ともに沖島の変化になろう。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

・感染防止対策の徹底

DELIVERABLE　成果物／制作物

青パパイヤ

年表 下書き

19 男鬼プロジェクト

里山の原風景をつむぐ、おおりびと

廃村集落・男鬼（おおり）の持続的な再生を目指して、集落のさまざまな可能性を模索しながら、集落の調査・研究と実践活動に取り組んでいます。

TEAM DATA

チーム名： オオリヤロウ
代表者： 澤木花音（環境科学部）
メンバー数： 12名
指導教員： 芦澤竜一、川井操（環境科学部）
活動場所： 男鬼集落跡（彦根市）
関係団体： おおりびと
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT　実施事業

(1) 家屋解体ワークショップ
★見出し写真：ワークショップの様子（09/12）

(2) 家屋の改修提案

(3) 木材倉庫整理と記録

(4) 裏山の杉の伐採

(5) 男鬼キャンプ

(6) 畑開墾・種植え

畑を開墾（05/04）

(7) 周辺の地形調査

(8) 地域行事参加

春祭りに参加（05/08）

1年のまとめ・考察（成果と課題）

今年度の活動では、研究活動として、将来を見据えた集落・家屋の提案、また実践活動としては家屋の解体や裏山の木の伐採などを行なった。1年間を通して研究と実践の両軸を行き来しながら活動に取り組むことができた。

研究活動では、集落の将来のビジョンを見据えた家屋の活用プランを検討した。集落の代表の方も含めた打ち合わせを重ね、まだまだ模索中ではあるが少しずつ方向性を示すことができたと思う。他にも、集落の周辺地形調査や、水インフラの整備についてなど、プロジェクトの今後の発展につながる調査を進めることができた。

実践活動としては、対象家屋の解体ワークショップ、それに伴う残置物･粗大ゴミの搬出と処理、裏山の木の伐採などを行った。体を動かして行う現地活動の中では、囲炉裏の火で昼食を作ったり、畑を耕したり、集落を流れる小川で皿を洗ったり、そんな小さな動作がどこか懐かしく感じる体験をした。どんな場所にも積み重ねられ、築かれた記憶があり、その実感を持ってプロジェクトに取り組むことで、集落がみせる風景、可能性が少しずつ広がっていくのだと思う。

そうした実践活動の中で得られる実感、感覚を持ちながら、研究活動として集落の可能性を模索していく、調査を進めていくことで、集落の今後の発展につなげることができるのではないかと考える。

活動を通して学んだこと

調査と記録の昨年度を経て今年度の活動では、民家の解体や裏山伐採など、実際に集落に手を加えていくことに取り組んだ。その中で、現地活動の中でしか得られない実感があること。その実感を持ってプロジェクトと向き合うことが将来の発展につながっていくことを学んだ。今後も一歩ずつ、丁寧に課題と向き合い、プロジェクトの発展につなげていきたい。

澤木花音（環境建築デザイン学科４回生）

昨年度の畑や堆肥づくりから、廃村再生していく方向性や手法を定めるべく、本年度は、廃村の関係から得られる木材や、民家解体から出る端材、林業の名残の樹木などの具体的なものの調査、収集を行った。来年度は、これらの材料を活用して、実際に廃村で活動していくための道具や什器の制作に励み、少しずつではあるが、集落に活気を生み出すきっかけ作りを行っていきたい。

岡田大志（環境科学研究科環境計画学専攻２回生）

地域からのコメント

男鬼町 比婆神社氏子総代　大久保則雄さん

県立大学学生窓口が、川畑さんから岡田さんに引き継がれて一年が過ぎた。彼の尽力があって、9月に一般社団法人「おおりびと」の設立が実現できた。理事会で文字部局機能を担ってくれている。拙宅の調査・廃品の処理、協力者による提供製材端材の調査・保管を通して地権者との信頼感も広がってきた。5月比婆神社の春祭り、11月しめ縄奉納では一緒に参拝手伝いをしてくれた。師走12月には、拙宅周囲の樹木伐採にも着手された。歴史文化の高い潜在性、芦川源流の治山治水の側面を併せ持つ男鬼町。来年度は、社団法人として活動が本格化する。持続性を持って、当初の目的を一歩ずつ進めていただきたい。

指導教員より

環境科学部　芦澤竜一

プロジェクトが始まり、二年目となった本年度では、畑実践や民家の実測、記録、男鬼集落に現存する比婆神社、日枝神社での祭事の参加といった集落風景を再現、あるいは継承を目的とした活動に加え、より具体的に、集落再生のための民家の改修等に必要な材料の収集を軸として学生が主体となり、活動を行なっている様子が見受けられた。これらの活動は、本年も新聞記者の取材や日本の古き良き集落風景を残すことを目的として活動を行なっている企業のYoutubeに二度取り上げられるなど、活動が大学の枠を超えて、彦根地域の活性化に貢献、さらには社会に取組を知ってもらえる機会を創出したとして大いに評価できる。来年度以降も、収集した材料やこれまでの活動をもとに、より具体的な実践を、学生が主体性をもってとりおこなうことを期待する。また、現在の資本社会からこぼれ落ち、遺構となってしまった男鬼集落の在り方をあがきながらも必死に考え続け、本学学生が社会に対してなんらかのメッセージを作品として残していくこと、主体的に社会に対して提案できる能力を身につけてくれることを願う。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

- 万全な事前準備（参加メンバー、現場の確認、作業の段取りなど）
- 感染防止対策の徹底

DELIVERABLE　成果物／制作物

家屋の解体

木材のナンバリング

20 県大ラジオ部

県大と地域をつなげるラジオ

ラジオという身近なメディアを通して大学と地域をつなぎ、ネットワークを構築すること、そのネットワークを利用して地域や大学の情報を発信していく活動を行っています。

TEAM DATA

チーム名： 県大ラジオ部
代表者： 炭田翔悟（工学部）
メンバー数： 16名
指導教員： 秋山毅（工学部）
活動場所： 学内、彦根市
関係団体： エフエムひこねコミュニティ放送株式会社
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT　実施事業

(1) 湖風夏祭模擬店インタビュー

(2) 屋外放送
★見出し写真：屋外放送の様子（07/07）

屋外放送の様子（07/11）

(3) 「学生と考えるウェブマガジン」作成の引継ぎ（株式会社中栄とのコラボ企画）

(4) 定例ミーティング

1年のまとめ・考察（成果と課題）

成果としては、湖風夏祭や屋外放送の活動で他の団体や学生、教職員と関わることによってまだ創設から2年目で認知度の低い県大ラジオ部を知ってもらういい機会になった。TTPの活動を一部引き継ぐ形ともなり、これからの活動に期待が持てる。

一方、課題は登録されている部員の人数に対して、毎週のミーティングや活動に参加する人数は極端に少なかったといこと。他団体に認知してもらう機会はあったが、それでも依然県大ラジオ部の認知度は低いと思われるのでこれからもSNSなどで情報を発信していく必要がある。ラジオ配信の機材に関しても部員がまだ使い方を完全に理解できているわけではないので、使い方について確認する機会が必要だ。さらに代表が突然変わったことによって活動が滞り、後期の期間はほぼ活動ができなかったため、当初計画していたエフエムひこねでの放送開始や学内放送ができなかった。

また前述の通り、県大ラジオ部は創設から2年目でまだ活動の実績や基盤が少なく、活動の方針が明確には決まっていない。これは逆に言えば自分たちでこれから県大ラジオ部の形を作っていくことができ、伸びしろがあるということなので積極的に行動していきたい。

活動を通して学んだこと

夏頃に数回行った屋外放送で、聞き手として話を聞くことの難しさはもちろん、声だけで伝えることの難しさを実感しました。音声だけというラジオの良さの１つは、話し手にとっては難しさの１つでもありました。その難しさと向き合いながら行った屋外放送はすばらしい経験になりました。

岩瀬心瑚（機械システム工学科１回生）

ラジオ部の屋外放送に参加した際に、外での放送を行うことで、ラジオ部の活動自体が人の目に留まりやすくなるということを知りました。そこから、「より多くの方々に放送を聞いていただくには」と意識するようになりました。日常生活の中でもこのような考え方を役立てていきたいと考えます。

野村紗来（生活デザイン学科２回生）

ラジオという形で発信するにあたって、声だけで表現することの難しさを学びました。私は人前に出て行動していくのが苦手なのですが、今回代表となったことで物事を自分で考えて行動していくことの難しさを知りました。最近はラジオを聴く人が少なくなっていますが、ラジオの良さである親近感などを心がけ、地域に発信していきたいです。

金谷翼（国際コミュニケーション学科１回生）

指導教員より

工学部　秋山毅

二年目の県大ラジオ部は、「ラジオ番組の制作と放送」に関して自分たちのできることを広げ、経験と実績を増やすことができた。濃密なミーティングでの意見交換や、インタビューのデモンストレーションの経験に基づいて、「ラジオ番組の制作と放送」の「場」を作り、その「場」に自分たち自身が育てられていった様子が特に強く印象に残っている。

特に、湖風夏祭を舞台とした「取材」に基づいた放送、自らが目立つポジションに立っての放送、学外でのイベントの取材などの経験は、関わった部員諸氏にとって新鮮であったと思う。これらの活動や、中間報告会でのコメントやリアクションを通して、「県大ラジオ部」の広報メディアとしての可能性がより明確になってきたことも印象深い。

このような活動を行う中で、ラジオ部の活動に関する課題がクリアになり、明確な問題意識として認識されたことは頼もしくもある。引き続き、活動の基本となる「ラジオ番組」の制作のスキルを高め、場数を増やしていってほしい。学外でのコンテンツ製作の活動も新たに始まるとのことで、大いに期待もしている。しかしながら、なにより無理のないように、そして頼り頼られつつ、楽しみを感じながら、多くの経験を積んでいってほしい。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

- 学外活動における交通事故防止
- 番組収録での感染防止対策の徹底

21 CEBU PARIAN PROJECT

Jesuit House の地域の歴史・文化・伝統・環境の継承

文化遺産 Jesuit House の保存を継続支援しながら、プラスチックのリサイクルを行い、地域で出たプラスチックゴミを地域の中でクリエイティブに再生し、新しい循環型社会を目指しています。

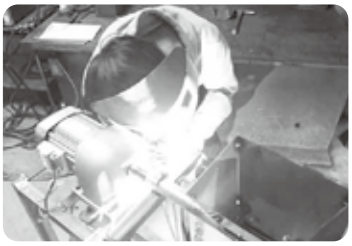
TEAM DATA

チーム名： CEBU PARIAN PROJECT
代表者： 葛輪優（環境科学研究科）
メンバー数： 10 名
指導教員： ヒメネス・ベルデホ・ホアン・ラモン（環境科学部）
活動場所： 学内、フィリピン セブ市
関係団体： NPOFootRoots 、HO-TONG FOUNDATION 他
近江楽座活動年度： 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

PROJECT　実施事業

(1) リサイクル国内ワークショップの開催（滋賀県）

(2) リサイクルマシン制作（フィリピン）



溶接の様子（08/17）

(3) リサイクル国際ワークショップの開催（フィリピン）

★見出し写真：ワークショップの様子（02/25）

(4) ひこね朝市にてワークショップの開催

ワークショップの様子（10/16）

1 年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

コロナ禍で活動がままならない中、昨年度から、廃プラスチックをリサイクルするための機械制作に取り組み、今年度は無事リサイクルワークショップを開催することができた。

その背景にはマイクロプラスチックによる湖、河川、海の水質汚染の問題がある。特にフィリピン、セブ市・パリアン地区においては、ゴミをリサイクルする環境が整っていないことや、法律によりプラスチックは適切な焼却施設以外では燃やすことが出来ず、そのまま河川や、海へ投棄されている現状があり、生活する上で不衛生な環境が現状としてある。貧困にある人々は河川や海沿いに居住しており、生活ゴミや汚水を簡単に捨てられる。

私たちの取組はプラスチックゴミを資源として新たに活用することで、地域で循環させる目的がある。ゴミの削減はアジアだけでなく、世界的なテーマでもあり、各国では様々な取組が行われている。プラゴミを再生するオランダ発祥のプロジェクト「プレシャスプラスチック（Precious Plastic）」の一環で機械の設計図を公開しており、この取組は世界 100 か国ほどに広がっている。設計図を基に制作した加工機械を使い、ペットボトルキャップを細かく砕き、180 度程度の電気熱で溶かし、人が押し出す力で金型の枠にプラスチックを流し込む仕組みとなっている。これらの過程から、コースターや壁に張るタイルや、チェス盤等に新たに活用することができる。

夏には現地フィリピンで利用するため、1 週間半ほどの短期間の中、機械 2 号機の制作に取り組み、秋までには第一回目の国際リサイクルワークショップ開催につなげることが出来た。プラスチックをリサイクルするには設備が必要であり、個人ベースではリサイクルに関わりにくいため、CEBU PARIAN PROJECT は、子どもから大人まで誰もが参加することができるワークショップを開催することで、湖、河川、海に廃棄された廃プラスチックゴミに関心を持ってもらい、滋賀県の琵琶湖・フィリピンの環境を綺麗にすることをテーマに持続可能な環境調和のまちづくりを目指していきたいと考えている。

活動を通して学んだこと

セブでのワークショップの活動を通して学んだことは、「本当の豊かさとはなにか」と考えさせられたことです。カオハガン島やセブの大人、子どもたちは日本にいる私達より経済水準は目に見えて低いと感じました。しかし、いつも笑顔で私達に微笑んでくれる姿をみて、お金では買えない暮らしや生活の豊かさを感じました。

大柳諒（環境建築デザイン学科 3 回生）

今回のプラスチックリサイクルのワークショップでは、子どもの参加者が多かった。なので、リサイクルによる環境問題への影響や数値的なデータなどではなく、シュレッダーやインジェクションなどを使ってものづくりを実際に体験し、身近にリサイクルを感じてもらうためのワークショップになった。

矢間寛汰（環境建築デザイン学科 3 回生）

実際にリサイクルをするという体験を通して、子どもたちと環境問題を楽しく学ぶ機会を共有することの重要性を感じました。例えば、プラスチックゴミを分別するときに、この体験を思い出してくれるだけでも当活動は価値のあるものであると考えます。環境問題を身近に感じる機会をつくることができたのではないかと思います。

境理央（環境建築デザイン学科 3 回生）

地域からのコメント （抜粋）

ワークショップ参加者の声

・環境問題については知っていたけれど、このリサイクル方法は初めて知った。
・リサイクルの仕組みが興味深い。
・リサイクルの流れが見えることで、分別やリサイクルをしようと思った。
・今までのリサイクルは仕組みが見えなかったから、具体的に理解できた。
・知育玩具として何か使えないか。
・ハート型やピンクなど、バリエーションを付けると子どもも気に入るのではないか。
・実際に販売は可能かどうか。
・実用的なものであれば、どんなものが作れるか。
・若い人たちがこうして環境問題に取組んでくれて嬉しい、安心出来る。
・環境問題は重要な問題で、色んな人に知ってもらいたい。

ワークショップを開催する上で、様々な意見を頂くことができ、今後の活動をより良くしていくためのヒントを得ることができた。

指導教員より

環境科学部　J.R. ヒメネス . ベルデホ

CEBU PARIAN PROJECT はゼロから始める新しいプロジェクトではありません。 2021 年に終了した JESUIT HOUSE PROJECT をもとに、今年も大きな期待を込めて CEBU PARIAN PROJECT がスタートしました。2022 年は当初から COVID-19 の影響で制限がありましたが、CEBU PARIAN PROJECT は滋賀で 3 回、海外で 3 回のワークショップを行うなど、プラスチックのリサイクルプロジェクトで多くの活動を行うことができました。来年も CEBU PARIAN PROJECT が活動を継続し、NPO 法人フットルートと三鷹グループの協力を得て、セブでプラスチックのリサイクルに関する新しいアイデアを実行できることを願っています。

リスク安全管理と新型コロナウイルス対策

・住民への配慮ある行動と衛生管理の徹底
・リサイクル機械を使用する際、取り扱う側、参加者とも火傷やケガのないよう十分に注意する。
・感染防止対策の徹底

DELIVERABLE　成果物／制作物

コースター

2-2 『らくざしんぶん』

「らくざしんぶん」はチームが1年の活動をまとめた活動報告新聞です。共通トピックである①「**チームのビッグニュース**」②「**プロジェクト紹介**」③「**プロジェクト自慢**」④「**地域の声**」⑤「**成果と課題**」を中心に記事を作成しています。

近江楽座ホームページの「楽座文庫」に、カラー版の PDF ファイルを掲載しています。ぜひ御覧ください。

＜近江楽座ホームページ「楽座文庫」＞
http://ohmirakuza.net/books/

01 あかりんちゅ

あかりんちゅ

AKARINCHU NEWS March 31,2023

あかりんちゅとは

あかりんちゅとは、雪国などからやりなく排棄されてしまう蝋燭、通称「残ろう」を回収・再利用し、手作りキャンドルの販売、キャンドルナイト・キャンドル作り教室の開催を行っている。モットーは「スロウスローを夜を。」

八幡堀まつり

2022年10月22,23日に、滋賀県近江八幡市にある「八幡堀」にてキャンドルナイトを行なった。あかりんちゅが八幡堀まつりに参加したのは初めてで、22日は他の団体のキャンドルナイトの見学・お手伝いを行い、23日にあかりんちゅのキャンドルナイトをした。キャンドルを300個使用し、300個は「かわらミュージアム」前の道を埋め、残り200個は通路にハート型に並べて点火した。ハート型に並べた蝋燭の光が揺で揺っていた様子の方から、「とても綺麗！」と感想をいただいた。暗と光が生み出す空間が魅力的で、八幡堀まつりにきてくださった方も、楽しんでくださった。

さまざまなイベントを実施

あかりんちゅ自慢

①3プロジェクトであり、イベントを行った際の依頼料と販売の売上金で活動していること。

②屋内外、どこへでも行って活動できること。材料は自分たちが全部拾っていくため、体験教室は平らなところとコンセントが1つあれば活動できる。

③様々な団体との関わりがあること。近江電鉄の団体から、キャンドルナイト用のロウソクを作ってくださる障害団体のジョブカレさん、残ろうを集めてくださる滋賀教区浄土宗青年会さんなど、2つ目に挙げた特性上、様々な人と関わって活動していける団体である。

感染予防対策

コロナ禍に合わせて、製作体験会の時には必ず手指消毒をしていただき、会場では必ず換気を行なった。

02 内湖の再生と地域の水辺コーディネート

発行日 2022年3月31日

滋賀県大生き物研究会

滋賀県大生き物研究会とは

滋賀県大生き物研究会とは、滋賀県立大学内や琵琶湖周辺の調査や保全、観察会などを行っている団体です。活動は、観察会、講演会、ワークショップ、ブックトークの観察会、講演会、ポスターの展示などを行いました。メンバーは、生き物好きな個性豊かな人が集まっています。

プロジェクト自慢

生き物研究会には、いろいろな知識や経験を持った人たちが集まっています。生き物研究会に所属するけれ今まで知らなかった生き物たちに出会えるかも？ 皆さんも魅力的な生き物がたくさんいる場所を探して、自分の観察眼を磨けばいかが

地域の方の声

地域の方に知らなかった生き物を見つけたりするとまんな生き物がいたんだ！知らなかった。今はまき物が増っていたりするけど、頑張ってねと応援されることもあります。

チームのビッグニュース！

2023年の湖周辺に生き物研究会が行った、カクビロアメンボをくいたあのオイカワ先生から評価をいただきました。

カクビロアメンボは、大きさ約1cm程度の水生昆虫で、今生き物界隈で最もアツい虫といっても過言ではありません。

そんなカクビロアメンボに触れられる機会として設けたカクビロアメンボすくいについてオイカワ先生は、「ブックカクビロアメンボはよく飛ぶから、その辺から採ってきた個体でカクビロアメンボすくいをしたら、万が一逃げても遺伝子攪乱につながるリスクが低く、これは良い提案ですね。（ママ）」とおっしゃっていただきました。

一年間の成果と課題

今年一年で活動の輪を大きく広げられましたがまだ知識や経験面で不足しています。

調査結果を研究会に投稿することで生態系保全の一歩になります。データの管理や取り扱いが今後課題になっています。

一生き物研究会の最新情報は Twitter（@hasen_aqp）みるチェック！

03 とよさと快蔵プロジェクト

2023年3月31日 近江新聞

電通育英会から助成金をいただきました！

快蔵新聞

学生と地域をつなげる ワークショップ

地域とのコミュニケーションの場 タルタルーガ営業再開！

とよさと快蔵プロジェクトとは

地域の方の声

1年間のまとめ

04 障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト

近江楽座 Harmony 新聞

京都新聞福祉奨励賞を受賞

プロジェクト紹介

クリスマスコンサート

活動を振り返って

地域の方々の声

05 地域博物館プロジェクト

地域博物館新聞

2023年3月31日

米原奥伊吹展示事業完結!

東草野の魅力を伝える展示室

地域の方々からのコメント

プロジェクトの内容

06 フラワーエネルギー「なの・わり」

発行日　2023年3月31日　参産新聞

フラワーエネルギー「なの・わり」

チームビジョンフェス

二年ぶり!

子供向けイベントへの参加

地域の声

プロジェクト紹介

成果と課題

ちょっと聞いてよ!プロジェクト自慢

07 廃棄物バスターズ

発行日　令和5年3月31日

廃棄物バスターズ新聞

新たな環境モデルの構築へ

周南プラスチック×科学

マイクロプラスチック調査

琵琶湖で採取を実施

スポGOMI in HIKONE

ゴミ拾いはスポーツだ!

広報活動

今後の展望

ご当地キャラ博2022参加

彦根キレイ隊参加

その他の活動

08 政所茶レン茶ー

政所茶新聞

新茶摘み
三年ぶり学外参加者募集

イナズマロックフェス2022に参加

09 BAMBOO HOUSE PROJECT

BAMBOO HOUSE PROJECT

10 とよさらだプロジェクト

とよさらだ新聞

とよさらだプロジェクトとは

湖風祭出店！

みかんへの挑戦

十三年の歴史に幕

活動の振り返り

地域の声

11 犬上川竹林整備プロジェクト

竹林GAKU

竹林GAKUとは

ミニ門松ワークショップ

プロジェクト自慢

地域の方の声

成果と課題

12　日夏里かがやけプロジェクト

リソーズ
日夏里かがやけプロジェクト

リソーズってどんな団体？

2022年度から恵庭市日新町で活動を開始した団体です。リソーズでは、"日新町での活動を通じて地域の人と交流すること"、"日新町の魅力を発信して日新町を盛り上げること"を活動目的としています。
学生主体の活動なので、自分たちで企画したり、新しいものをつくるという経験ができます！

リソーズ的ビッグニュース

昨年11月に行なわれた満風祭では露店を販売し、2日間ともに完売することができました！自分たちで勉強したサツマイモを素材として利用し、美味しさにこだわった商品を作ることができました。
食べに来てくださった方々、ありがとうございました！

一年間の成果と課題

一年間での一番の成果は、一年間継続して活動することができたことです。メンバーも少ない中、様々な活動を行なうことができたのは積極的に活動に取り組んでくれる地域の方、メンバーのおかげだと思います。
その中でも観市に出店し、多くの人とお話できたことはリソーズ全体の士気の向上につながりました。自分たちで商品した事業を販売することで廃棄物を生産するという立場にも立つことができたのではないかと思います。
一方でメンバーが少なく、なかなか活動に人が集まらないことや自分たちの活動範囲が狭まれてしまうことがあったので、活動に関わってくれるメンバーを積極的に募集します。はじめに立てた事業計画通りに活動を行なうことができなかった点は大きな課題だと思います。
一年間の活動を通して感じかかる時間だったり、観市の準備にかかる時間などがなかったので、来年度は実現可能な事業計画を作成します。

どんな人が活動していたか？

リソーズに入った理由は？
- 大学生ならではの活動をしてみたかった
- 野菜を育てて友達と食べたり、地域の人に販売するのが楽しそうだったから

楽しかったことは？
- 観市！
- さつまいも掘り！
- 収穫したさつまいもでパーティーをしたこと

大変だったことは？
- 無理のない程度で行なうため、大変だと思うことはない
- 観市の準備

地域の方の声

日夏里はかつてすばらしいまちつくりをしていたように思い、地域の資材を大切に残していくように務めてきました。しかし、日新里館のように使われていない施設や、空・ハウス・古家など地域資産が数多くあります。そんなところに若い県大生が新しい取り組みをしてくれることを大変うれしく思いました。

日新里ファンクラブ　吉川さん

13　かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-

2023年3月31日発行

かみおかべ古民家活用計画
-Sleeping Beauty-

古民家が寺子屋に!?

プロジェクト紹介

古民家の活用ポイント

事件発生　大波の大切さを実感

全体を通しての成果と課題

14　おとくらプロジェクト

おとくら新聞

おとくらとは？

ちょっと聞いてよ！

おとくら自慢

地域の声

成果と課題

15　未来看護塾

活動報告新聞

プロジェクト紹介

ビッグニュース

活動自慢

地域の声

1年間の成果と課題

16 沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト

沖島 RYUBOKUHUT プロジェクト　2022年3月15日発行

沖島に謎の休憩所現る

緑の物体の真相はいかに

ついに屋根完成か

二〇二二年一月のとある日、一つの流木ハットに屋根がかけられた。屋根を葺くことで、休憩所としての機能がさらに向上した。

同時期に、沖島のもう一つの謎、「沖島ではトラックを見かけない」という疑問がよせられた。そこで、取材を重ねることで、自家用車を運ぶ場合や海産物などを陸へ輸送することを目的としたトラックを沖島に持ち込んだ。

岸辺風呂作業の様子

学習隊八さんによる調査の様子

オルミネーションの様子

座・沖島プロジェクト

2022年3月31日発行

座・沖島新聞

座・沖島プロジェクトとは

日本で唯一、街にも公共交通も、沖島、島民は自家用車を所有しておらず、徒歩などにより、暮らしの様子がうかがえる。このような島の状況に「子ども目かってるのは？」と、なんが、まとわる。「さきなる」の二つを住民に島の魅力をアピールしている。基本的には島民にどんな活動をしているのかをヒアリングして、島民により提案した活動を目指している。

運動会のお手伝い

二〇二二年十月二日、沖島小学校で運動会が開催され、私たち座・沖島のチームも会場の設営や競技の準備などに参加した。玉入れやリレー、徒競走など、私たちも子供たちに負けないくらい夢中になって競技に取り組んだ。沖島小学校は昨年二〇二一年で創立一三〇周年を迎え、運動会終了後、島の高齢者の方から子供たちまで、たくさんの人が集まり、みんなで「一三〇」の数字になるように記念撮影した。上空からドローンで記念撮影した。

当日グッドリレーのお手伝いをする様子

潮魚祭りで青パパイヤ販売

二〇二二年十月三十日に、沖島で潮魚祭り（おきしまるしょ）が開催された。島の方が積ったホンモロコやびわ茶、島で採れた野菜を使ったカレー、使わなくなった食器などが売られており、私たちは、沖島のチームとおりの出店で配布し、販売や接客の手伝いをした。また、座・沖島のチームが沖島の特産品の青パパイヤを使用した、あまり見かけない青パパイヤを育ってくださるお客さんを多くの種ほど買ってもらうことができた。

収穫した青パパイヤを販売した様子

プロジェクト自慢

もっと聞いてよ！

地域の方の声

潮魚祭りや住民参加の行事に参加したり、本来の沖島行事にも参加していただき、島民のおじさんとの交流やレクリエーションを取り組ませた。これからグループ活動の活動を通して沖島の方と交流を深めることができたこと。これから、「一緒になりましょう」、「楽しい沖島の色」の行事に参加してもらい、明るい笑顔をもたらせたらと思います。

1年間の活動を振り返って

潮魚祭りや収穫祭を通して沖島の方と交流を深めることができた。これからグループ活動の活動を通して沖島の方と交流を深めることができたこと。これから、「一緒になりましょう」、「楽しい沖島の色」の行事に参加してもらい、明るい笑顔をもたらせたらと思います。

17 Taga-Town-Project

18 座・沖島

19 男鬼プロジェクト

おおりびと

2021年12月31日発行

3月31日

男鬼プロジェクトについて

男鬼風景がかせる風景

今年度の活動のふりかえり

地域の声　大久保 則雄さん

News

活動を取材していただきました。

20 県大ラジオ部

2023年3月31日

県大ラジオ部

発行
県大ラジオ部
滋賀県立大学
近江楽座
活動報告新聞

県大ラジオ部とは

県大ラジオ部は「地域と大学を繋げるラジオ番組」をモットーに前年度発足し活動を開始しましたが、前年度はエフエムひこねでの番組放送を主な活動としていましたが、今年度は滋賀県内での番組放送インタビューや県大キャンパス内での屋外放送の二つが主な活動となりました。地域と関わりの強いこの滋賀県立大学ならではの特徴を生かす広報という重要な役割を担っていきたいと考えています。

ある団体の活動の一部を引き継ぐことなど

多賀町の魅力を発信する近江楽座「Taga-Town-Project(TTP)」、その活動に関心を示が今年度ついなくなるとい

とで、その一部活動を県大ラジオ部が引き継ぐことを2022年2月6日に決定しました。そのプロジェクトとは豊郷市にある高速道路整備会社中央のウェブマガジン作成です。大変時の対応や作業員の方の一日などと普段知ることのない情報を、県大ラジオ部ならではの音声収録を織り交ぜて発信していきたいと考えています！

屋外放送にて学長との交流も

7月15日から21日にかけて、滋賀県立大学キャンパス内で屋外放送を実施しました。その最中にこの県立大学の真川亮所学長にもお考つて声をかけていただきました。

屋外放送の様子

地域の声

今年度はエフエムひこねラジオ番組の放送開始を出来ず、地域の方との関わりが取れませんでした。来年度からは同じ中の株式会社中央さんなどから、放送の関わりを求めていきたいです。

活動を振り返って

学内での活動を通して他の団体や教職員の方々と関わることによって、まだ認知度の低い県大ラジオ部を知ってもらういい機会になりました。TTPの活動を一部引き継ぐことにもなり、今後の活動にも期待の持てる結果となりました。

実際の代表の変更により後期は活動が出来ず、地域との関わりが取れませんでした。来年度は学内から活動を広げてエフエムひこねへの登場を目指していきたいです。

21 CEBU PARIAN PROJECT

Cebu Parian Project　2022

セブ パリアン プロジェクトとは

背景と目的　滋賀県 × フィリピン

プラスチックリサイクルで新しい価値を

活動報告　機械製作とワークショップの運営について

3 共通プログラムの報告

3-1 活動の安全確保のためのスキルアップ講座

近江楽座における地域活動をより安全に行うために、実践的安全管理の進め方と、活動にともなうリスクの多い交通事故の防止について、専門家を招いて連続講座を開催しました。

第一回　ボランティア活動における実践的安全管理について

日時：2022 年 6 月 28 日（火）18：10 ～20：10
会場：湖風会館 (A7 棟)　会議室・談話室
講師:NPO 法人国際ボランティア学生協会（IVUSA）
　　危機対応研究所　深山恭介さん

〈当日の流れ〉
0．IVUSA について
1．リスクヘッジについて
2．危険予測活動について
3．安全管理チェックシートの作成

NPO 法人国際ボランティア協会（以下、IVUSA）の深山恭介さんを講師に迎え、「ボランティア活動における実践的安全管理について」お話いただきました。活動で最高のパフォーマンスを発揮できるよう、リスクマネジメントの知識やスキルを身につけることを目的としました。

1．リスクヘッジについて

リスクを知ることで予測が生まれ、対応することができるということを、グループワークを行いながら学びました。「一人では考えうるリスクには限りがあるので、数人と話し合いをしながら考えていくというのが大事だと思った」「他の人からの目線で指摘をしてもらうことができよかった」「近頃はコロナ対策ばかりで、他のリスクマネジメントが疎かになっていることに気づかされた」という感想がありました。

グループワークの様子

会場の様子

2．危険予測活動について

近江楽座チームが活動している時の写真を使って危険予測活動を行いました。写真の中にどんな危険が潜んでいるのかを書き出し、危険のポイントを抜き出します。そこから具体的な対策を考え、チームの行動目標を決めていきます。

3．安全管理チェックシートの作成

ハインリッヒの法則を説明いただき、過去の自分たちのヒヤリ・ハットを書き出し、共有し、過去の自分にアドバイスをする形で安全管理チェックシートを作成しました。学生の感想には「改めて考えさせられ、再度、チーム内でも気を引き締めて活動を行っていきたい」「考えられるリスクとリスクヘッジを事前に考えておく大切さを学ぶことができた」「回避しようのないこともあるので、その時の対処方法も考えておく必要があると思った」「安全確認チェックシートをつくっておきたいと思った」といった、今回の講習をこれからの活動に生かしていくという声が多く見られました。

ぜひ各々の活動の中でリスク安全マニュアルを作成し、今回の講習の内容を実践していってください。

第二回　交通事故防止について

日時：2022 年 7 月 15 日（金）14：50 ～ 15：50
会場：湖風会館 (A7 棟)　会議室・談話室
講師：彦根警察署 交通課警部補　藤井正樹さん

彦根警察署交通課警部補の藤井正樹さんを講師に迎え、「交通事故防止について」をテーマに、①自動車事故防止、②自転車安全利用、③飲酒運転の危険性についてお話いただきました。

まず、管内の人身交通事故の発生状況について説明いただき、事故の多い時間帯や季節による変化、見えやすい色と見えにくい色、年齢による違いなど、具体的に話していただき、とても興味深く聞くことができました。自動車の安全運転のポイントや自転車の交通ルールや事故が多い場所、飲酒運転の怖さなど、わかりやすく話していただきました。

学生からは、「交通ルールを理解することはあたり前のことだが、改めてこのような講習を受けることができてよかった」「車での事故だけでなく、自転車での事故もすごく危険だとわかった」「一番難しいと言われる自転車の交通ルールについて詳しく知ることができ、とても勉強になった」「事故が起こりやすい時間帯など、注意すべきポイントがよくわかった参考になった」「私たちの団体は車を使用する機会が多いため、本講習は参考になった」という感想があり、改めて安産運転について気を引き締める機会となりました。

会場の様子

3-2 中間報告会「地域活動の今を考える」

この３年、コロナ禍による制約や社会状況の大きな変化に直面しながらも、近江楽座で活動する学生たちは様々な工夫をし、すばらしい成果を上げてきています。一方で、様々な課題も抱えています。地域と関わる近江楽座の活動スタイルは多種多様で、学生たちが考え、悩み、実践していることが次の大学・学生と地域との関わりのあり方を拓いていきます。

そこで、今年度の中間報告会は、「地域活動の今を考える」と題して、学生たちのプロジェクトの活動報告を受け、情報共有を行うとともに、先輩をゲストにお招きし、活動へのアドバイスをいただきました。

日　時：2022 年 12 月 14 日（水）～ 16 日（金）
各 16:30 ～ 18:00 または 18:10 ～ 19:40
会　場：湖風会館（A7 棟）談話室、会議室
参加者：約 60 名

＜プログラム＞
1. 各チームからの活動報告（発表時間 5 分）
2.「活動記録シート」へのコメント（質問や共感、意見などの書き出し）
3. コメントの共有と先輩ゲストのアドバイス

＜中間報告会日程＞

	12/14(水) 5限（16:30-18:00）	12/15(木) 6限（18:10-19:40）	12/16(金) 5限（16:30-18:00）
1	あかりんちゅ	滋賀県大生き物研究会	とよさと快蔵プロジェクト
2	ボランティアサークルHarmony	廃棄物バスターズ	政所茶レン茶ー
3	地域博物館プロジェクト	BAMBOO HOUSE PROJECT	フラワーエネルギー「なの・わり」
4	竹林GAKU	かみおかべ古民家活用計画	沖島RYUBOKU HUT プロジェクト
5	未来看護塾	おとくらプロジェクト	座・沖島
6	男鬼プロジェクト	県大ラジオ部	日夏里かがやけプロジェクト
7		CEBU PARIAN PROJECT	

1 日目（12/14）

ゲスト：本間浩平さん (株式会社 hanikam 代表)
ART FORUM DIG'S- 近江八幡を掘り出せ！
2009 ～ 2011
近江楽座学生委員会 2010-2011
司会者：平岡俊一先生（環境科学部）
参加者：17 名

質問・コメントの共有では、いろんな団体とつながっていく工夫や活動での安全対策、活動メンバーの固定化についての解決策などについて意見交換を行った。先輩ゲストからは、「活動で知り合った人と今の仕事でつながっている」「学生時代に組織を動かすことの難しさを知っておくと、社会に出てからその経験が活きてくる」等、コメントいただきました。

2 日目（12/15）

ゲスト：北野大輔さん
（滋賀県農業技術振興センター技師）
滋賀県大 BASSER'S 2012-2015
司会者：印南比呂志先生 (人間文化学部)
参加者：24 名

質問・コメントの共有では、活動で得られたデータの公開・発信や同じテーマで活動している団体同士の連携、コロナで活動がストップする中での引継ぎ方法などについて意見交換を行った。先輩ゲストからは、「コロナ禍で一般の地域団体でも活動が続けられなくなっている中で、学生のみなさんが活動を続けていることがすばらしい」「プロジェクトの大きな目的に加えて、毎年、何かひとつ新しいことにチャレンジすることも大事」「地域との関わりや各種書類づくり等で苦労したことが今の仕事に活きている」等、コメントいただきました。

3 日目（12/16）

ゲスト：上田健太郎さん（近鉄不動産）
　　とよさと快蔵プロジェクト 2016 ～ 2019
司会者：中村好孝先生 (人間文化学部)
参加者：16 名

質問・コメントの共有では、地域の人との関わりの変化やネットや LINE の活用、QR コードを看板につけるアイデア、活動メンバーの集め方、楽座団体同士の連携、などについて意見交換を行った。先輩ゲストからは、「コロナ等問題が多いにもかかわらず、皆さんパワフルに活動している。個々の団体で様々な問題をかかえていると思うが、それを難しいととらえるのではなく、楽しいこととして頑張ってほしい」等、コメントいただきました。

3-3 活動成果報告会

2022 年度近江楽座活動成果報告会を 4 月 24 日、27 日、28 日の 3 日に分けて開催しました。また、「とよさと快蔵プロジェクト」が昨年に引き続き公益財団法人 電通育英会の令和 5 年度の助成団体に選ばれ（2 年連続）、1 日目冒頭に、井手理事長より助成決定の伝達が行われました。

日　時:2023 年 4 月 24 日(月)、27 日(木)、28 日(金)
　　各 16:30 ～ 18:00
会　場：滋賀県立大学 湖風会館 会議室・談話室
参加者：約 70 名

＜プログラム＞
1. チーム発表（発表時間 7 分）
2. 質問・意見の書き出し
3. 先輩ゲストのお話と意見交換

電通育英会助成決定伝達式（4/24）

電通育英会は 1963 年に株式会社 電通により設立された奨学財団で奨学金の給付・貸与を行っており、また NPO 法人や大学内組織など非営利団体が行う次世代リーダーを育成する活動に対して年間 10 件程度、助成を行っています。

とよさと快蔵プロジェクトでは、今回の助成事業で、過去に改修した物件を振り返り、補修を行いながら、イベント会場、コミュニティハウスなど、新たな魅力を付与していく予定です。ただ改修するだけでなく、改修物件のその後を考えることで、まちの人との交流、空き家の活用を学ぶ機会を増やしていくことを計画しています。

＜決定内容＞
団　体　名：近江楽座 とよさと快蔵プロジェクト
助成活動名：「とよさとの空き家改修の現場を生かしたまちづくり人材の育成」
助 成 金 額：70 万円
助 成 期 間：2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

井手慎司理事長からは、「本助成事業は非常に大きな額で、しかも学生が応募できるありがたいものです。多くの団体が応募された中で、2 年続けて助成決定を受けたということは、皆さんの活動が高く評価されたということで、喜ばしいことだと思います。ただし、それだけ責任が伴います。申請した活動をきちんとやり通すことはもちろん、最後には、自分たちがやった成果をきちんと説明する。お金をどう使ったのか、きちんと説明する。そういう説明責任を充分心得て、一年間がんばってほしいと思います。改めまして、おめでとうございます」と、激励の言葉をいただきました。

伝達式の様子

｜ 1日目（4/24）

ゲスト：田出瑞季さん (興和株式会社)
　　とよさらだプロジェクト 2015-2018
司会者：印南比呂志先生（人間文化学部）
参加者：21 名
< 発表チーム >
・あかりんちゅ
・とよさと快蔵プロジェクト
・おとくらプロジェクト
・ボランティアサークル Harmony
・Taga-Town-Project

質問•コメントでは、「どれくらい売上があるのか、収支はどうか」「連携の話はどういうところから来るのか」「学生に対して思いの熱い地域の人たちがたくさんいる」「コロナ禍で十分な活動できない時のモチベーションの保ち方は」等、意見交換しました。

最後に、先輩ゲストから「私の時は代表同士、横のつながりが盛り上がっていた。今も、横のつながりやグループ、地域とのつながりを大事にしていることがよくわかった。それぞれ事情は違うが、引続きがんばってほしい」、司会者から「今年で終了するＴＴＰなどは情報発信や印刷物などのクオリティが高いので、各チームの得意分野を是非、他のプロジェクトにも教えてもらいたい」とメッセージをいただきました。

意見交換の様子

先輩ゲストからコメント

まとめコメント（井手理事長）

「地域の人・方」という言葉がたくさん出てきたが、どこそこの地域の誰々さんがいて、学生が入ると、僕と君は、誰々くんで誰々さん。みんな違う名前がある。しかも学生は毎年変わっていくので、新しい物語が生まれて、つながっていく。これからも、一人ひとり地域の誰々さん、地域の子どもたちは誰々くん、誰々ちゃん、ということを大切にして活動を続けていって下さい。

井手理事長コメント

2 日目（4/27）

ゲスト：廣瀬奈々さん
（株式会社 木の家専門店 谷口工務店）
とよさと快蔵プロジェクト 2013-2016
近江楽座学生委員会 2015-2018
司会者：金子尚志先生（環境科学部）
参加者：24 名
＜発表チーム＞
・廃棄物バスターズ
・BAMBOO HOUSE PROJECT
・リソーズ
・男鬼プロジェクト
・県大ラジオ部
・CEBU PARIAN PROJECT
・沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト

質問・コメントでは、「ゴミ拾いをスポーツとして楽しめるようにする取組がおもしろい」「企業と一緒に活動しているのがよい」「継続するには、活動に参加してどれだけ楽しいと思ってもらえるかが大事」「地域のコアな人が支えて下さっているが、世代交代が課題」「コロナ禍や渡航費の高騰により、オンラインを活用するようになった」等、意見交換しました。

最後に、先輩ゲストから「活動を継続することの意義や大切さを自分たちがどこまでわかっているかが大事だと感じた。マンネリ化して落ち込んだ時とかに、考え抜くこと。学生は毎年変わっていく、地域の様子も毎年同じではない。その中で、今自分たちがやりたいことや地域が求めていることを考えながら活動に活かしていけるのがよいと思う」、司会者から「学生が変わっていくということは、いろんな意見が出てくるということで、非常に大事。それが継続していく力になる。あと、参加者がもっとたくさんいるといいなと思った。多くの意見が出て、これだけ盛り上がる発表会なので、もっと人を動員することを考えていければいい」とメッセージをいただきました。

意見交換の様子

先輩ゲストからコメント

3 日目（4/28）

ゲスト：莚井円香さん
（滋賀県 西部・南部森林整備事務所）
かみおかべ古民家活用計画 2015-2018
司会者：佐藤亜聖先生（人間文化学部）
参加者：23 名
＜発表チーム＞
・滋賀県大生き物研究会
・スチューデント・キュレイターズ
・フラワーエネルギー「なの・わり」

・政所茶レン茶゛ー
・竹林 GAKU
・かみおかべ古民家活用計画
・座・沖島
・未来看護塾

質問・コメントでは、「学生がまずスキルを身につける（古文書を読めるようになる）ことを基本にしている」「子どもたちにうまく説明する方法」「活動を Instagram で知った外国の方が活動に参加」「知名度の高いイベント（イナズマロックフェス）に積極的に関わると、多くの人に知ってもらえる」「OB・OG の力を活用する」「人のつながりをどのように築いているのか」「失敗から学ぶこと」「学校外の団体の方から多く声をかけていただき、コロナ禍を乗り切ることができた」「活動の魅力は、将来に生かすことができること、学びの深め合い」等、意見交換しました。

最後に、先輩ゲストから「社会に出て、人とのつながりが何より大事だと感じる。大学生の時にがんばったことや知り合った人に会えると力をもらえる」、司会者から「学んだことは将来、何かの形で生きてくるので、がんばって活動してほしい」とメッセージをいただきました。

意見交換の様子

先輩ゲストからコメント

4 学生有志活動

4-1 近江楽座合同説明会

“近江楽座や近江楽座チームをもっと知ってもらおう！”、“活動に興味を持ってもらおう！”という目的から、有志チームによる近江楽座説明会が開催されました。

合同説明会

日時：2023 年 4 月 15 日（金）、18 日（月）、
19 日（火）16：30~18：30
会場：交流センター ホワイエ

開催内容：
○ ブース相談会
○ 2022 年度の活動報告新聞の展示

＜参加チーム＞

15 日：4 チーム
- 政所茶レン茶゛ー
- 座・沖島
- おとくらプロジェクト
- かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-

18 日：5 チーム
- 政所茶レン茶゛ー
- とよさと快蔵プロジェクト
- ボランティアサークル Harmony
- 沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト
- おとくらプロジェクト

19 日：6 チーム
- 政所茶レン茶゛ー
- とよさと快蔵プロジェクト
- あかりんちゅ
- 沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト
- 竹林 GAKU
- かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-

自分たちの活動を対面で、近江楽座に興味ある学生に知ってもらうよい機会となりました。参加チーム同士の交流も図ることもでき、コロナで制限されていた人とひとのつながりを築く大事な取組を繋ぐことができました。

合同説明会の様子

4-2 キャンパス SDGs week 交流会参加＆活動展示

日時：2022 年 11 月 5 日（月）～ 11 日（金）
主催：滋賀県立大学 交流センター、A7 棟講義室他
共催：びわ湖東北部地域連携協議会
協力：滋賀県、環びわ湖大学・地域コンソーシアム

県内外の学生や地域の人たちが SDGs の達成に関連する取組について対話し、交流を深め新たな試みに繋げるために集まりました。企画運営は、SDGs の取組に関心がある学生が参加し、全て学生主体で行いました。CO2 ネットゼロ社会の実現に向けて取り組む大学発ベンチャーの代表者を招いての基調講演やパネルディスカッション、活動のパネル展示＆交流会、SDGs 茶論、シネマの上映、彦根市銀座商店街での「チェアリング」などを実施しました。近江楽座からは、廃棄物バスターズと竹林 GAKU がパネル展示＆交流会に参加し、活動を紹介。他大学の学生や高校生、自治体や地域の人たちと交流しました。

キャンパス SDGs ウィークの関連イベントとして、近江楽座の 13 チームが活動紹介パネルを交流センターホワイエに展示しました。
日程：2022 年 11 月 7 日（月）～ 11 日（金）
場所：交流センター ホワイエ
出展チーム：
あかりんちゅ、滋賀県大生き物研究会、とよさと快蔵プロジェクト、ボランティアサークル Harmony、フラワーエネルギー「なの・わり」、廃棄物バスターズ、政所茶レン茶゛ー、BANBOO HOUSE PROJECT、竹林 GAKU、リソーズ、かみおかべ古民家活用計画、おとくらプロジェクト、未来看護塾

展示

4-3 B プロジェクト「県営開出今団地コミュニティ再生プロジェクト」

滋賀県と協定を締結し、県営住宅の空き住戸を活用して地域コミュニティの活性化を図る取組を進めました。本年度は、令和２年度から３か年の期間の３年目にあたります。

活動は3つの柱からなり、 1つがシェアハウス。学生が実際に団地で暮らしながら地域での共同活動を進めました。 2つ目が、学生活動の拠点「楽座ルーム」の利用・運営。 3つ目は、地域に向けてのイベントの開催です。今年は、コロナのこともあり残念ながらイベントは実施できませんでした。

シェアハウス

２戸にそれぞれ２名の学生が入居し、生活しながら階段の清掃や草むしり等の共同活動、自治会費の集金などの活動を行いました。

学生からは、地域の方々との様々なつながりを学ぶことができたという報告がありました。普段、顔を合わす人と挨拶を交わしたり、わからないことを助けてもらったり、お年寄りの方が困っていたら声をかけたり、清掃活動や草刈りをきっかけに交流を深めることができ、地域の一員として暮らしていることを実感できたとのことでした。

シェアハウスでの共同生活については、お互いに相手のことを気遣ったり、思いやりや自ら進んで取組むことを学び、有意義な生活を送ることができたとのことでした。

「楽座ルーム」の利用・運営

コロナのため、まだ十分な活動が行えない中でも、「政所茶レン茶゛ー」や「あかりんちゅ」、座・沖島、ボランティアサークル Harmony などのチームが、キャンドルやグッズの制作、お茶の商品化・袋詰め、販売準備・在庫整理、イベント準備、物品整理など、年間 39 回の利用がありました。

5 その他トピックス

5-1 京都新聞福祉奨励賞受賞

ボランティアサークル Harmony が京都新聞福祉奨励賞を受賞しました。同賞は京都府、滋賀県内で福祉の各分野における実践者で優れた業績や活動を実施し、将来、福祉のリーダーとして活躍が期待される個人または団体に贈られるもので、滋賀県では唯一の受賞。「大学生のボランティアが集まり、20 年近くにわたって先輩から後輩へ引き継ぎ、障がい児・者の余暇活動支援に取り組んでいる」ことや「若い世代の福祉への理解を深める場となっている」ことが評価され、さらに今後の活動についても期待されることから「福祉奨励賞」が贈られました。

令和 5 年 1 月 27 日に京都新聞文化ホールにて贈呈式が行われ、本学人間文化学部人間関係学科 3 回生：池山理帆（前代表）さんと人間文化学部国際コミュニケーション学科 2 回生：西村侑花（新代表）さんが団体を代表して出席しました。

贈呈式

令和 5 年 2 月 1 日、廣川理事長へ受賞の報告を行いました。

理事長からは長年の地道な活動が評価されたものと受賞を喜ぶコメントがあり、報告者からはコロナ禍で活動が途切れた状態から対面活動を再開した苦労や障がいのある方と接する中で学んだこと等が語られました。特に、障がいのあるお子さんを持つお母さんからの「無理なく楽しく」との言葉がチームみんなのモットーとなり、モチベーションを維持し、長く続けられる秘訣となっているという話が印象的でした。

報告会

記念撮影

5-2　2年ぶり 喫茶営業再開

コロナにより飲食を伴う活動が制限されていましが、滋賀県安心安全店舗認証制度の承認を受け、「おとくらプロジェクト」が令和4年5月7日、喫茶営業を再開することができました。学生たちはコーヒーの入れ方や軽食の作り方など、自粛期間中も準備を重ねてきており、この日を待ちわびていました。

当日は彦根市長もかけつけていただき、多くのメディアにも取り上げていただきました。

おとくらプロジェクト　喫茶営業再開

5-3 地域博物館の開設や教育普及活動の展開

令和４年７月1日、米原市旧東草野小中学校の校舎改装に併せて、東草野山村博物館が開設されました。令和２年から「地域博物館プロジェクト」の学生たちが中心となって行ってきた東草野地域４集落の歴史や生活など、地域の魅力を伝える奥伊吹の展示作業が完成しました。民具の収集から常設展示室の展示物の作成まで学生の手で作られた地域博物館です。東草野の４地域の景観を表したジオラマ模型も展示され、地域の生活文化を学び交流の場となることが期待されています。

地域博物館プロジェクト 集落のジオラマ模型

また、令和５年３月29日、琵琶湖の沖島で沖島資料館が新たにオープンしました。この資料館の開館にあたって、「座・沖島」と「沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト」の二つのチームの学生たちが年表など展示品作成や休憩室など施設改修に取り組み、頑張りました。資料館には様々な漁具や写真の展示、沖島小学校のコーナーなどがあり手作りの魅力ある施設です。先代の資料館が惜しくも閉館してから今まで、再開は沖島の皆さんの念願だったそうです。

このような施設整備に貢献するとともに、環境教育に関する多くの教育普及活動も展開しています。

令和４年11月13日、「廃棄物バスターズ」が守山市立図書館で開催された理系専門分野講座で中高生や地域の方を対象に、プラスチックのリサイクルやプラスチックごみ問題が社会に与える影響等について講演を行いました。

12月14日には、「フラワーエネルギー『なの・わり』」が豊郷町の隣保館で小学生にヒマワリの種を搾って油を取り出す工程を実演し、バイオディーゼル燃料に加工できることを紹介、二酸化炭素の排出削減の効果を教えました。

12月23日には、「あかりんちゅ」が愛荘町で子どもの居場所づくり活動をされている「ぱらでいろ」や、滋賀県立大学の「Hand Making Circle」と協力して、愛知高等学校、愛知高等養護学校、愛知中学校の生徒に向けたキャンドル製作体験教室を開きました。体験教室では、翌年に開催する豊満神社でのキャンドルナイトで使用するキャンドルを製作しました。２月24日にキャンドルナイトを実施し、愛荘町の中高生らや他団体の方と共同で一連のイベントを作り上げました。

この他、「CEBU PARIAN PROJECT」が滋賀県内とフィリピン セブ パリアン地区で廃プラスチックリサイクル機械を用いて、ワークショップを開催しました。また、「BAMBOO HOUSE PROJECT」が活動10年を迎えた節目として、湖南市、「菩提寺まちづくりフェスタ」で、これまでの活動を年表にまとめ、活動の紹介ポスターを作成し展示するとともに、11月、大津市で開催されたSDGs全国フォーラムに出展しました。

6 情報発信

6-1 ホームページ、リーフレット、キャンパスガイド

近江楽座ホームページの運営

URL：http://ohmirakuza.net/

滋賀県立大学における、学生の地域活動に関するポータルサイトでもある近江楽座ホームページの運営を行い、随時最新情報を更新しています。

＜楽座文庫等への追加コンテンツ＞

「近江楽座 活動報告書」、「近江楽座 START BOOK(キャンパスガイド 2023)」、楽座新聞、活動紹介リーフレット等を追加

活動紹介リーフレット 2022

デザイン：尾崎梨帆
取材協力：市榮梨佳子、河野麗

近江楽座プロジェクトで活動する学生に依頼し、近江楽座全体の取組や、2022 度近江楽座に採択されたプロジェクト 22 件と B プロジェクト 1 件を写真入りで紹介するリーフレットを作成しました。リーフレットのデザインと近江楽座 OB・OG にインタビューした「-VOICE- 先輩の声」の取材は近江楽座で活動する学生に協力いただきました。

リーフレットは近江楽座ホームページの楽座文庫からご覧いただけます。

近江楽座活動紹介リーフレット 2022

CAMPUS GUIDE 2023

キャンパスガイドに近江楽座の活動を紹介したブックインブック「近江楽座 START BOOK」を制作しました。

近江楽座 START BOOK

プロジェクトの Instagram をリポスト

各プロジェクトが上げた Instagram を近江楽座のアカウントでリポストするようにしました。

#rakuzausp で発信してもらっています。

＜掲載ページ＞

https://www.instagram.com/ohmirakuza/

7 付録

7-1 プログラム推進メンバー※

事業推進代表者	滋賀県立大学理事長　廣川能嗣
事業推進責任者	近江楽座専門委員会　委員長　印南比呂志

近江楽座専門委員会

環境科学部	浦部美佐子
	林宰司
	平岡俊一
	金子尚志
	迫田正美
工学部	河﨑澄
	柳澤淳一
人間文化学部	石川慎治
	印南比呂志
	佐々木一泰
	原未来
人間看護学部	伊丹君和
	横井和美
地域共生センター	鵜飼修

近江楽座事務局	秦憲志
	杉田弘一
	森久友紀子

※ 2022 年度 (2023 年 3 月末時点)

このほか、近江楽座に関わり支援いただいたすべての方にお礼申し上げます。

7-2 メディア掲載一覧

No	日　時	チーム	メディア・団体	見出し・視察内容
1	2022.12.24	あかりんちゅ	中日新聞　20 面	使用済みろうそく　キャンドルに再生 愛知高生が県立大生と制作
2	2022.12.28	あかりんちゅ	彦根経済新聞	愛荘町で「再生キャンドル」ワークショップ 県大生・高校生が交流し制作
3	2023.3.2	あかりんちゅ	ZTV コミュニティチャンネル	「おとくら」でリサイクルキャンドル展
4	2023.2.26	あかりんちゅ	中日新聞　19 面	再生ろうそくで温か「愛」 愛荘 県立大生らキャンドルナイト
5	2022.10.25	とよさと快蔵プロジェクト	IKUEI NEWS 10 月号	助成活動レポート 「空き家 改修を通じた地域交流の活性化で、町を元気に」
6	2023.2.18	とよさと快蔵プロジェクト	滋賀彦根新聞　2 面	豊郷６会場にて「雛人形展」 琵琶湖八景とアニメーション
7	2023.2.21	とよさと快蔵プロジェクト	中日新聞　15 面	豊郷の６会場でひな人形 岡村本家…酒蔵の雰囲気生かし展示
8	2023.2.26	とよさと快蔵プロジェクト	読売新聞 折込「DA・DA Journal」1面	とよさと ひなめぐり 豊郷町にゆかりのある約 30 台のひな人形を町内スポットに展示 ⑥岡村本家「滋賀県立大学生による創作展示」
9	2022.11.16	ボランティアサークル Harmony	滋賀彦根新聞　2 面	Xmas コンサート 障害児と楽しむ 19 日
10	2022.11.21	ボランティアサークル Harmony	中日新聞	障害のある人も生演奏を楽しむ
11	2023.1.26	ボランティアサークル Harmony	京都新聞　10 面	心豊かな未来のための力に「京都新聞福祉奨励賞」 ボランティアサークル Harmony
12	2023.1.28	ボランティアサークル Harmony	京都新聞　25 面	京都新聞福祉賞・奨励賞　贈呈式 福祉の功績　次世代へ
13	2023.3.8	ボランティアサークル Harmony	中日新聞　19 面	障害者の油絵「個性感じて」 大津で県立大生　支援の活動展示
14	2022.7.22	スチューデント・キュレイターズ	ZTV 彦根放送局	「おうみ！からわ版 彦根」東草野博物館について
15	2022.8.2	スチューデント・キュレイターズ	中日新聞　12 面	雪深き東草野の魅力伝える　県立大生ら協力 旧 小中学校に「博物館」開設
16	2022.12.15	フラワーエネルギー「なの・わり」	中日新聞　12 面	県立大生が出前授業
17	2022.10.27	廃棄物バスターズ	朝日新聞　20 面	遊・You・友 湖南 廃棄プラスチック問題と材料科学について
18	2022.12.6	廃棄物バスターズ	びわこ放送「ニュースしがいろ」	㈱たねやさんと一緒にびわこ清掃活動
19	2022.8.2	政所茶レン茶゛ー	dancyu 8 月号	ニッポン美味紀行 45　滋賀の政所茶
20	2022.12.4	竹林 GAKU	中日新聞　15 面	しめ縄と門松作り　迎春準備 多賀で親子ら　伐採した竹を活用
21	2022.4.25	おとくらプロジェクト	NHK 大津「近江発 630」	古い町屋で地域を元気にしようと挑戦する大学生
22	2022.5.8	おとくらプロジェクト	中日新聞　18 面	ギャラリー喫茶「おとくら」2 年ぶり再開 県立大生らが運営　地域の応援励みに
23	2022.6.6	おとくらプロジェクト	中日新聞	座ギャラリー　大山恵喜さんの展示「七十二候」
24	2022.8.10	おとくらプロジェクト	ZTV 彦根　おうみ！かわら版彦根	ギャラリー輪輪　座・沖島の展示

No	日　時	チーム	メディア・団体	見出し・視察内容
25	2023.1.18	あかりんちゅ おとくらプロジェクト	滋賀彦根新聞　1 面	ウクライナ人画家の作品展　高宮で２２日まで 田園風景など…「座ギャラリー」にて ギャラリー喫茶「おとくら」では「あかりんちゅ 」 のリサイクルキャンドルの展示販売も。
26	2022.11.4	沖島 RYUBOKU HUT	中日新聞　12 面	近江八幡・沖島小　130 周年で創作「江州音頭」 保存会有志ら 文化祭で披露 （本文より）県立大の学生による「○×クイズ」 も盛り上がった
27	2023.2.17	沖島 RYUBOKU HUT	読売新聞しが県民情報 1面	島民ら憩う流木建築 県立大生制作　交流拠点へ機能整備
28	2022.6.24	Taga-Town-Project	京都新聞　22 面	多賀の魅力マップに　県立大生 5 人、大社門前 一帯訪ね 飲食や土産物 32 店　豆知識も掲載
29	2022.6.25	Taga-Town-Project	中日新聞　17 面	グルメやおみやげ　一日で 県立大生作成 多賀大社周辺　新マップ
30	2022.7.2	Taga-Town-Project	滋賀彦根新聞	「多賀」紹介　新しいマップ完成 県立大生デザイン、飲食と土産品
31	2022.8.26	Taga-Town-Project	広報 たが　8月号	「多賀・絵馬通り グルメ＆おみやげ さんさくマップ」 「多賀大社周辺散策マップ」完成報告会
32	2022.11.1	座・沖島	中日新聞　12 面	沖島の味「まるしぇ」で堪能 島内外 20 店　湖魚料理やスイーツなど販売
33	2022.6.15	男鬼プロジェクト	YouTube　historica	男鬼集落 - 廃村から 50 年経過した集落に復興 の兆し?
34	2022.9.28	男鬼プロジェクト	YouTube　historica	男鬼プロジェクト - 廃村から半世紀が経過する 集落を再生する活動を取材
35	2022.4.25	近江楽座	毎日新聞　23 面	地域貢献の成果披露　県立大「近江楽座」学 生 23 チーム
36	2022.12.19	近江楽座	ZTV 彦根放送局	「おうみ！かわら版彦根」　近江楽座 中間報告会

7-3 近江楽座・活動安全マニュアル

近江楽座・活動安全マニュアル（活動場面と注意事項）（2022.10.17 版）
＜プロジェクト共通事項 編＞

このマニュアルは、全てのプロジェクトに共通する安全管理について、展開される活動の場面ごとに注意すべき事柄を取り上げています。しかし、これで万全というわけではありません。危機対応には次の3つのステップがあります。

【知る】（どんなリスクが存在するかを「知る」）

【予測】（どんなリスクが発生するかを「予測」する）

【対応】（そのリスクを未然に防ぐ「準備」、発生した場合の「対処」について検討・実施）

事前に想定できるリスクのうち、予測・準備・対応を行うことでリスクそのものを回避・軽減すること（リスクヘッジ）ができます。プロジェクトによって活動内容が異なりますので、自分たちのプロジェクトの内容に沿った安全管理についてメンバーで話し合い、個別のマニュアルも作成してください。

1．活動の準備段階

☺(1) 目標を立てよう

活動を進めていく上では、関わるメンバー全員が活動に参加している意識を持つことが大切です。そのために、まずチームとしての1年間の目標、そして、関わるメンバーがそれぞれ活動を通じての目標を設定してみましょう。

☺(2) 役割分担を決めよう

一部の学生に作業が集中しないよう、リーダーやサブリーダー、会計、記録担当など、上手に役割を分担し、協力し合いましょう。

☺(3) チームで情報を共有しよう

ミーティングで決まったことや事務局からの連絡事項など、チームメンバー全員で共有するようにしましょう。緊急の場合の連絡先や連絡体制をあらかじめ決めておきましょう。

☺(4) 地域、関係団体等との事前調整、説明をしっかりしよう

楽座の活動は地域や関係団体の皆さんのご理解や協力がなければ成り立ちません。活動計画を立てるに当たっては必要に応じて、関係の皆さんと事前調整、説明をし、理解を得ましょう。

☺(5) 活動計画を提出しましょう

毎月の活動計画書を前月15日までに事務局に提出しましょう。事務局から活動内容の確認や修正の指示があった場合はすぐに対応し、相談しましょう。

☺(6) 新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底しましょう

近江楽座の活動は地域に入って行うため、他人に感染させない、自分も感染しないよう万全の感染対策をとりましょう。

2．地域で活動する

☺(1) きちんとあいさつをしよう、地域のルールを守ろう

楽座では地域で活動します。地域におじゃまし、地域の人たちが普通に生活されておられる中で活動をさせていただくわけですから、礼儀が必要です。きちんと挨拶をする。ルールを守る。迷惑をおかけしない。お世話になる方々や周りの方たちには常に敬意を持って、接しましょう。

☺(2) 協力団体との連携を密にしよう

活動に協力していただく地域団体との協働関係をなくして、活動は成り立ちません。活動時には必要な説明をするとともに、メンバー間で定期的なミーティングを行い、意思疎通、連携を図るとともに、連絡事項や決まったことはコアメンバーだけでなく、全員で情報を共有するようにしましょう。

☺(3) 活動計画等を共有しよう

多くの人が参加する活動においては、物資等準備を行い、関係者の協力や実施体制を決め、実行計画書を作成し事前にメンバー全員で共有しましょう。また参加者が多い場合は、班分けし責任者を決めるなど各参加者が自らの役割を認識し責任ある行動をとれるようにしましょう。

☺(4) 作業やイベントの直前に短時間のミーティングをしよう

当日の活動に潜む危険を短時間で話し合い、安全・健康管理、事故防止・対応などを共有しましょう。気づいた危険に対する対策を決め、行動目標を立て、一人ひとりが実践するようにしましょう。そして、要所、要所で心を込めて指差し呼称をしましょう。

【危険予知(KY)活動】－(○○ヨシ！　△△ヨシ！　□□ヨシ！)

☺(5) 道具の扱いには細心の注意を払おう

建物改修や環境整備、イベント、調理などでは、様々な道具を使用します。特に危険を伴う道具や普段使い慣れていない道具を扱う時は、ケガをしないよう、必要な服装・装備で、集中して細心の注意を払って作業をしましょう。先輩が後輩を、熟練者が未熟練者をしっかり指導しましょう。

☺(6) 整理整頓をしよう

活動には多くのメンバーが参加します。あらかじめ道具などを片付ける場所を決めておいて、次に使う人が使いやすいように整理整頓、整備をしましょう。また、安全に効率よく作業を行うには、作業動線を確保することが大切です。現場を片付け、清掃することは活動の基本です！！

☺(7) 火災及び盗難に注意しましょう

各施設を使用する場合は火災の発生に特に注意し、消火器の場所も確認しましょう。盗難が発生することがあるので、ドアや窓の戸締り、貴重品の管理等はメンバーで責任もって行いましょう。

3．移動に自家用車を利用する

☺(1) 事故を防ぎましょう

運転手は自己の体調管理をしっかり行い、安全運転と乗員の安全確保を充分に行いましょう。無理をしないようにしましょう。同乗者も運転手をサポートしましょう。

4．事前の備えをする

☺(1) 保険に加入しましょう

多くの部外者を集めて行うイベントなどでは、万一に備えてボランティア保険に加入しましょう。また、建物等の利用だけでなく管理も行う場合は、所有者と話し合って火災保険等に加入しましょう。

☺(2) 法令を遵守し届け出を行ったり、必要な安全講習を受けましょう

たとえば喫茶営業を行う場合、県条例に基づき食品衛生責任者を置かなければなりません。責任者になるためには一定の要件があり、養成講習の受講等が必要です。また、チェーンソーや草刈り機など危険を伴う道具を扱う必要がある場合は、専門機関や関係団体が行っている安全講習を受けましょう。活動内容や場所によっては、事前の届出や許可を得る必要のある場合があるため、消防や警察等への届け出を含め、予め確認の上、実施前に所定の手続きをしましょう。

☺(3) 災害から身を守りましょう

誰もが、地震や台風、雪害などの自然災害や事故等の人為災害に遭遇する可能性があります。日頃からの心の準備と備え、日程の変更や防ぐ手だてを尽くしながら、危険性を感じたら、一人ひとりの命を大切に「逃げる」ことを考えましょう。

5．報連相（報告・連絡・相談をする）

☺(1) 活動実績報告書を提出しましょう

活動を行った場合は翌月 15 日までに活動実績を提出しましょう。

☺(2) 報連相（ほうれんそう）をしましょう

悪いことほど早く報告・連絡・相談をしましょう。失敗は隠さず蓄積し、蓄積されたノウハウをメンバーで共有し、後輩に引き継ぎましょう。

6．事故等が起こった場合の対応

☺(1) 応急対応

事故が発生した場合は傷病者に対して速やかに手当てを行うと同時に、周囲の状況をよく観察し、他のメンバーや関係者の安全を確保し、被害の拡大防止に努めましょう。

☺(2) 連絡体制

活動中に事故が発生した場合は、次のとおり楽座事務局、顧問の先生に連絡しましょう。緊急の場合は 119 番通報、最寄りの医療機関、必要に応じて警察に連絡しましょう。日頃から事故等の発

生した場合の救急体制の確認をするとともに、メンバー間の緊急連絡網の作成など事前の備えを十分に行いましょう。

☺(3)事故届

事故が発生した場合は、事務局に事故届を提出しましょう。

7．その他

☺(1)個人情報の取扱い

関係団体やメンバーの個人情報を保有する場合は必要最小限のメンバー限りとし、当人の承諾なしに第三者へ提供や漏洩がないように十分に注意しましょう。

☺(2)著作権の侵害

市販等されている冊子等を複写して使用する場合は、必要に応じ著作権者からの許諾を得るなど著作権を侵害しないように十分に注意しましょう。

【困った時の相談窓口】

○各プロジェクトの指導教員（日頃から活動内容を伝え、コミュニケーションを！）
○近江楽座事務局（交流センター、TEL:0749-28-8616、メール info@ohmirakuza.net）

7-4 お知らせ

チームへのお知らせ

配信日	タイトル	内容
2022.4.25	2022 年度プロジェクトの募集を開始しました	2022 年度プロジェクトの募集開始のお知らせ
2022.5.18	2022 年度近江楽座プレゼンテーション要領について	2022 年度近江楽座に申請したチームへプレゼンテーション要領を通知
2022.6.6	危機対応講習 第1回「ボランティア活動における実践的安全管理」について	危機対応講習 第1回「ボランティア活動における実践的安全管理」の開催告知と日程調整依頼
2022.7.13	「LINKtopos2022(全国公立大学学生大会)」の参加者募集について	「LINKtopos2022（全国公立大学学生大会）」参加チーム募集の案内
2022.7.13	危機対応講習 第2回「交通事故防止」について	危機対応講習 第2回「交通事故防止」開催のお知らせ
2022.7.20	【学生ボランティア団体活動体験レポート】募集案内	「学生ボランティア団体活動体験レポート」に応募するチームの募集
2022.7.29	【甲賀市主催】若者政策アイデアコンテスト参加者募集について	甲賀市主催の若者アイデアコンテストの参加者募集案内
2022.9.26	エクシブ琵琶湖様からのコラボ企画について	エクシブ琵琶湖さんとのコラボを希望するチームの募集
2022.9.30	第1回代表者会議について	第1回代表者会議開催日程のお知らせ
2022.10.7	活動助成金中間ヒアリングについて	活動助成金中間ヒアリングの日程のお知らせ
2022.11.5	SDGs ウィークの活動展示物について	SDGs ウィークに活動展示を行うチームの募集
2022.11.7	SDGs ウイークの活動展示について	SDGs ウィークのプロジェクト活動展示のお知らせ
2022.11.11	近江楽座 Instagram のリポストについて	近江楽座のインスタでリポストを行うにあたってのチームへのお願い
2022.11.11	冬野菜の収穫体験と農家さんとの交流企画について	滋賀県日野町の農家さんとの交流企画の案内
2022.11.16	第2回代表者会議について	第2回代表者会議開催日程のお知らせ
2022.12.1	2022 近江楽座中間報告会開催について	中間報告会の開催内容のお知らせ
2023.1.11	令和4年度「しがこども体験活動実践交流会」の開催について	「しがこども体験活動実践交流会」の参加者募集
2023.1.30	企業とコラボしたウェブマガジンの制作について	今年度で解散するプロジェクの事業を継承できるチームの募集
2023.2.3	2022 年度活動実績報告についてのお知らせ	活動実績報告作成要領の通知（提出期限：3 月 15 日）
2023.2.7	「2022 近畿 LINKtopos」について	「2022 近畿 LINKtopos」への参加チームの募集
2023.2.15	活動助成金最終ヒアリング日程について	活動助成金最終ヒアリング日程のお知らせ
2023.3.9	開出今団地シェアハウス入居者募集について	開出今団地シェアハウスへの入居者の募集
2023.3.17	2022 年度 活動成果報告会について	活動成果報告会の日程通知
2023.4.3	2022 年度 活動成果報告会の発表用資料の提出について	活動成果報告会開催概要と発表用資料作成要領の通知
2023.4.11	2023 年度合同説明会を開催します	合同説明会参加チームと日程のお知らせ

近江楽座ホームページ掲載お知らせ

掲載日	タイトル	内容
2022.4.13	「近江楽座」プロジェクトについて説明会を有志チームが開催します	学生によるプロジェクト説明会の開催について
2022.4.25	2022 年度近江楽座プロジェクト募集（4/26 ～ 5/16) を開始します	2022 年度プロジェクト募集について
2022.5.25	2022 年度近江楽座（学内限定）公開プレ ゼンテーションの開催について（5/28)	2022 年度「近江楽座」採択に向けて行われるプレゼンテーションの開催について
2022.6.2	2022 年度「近江楽座プロジェクト」審査結果発表	2022 年度「近江楽座」に採択されたプロジェクトについて
2022.6.20	危機対応講習（全 2 回）を開催します（6/28・7/15)	地域活動・ボランティア活動等を安全に行なっていくための講習の開催について
2022.7.1	2022年度近江楽座Aプロジェクトの追加募集について	A プロジェクト（学生主体型プロジェクト）の追加募集について
2022.7.25	2022年度Aプロジェクト追加募集の審査結果発表	追加募集で採択された A プロジェクトの審査結果発表について
2022.11.7	「とよさと快蔵プロジェクト」が電通育英会の会報に掲載されました	「とよさと快蔵プロジェクト」が電通育英会の広報誌に掲載されたことについて
2022.12.1	『地域活動の今を考える』～先輩を交えた情報交換会～を開催します・「2022年度近江楽座中間報告会」にて	「2022 年度近江楽座中間報告会」開催について
2023.2.3	2022年度中間報告会「地域活動の今を考える」を開催しました	「2022 年度中間報告会」実施報告について
2023.2.8	“ボランティアサークル Harmony” が「京都新聞福祉奨励賞」を受賞しました	「京都新聞福祉奨励賞」受賞と滋賀県立大学理事長への受賞報告について
2023.3.31	2022 年度近江楽座活動成果報告会を開催します	2022 年度近江楽座活動成果報告会の開催について
2023.4.6	2023 年度 近江楽座合同説明会を開催します	合同説明会の開催と参加チームの日程について

公立大学法人　滋賀県立大学

スチューデントファーム「近江楽座」

まち・むら・くらしふれあい工舎

2022 年度活動報告書

2024 年 2 月発行

発行	公立大学法人　滋賀県立大学
	地域共生センター
	〒 522-8533　滋賀県彦根市八坂町 2500
	TEL. 0749-28-8616　FAX. 0749-28-8473
企画・編集	近江楽座事務局
印刷・製本	近江印刷株式会社
構成・デザイン	秦 憲志・石見春香

本書の一部あるいは全部を無断で複写・複製、転載することは禁止されています

最新情報は、近江楽座ホームページ：http://ohmirakuza.net/ をぜひ御覧ください

近江楽座
まち・むら・くらしふれあい工舎